

全国保育士会
社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会
「中間のとりまとめ」について

令和5年3月



社会福祉法人 全国社会福祉協議会
全国保育士会

全国保育士会倫理綱領

すべての子どもは、豊かな愛情のなかで心身ともに健やかに育てられ、自ら伸びていく無限の可能性を持っています。

私たちは、子どもが現在(いま)を幸せに生活し、未来(あす)を生きる力を育てる保育の仕事に誇りと責任をもって、自らの人間性と専門性の向上に努め、一人ひとりの子どもを心から尊重し、次のことを行います。

私たちは、子どもの育ちを支えます。

私たちは、保護者の子育てを支えます。

私たちは、子どもと子育てにやさしい社会をつくります。

(子どもの最善の利益の尊重)

1. 私たちは、一人ひとりの子どもの最善の利益を第一に考え、保育を通してその福祉を積極的に増進するよう努めます。

(子どもの発達保障)

2. 私たちは、養護と教育が一体となった保育を通して、一人ひとりの子どもが心身ともに健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、生きる喜びと力を育むことを基本として、その健やかな育ちを支えます。

(保護者との協力)

3. 私たちは、子どもと保護者のおかれた状況や意向を受けとめ、保護者とより良い協力関係を築きながら、子どもの育ちや子育てを支えます。

(プライバシーの保護)

4. 私たちは、一人ひとりのプライバシーを保護するため、保育を通して知り得た個人の情報や秘密を守ります。

(チームワークと自己評価)

5. 私たちは、職場におけるチームワークや、関係する他の専門機関との連携を大切にします。

また、自らの行う保育について、常に子どもの視点に立って自己評価を行い、保育の質の向上を図ります。

(利用者の代弁)

6. 私たちは、日々の保育や子育て支援の活動を通して子どものニーズを受けとめ、子どもの立場に立ってそれを代弁します。

また、子育てをしているすべての保護者のニーズを受けとめ、それを代弁していくことも重要な役割と考え、行動します。

(地域の子育て支援)

7. 私たちは、地域の人々や関係機関とともに子育てを支援し、そのネットワークにより、地域で子どもを育てる環境づくりに努めます。

(専門職としての責務)

8. 私たちは、研修や自己研鑽を通して、常に自らの人間性と専門性の向上に努め、専門職としての責務を果たします。

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
全国保育協議会
全国保育士会

時代の変化を見つめ、次代の保育を見据える

～社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会「中間のとりまとめ」発刊に寄せて～

混迷を極める現代社会において、子どもの育ちや学びを保障し続けるための持続可能な保育の実現に向けて保育専門職としての保育士や保育教諭（以下、総称して保育者）、さらには各施設の管理職者としての働きに対してこれまで以上に大きな期待が寄せられています。矢継ぎ早に繰り出される国や各自治体の保育関連施策等は、まさにそのことを物語っているのではないのでしょうか。

周知の通り、厚生労働省においては、2018年5月に開始された「保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会」による議論等を皮切りに、2020年3月には「保育所における自己評価ガイドライン」¹の改訂、並びに「保育所における自己評価ガイドラインハンドブック」²の発刊、同年9月には「保育の現場・職業の魅力向上検討会」による検討報告書³の公表など、保育実践の質の確保・維持、そして向上に向けた取り組みにかかる方向性が示されてきました。さらに2021年12月に公表された「地域における保育所・保育士等の在り方に関する検討会」による議論のとりまとめ⁴においては、待機児童問題への対応に代表される保育施設の量的な拡充から、人口減少社会における子どもやその保護者、地域にとって求められる「良質な保育を提供し続ける」こと、すなわち保育の質的な拡充に向けた諸々の動きを加速させていくことの必要性が謳われることになりました。

こうした中、本特別委員会では、改めて保育専門職としての自律性を拠り所とした保育内容等の検討と保育実践のありようをめぐる議論を重ねてきました。とりわけ、2017年度に改定（訂）された現行の「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容を改めて紐解くと共に、改定（訂）後の保育施策の動向からみる保育所や認定こども園、またその場に従事する保育者への期待や社会的な役割について再確認してきました。同時に、コロナ禍による影響をはじめとするさまざまに指摘される社会の変化の中、次代の保育を見据えた保育内容等の検討に向けて、これまでの保育実践の成果の共有と課題の抽出に取り組みつつ、全国保育士会として共有したい方向目標のあぶりだしが試みられてきました。さらに、本年（2023年）2月には、本委員会の取り組みを基盤としつつ、令和4年度都道府県・指定都市保育士会の正副会長を対象としたセミナーも開催されました。グループワークを中心に、各地の代表者として語り合い、忌憚なく意見を出し合っただき、保育専門職組織としての「社会の変化に対応した保育」と「社会に変化を巻き起こす保育」について議論され、その内容も含めこの『中間のとりまとめ』が生まれました。

¹ 巻末資料1 QRコード参照

² 巻末資料2 QRコード参照

³ 巻末資料3 QRコード参照

⁴ 巻末資料4 QRコード参照

最後にこの特別委員会ですが、次頁に示された本委員会の趣旨に鑑み、この『中間のとりまとめ』の内容をふまえつつ、次年度（2023年度）も引き続き開催される予定です。来る、次期の保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改定（訂）に資する基礎資料の作成や、今年度十分に議論できなかった「地域支援事業に向けた取り組み」、「主任保育士・主幹保育教諭としての役割や業務内容の整理等にかかる現状（成果と課題）」についても議論される予定です。

次年度は一部の代表者の方々の声のみならず、全国の保育者のみなさまの声を本委員会宛に届けていただくための調査が予定されています。保育の専門職者としての自律性をもってご協力をいただきたくお願い申し上げます。

こども家庭庁を中心とした新たなこども関連施策展開の動きも注視しつつ、今年度（2022年度）同様に、保育者としての「実感」というエビデンスを大切に、さらには子どもの最善の利益の保障に通じる社会的な変化を後押しできる科学的根拠というエビデンスの蓄積を会員のみなさまとともに図ってまいりたいと思います。

2023年3月

社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会
委員長 那須 信樹（中村学園大学）

目次

はじめに 那須 信樹 氏（社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会 委員長
／中村学園大学 教授）

目次

第1部 社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会の概要

第1章 特別委員会の趣旨	6
第2章 令和4年度における作業内容	9
第3章 保育所・認定こども園における「中間のとりまとめ」の活用 の提案	12

第2部 社会の変化に対応した保育内容等の検証と今後の展望

第1章 「乳児保育」に関するねらい及び内容の視点から	16
第2章 「1歳以上3歳未満児保育」に関するねらい及び内容の視点から	40
第3章 「3歳以上児保育」に関するねらい及び内容の視点から	95
第4章 「中間のとりまとめ」の総括と令和5年度に向けて	171

榊原 久子 氏（社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会 委員
／鎌倉女子大学 准教授）

巻末資料	175
------	-----

第1部

社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会の概要

第1章

本特別委員会の趣旨

本特別委員会の趣旨

(1) 特別委員会設置の趣旨について

- 少子高齢化の急速な進行による人口減少、核家族化や就業形態の変化、新型コロナウイルス感染症の拡大等の影響により、保育を取り巻く環境は大きく変化し続けています。さらに、令和6年4月に施行される改正児童福祉法においては、児童虐待防止の取り組みのさらなる促進を目的に、地域の子どもや子育て家庭支援の一環として、保育所・認定こども園等（以下、保育所等）に対して、いわゆる「かかりつけ相談機関」の役割が期待されています。
- すべての子どもは、豊かな愛情のなかで心身ともに健やかに育てられる存在です。全国保育士会では、上記のような状況においても、保育士・保育教諭等が「子どもの最善の利益」を保障し続けるとともに、地域の子育て家庭支援における専門性の発揮等に関して検討を進めることを目的に、「社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会」を設置しました。
- 本特別委員会における主な検討事項は以下のとおりです。
 - **「社会の変化に対応した保育内容」について**
「保育所保育指針」に立ち返り、「保育の内容」や「内容の取扱い」と保育現場を照らしながら、子どもの育ちに最適な保育内容に必要な要素等について検討・整理を行う。
 - **「地域支援事業に向けた取り組み」について**
保育者の専門性の観点から、具体的に考えられる地域支援の内容や、多職種・多機関との連携も含めた取り組みの展開にあたって必要となる体制等について検討・整理を行う。
- 令和4年度は特に、「社会の変化に対応した保育内容」に関する検討作業を進めてきました。これまでの作業状況については、9ページの「令和4年度における作業内容」および、第2部および別途公表の「作業シート」をご参照ください。

(2) 令和5年度以降の展開

- 令和5年度以降については、「中間のとりまとめ」を踏まえながら、更なる検討を進めていきます。
- 具体的には、施設長や主任保育士・主幹保育教諭等を対象にした調査を行い、「質の高い保育」を提供し続けるために必要な要素に関するエビデンスの収集を行う予定です。さらに、その要素の確保に向けて必要な対応の検討を行うとともに、検討を踏まえて広く社会へ発信していきたいと考えています。
- また、「地域支援事業に向けた取り組み」についても随時検討を開始していきます。
- 加えて、「社会の変化に対応した保育内容」の提供や、「地域支援事業」の取り組みに

あたっては、主任保育士・主幹保育教諭の関与が非常に重要になります。

- 一方で、主任保育士・主幹保育教諭が担う業務はすでに膨大な量となっている状況があり、その役割や業務内容について改めて整理することが必要です。
- そのため、「社会の変化に対応した保育内容」や、「地域支援事業に向けた取り組み」の整理を踏まえて、主任保育士・主幹保育教諭に関する検討も進めていきたいと考えています。

第2章

令和4年度における作業内容

令和4年度における作業内容

(1) 令和4年度に行った作業の流れ

- 令和4年度は主に以下の作業を進めました。その結果については、「作業シート」(2種類)にまとめています。

	作業内容	対応する「作業シート」の箇所
作業①	社会が変化し続ける中において、保育所保育指針の保育の「ねらい」「内容」「内容の取扱い」に照らして、保育の現状等を整理しました。	「保育所保育指針と照らした現状の整理」 ▶ A：社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等 ▶ B：コロナ禍において見直しを行った保育内容や、現時点においても課題になっている事項
作業②	作業「①」のA・Bを踏まえ、課題の解消等に向けて今後必要と考えられる要素を挙げました。	「A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素」
作業③	作業「①」「②」を踏まえて、今後、具体的な検討が必要だと考えられる視点を整理しています。	「今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点」

(2) 作業シートの見方

- 「作業シート」(2種類)は、「(1) 令和4年度に行った作業の流れ」に記載している作業の結果を取りまとめたものです。
- 別途公表の『「社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会」作業シートの見方』では、作業シートの各項目がどのような目的・方法で記載されているかを説明していますので、「作業シート」をご確認いただくにあたってご参考ください。
- また、「作業シート」(2種類)の主な違いは以下のとおりです。ご状況に合わせてご活用ください。

作業シート (別途公表)	▶ 作業①～③を1ページに表示しているため、作業の流れや課題と必要な対応の関連が分かりやすい整理となっています。
作業シート (第2部に掲載)	▶ 「作業シート」の要素はそのままに、切り分けて表示することによって読みやすい整理となっています。 ▶ また、「内容」と「内容の取扱い」の関連も分かりやすい表示となっています。

全国保育士会「社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会」作業シート「作業シート」の見方

※「作業シート(切り分け版)」は、文字の読みやすさを考慮し、作業シート(表紙版)の内容を切り分け掲載しているものです。そのため、作業シート(表紙版)を基にした説明となっておりますが、含まれている要素(作業シート)の見方に変わりはありません。

～「乳児保育」に関わるねらい及び内容

<p>保育所保育指針における「ねらい」</p> <p>7. 心身の健康に関する領域「健康」</p> <p>① 明るく伸び伸びと行動し、五感を味わおう。</p> <p>② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しよう。</p> <p>③ 自衛、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付けよう。</p>	<p>保育所保育指針の5領域(3つの視点)の記載に照らして、保育現場の現状の課題等を整理</p> <p>しています。</p>	<p>保育現場の現状を踏まえて、課題等の改善に必要な要素</p> <p>を書きだしています。</p>	<p>具体的にどのような検討を行い、社会に発信していく必要があるのか</p> <p>左記を踏まえて、</p> <p>「具体的にどのような検討を行い、社会に発信していく必要があるのか」</p>
<p>保育所保育指針における「保育の内容」および「内容の取扱い」</p> <p>① 保育士等の愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする。</p> <p>② 一人一人の発達に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす。</p> <p>③ 一人一人の発達に応じて、離乳を準備していく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることが楽しむ。</p> <p>④ 一人一人の生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をする。</p> <p>⑤ おむつ交換や衣類の着脱などを通して、清潔になることの心地よさを感じる。</p> <p>⑥ 心と体の健康は、相互に密接な関係があるものであることを踏まえ、温かい抱擁や会話の中で心と体の発達を促すこと。特に、寝返り、お座り、はいはい、つかまり立ち、伝い歩きなど、発育に応じて、遊びの中で体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにする。</p> <p>⑦ 健康な心と体を育てるためには、正しい食習慣の形成が必要であること。また、離乳食が完了し、徐々に移行する中で、様々な食品に慣れるようにするとともに、和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちや育つようにする。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、保健師等の指示や協力の下に適切に対応すること。</p>	<p>保育所保育指針と照らした現状の整理</p> <p>B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等</p> <p>① 「A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等」について</p> <p>⇒少子高齢化の急速な進展による人口減少や核家族化、就業形態の変化、地域コミュニティの機能低下等、コロナ禍以前からの課題等により、保育にどのような影響が生じているかを整理しています。</p> <p>② 「B:コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等」について</p> <p>⇒コロナ禍において、コロナ禍以前の保育の継続が困難になるなかで、保育者の創意工夫等により実施可能なとなった保育内容や、新たな課題について整理しています。また、コロナ禍の対応等を踏まえ、今後も継続や検討が必要な事項も含んでいます。</p>	<p>A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素</p> <p>(別添改正(人権確保等含む)や新制等におけるし(表紙版))</p>	<p>今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点(「中間のとまりとめ」に向けて)</p> <p>※題への広え方等については、委員会にて検討が必要</p>
<p>例</p> <p>保育所保育指針の「保育の内容」の取扱い</p> <p>① 健康な心と体を育てるためには、正しい食習慣の形成が必要であること。また、離乳食が完了し、徐々に移行する中で、様々な食品に慣れるようにするとともに、和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちや育つようにする。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、保健師等の指示や協力の下に適切に対応すること。</p>	<p>例</p> <p>保育所保育指針の「保育の内容」の取扱い</p> <p>① 「A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等」について</p> <p>⇒少子高齢化の急速な進展による人口減少や核家族化、就業形態の変化、地域コミュニティの機能低下等、コロナ禍以前からの課題等により、保育にどのような影響が生じているかを整理しています。</p>	<p>例</p> <p>保育所保育指針の「保育の内容」の取扱い</p> <p>① 健康な心と体を育てるためには、正しい食習慣の形成が必要であること。また、離乳食が完了し、徐々に移行する中で、様々な食品に慣れるようにするとともに、和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちや育つようにする。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、保健師等の指示や協力の下に適切に対応すること。</p>	<p>例</p> <p>保育所保育指針の「保育の内容」の取扱い</p> <p>① 健康な心と体を育てるためには、正しい食習慣の形成が必要であること。また、離乳食が完了し、徐々に移行する中で、様々な食品に慣れるようにするとともに、和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちや育つようにする。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、保健師等の指示や協力の下に適切に対応すること。</p>
<p>例</p> <p>保育所保育指針の「保育の内容」の取扱い</p> <p>① 健康な心と体を育てるためには、正しい食習慣の形成が必要であること。また、離乳食が完了し、徐々に移行する中で、様々な食品に慣れるようにするとともに、和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちや育つようにする。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、保健師等の指示や協力の下に適切に対応すること。</p>	<p>例</p> <p>保育所保育指針の「保育の内容」の取扱い</p> <p>① 「A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等」について</p> <p>⇒少子高齢化の急速な進展による人口減少や核家族化、就業形態の変化、地域コミュニティの機能低下等、コロナ禍以前からの課題等により、保育にどのような影響が生じているかを整理しています。</p>	<p>例</p> <p>保育所保育指針の「保育の内容」の取扱い</p> <p>① 健康な心と体を育てるためには、正しい食習慣の形成が必要であること。また、離乳食が完了し、徐々に移行する中で、様々な食品に慣れるようにするとともに、和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちや育つようにする。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、保健師等の指示や協力の下に適切に対応すること。</p>	<p>例</p> <p>保育所保育指針の「保育の内容」の取扱い</p> <p>① 健康な心と体を育てるためには、正しい食習慣の形成が必要であること。また、離乳食が完了し、徐々に移行する中で、様々な食品に慣れるようにするとともに、和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちや育つようにする。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、保健師等の指示や協力の下に適切に対応すること。</p>
<p>例</p> <p>保育所保育指針の「保育の内容」の取扱い</p> <p>① 健康な心と体を育てるためには、正しい食習慣の形成が必要であること。また、離乳食が完了し、徐々に移行する中で、様々な食品に慣れるようにするとともに、和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちや育つようにする。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、保健師等の指示や協力の下に適切に対応すること。</p>	<p>例</p> <p>保育所保育指針の「保育の内容」の取扱い</p> <p>① 「A:社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等」について</p> <p>⇒少子高齢化の急速な進展による人口減少や核家族化、就業形態の変化、地域コミュニティの機能低下等、コロナ禍以前からの課題等により、保育にどのような影響が生じているかを整理しています。</p>	<p>例</p> <p>保育所保育指針の「保育の内容」の取扱い</p> <p>① 健康な心と体を育てるためには、正しい食習慣の形成が必要であること。また、離乳食が完了し、徐々に移行する中で、様々な食品に慣れるようにするとともに、和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちや育つようにする。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、保健師等の指示や協力の下に適切に対応すること。</p>	<p>例</p> <p>保育所保育指針の「保育の内容」の取扱い</p> <p>① 健康な心と体を育てるためには、正しい食習慣の形成が必要であること。また、離乳食が完了し、徐々に移行する中で、様々な食品に慣れるようにするとともに、和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちや育つようにする。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、保健師等の指示や協力の下に適切に対応すること。</p>

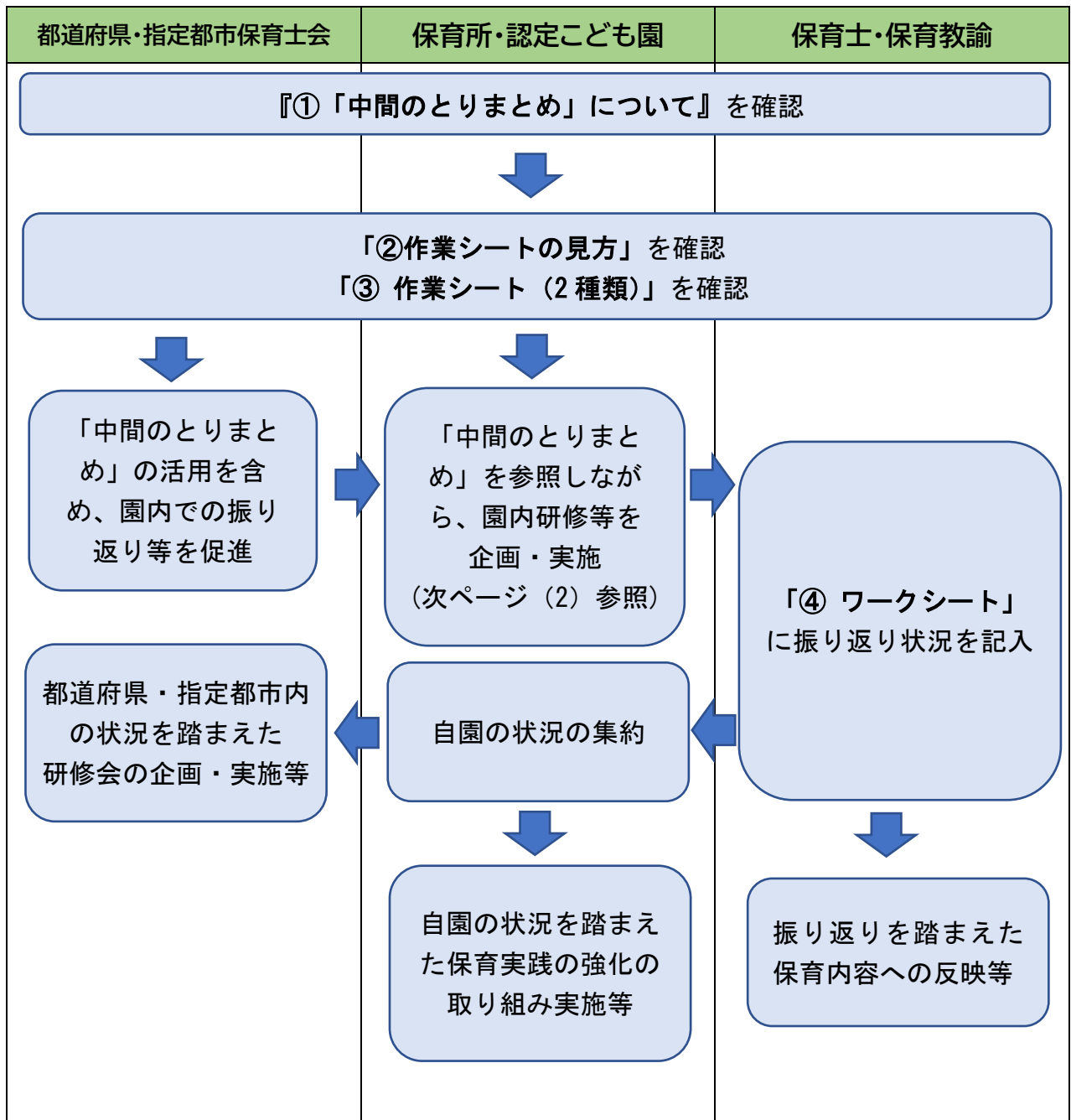
第3章

保育所・認定こども園等における「中間のとりまとめ」の活用

保育所・認定こども園等における「中間のとりまとめ」の活用

(1) 「中間のとりまとめ」の活用の流れ

- 「中間のとりまとめ」において公表（全国保育士会ホームページ）している資料は以下のとおりです。
 - ① 「中間のとりまとめ」について
 - ② 「社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会」作業シートの見方
 - ③ 作業シート（2種類）
 - ④ ワークシート
- ここでは、「中間のとりまとめ」をご活用いただくにあたっての一例をご紹介します。



(2) 園内研修等での活用

- 「中間のとりまとめ」で示している本特別委員会における作業は、日々の保育の状況を振り返り、今後の保育実践でより意識して取り組むべきことの確認につながるものでもあります。
- これは、保育士・保育教諭による「自己評価」の取り組みに通ずるものです。各保育所・認定こども園等においても、「中間のとりまとめ」をご参照いただきながら、今一度「保育所保育指針」や「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に立ち返り、自園の保育がどのような状況であるかを振り返ってみてください。
- 以下では、園内研修の流れの一例をご紹介します。各園の状況に合わせて、実施方法や時間等を調整してください。

①研修の趣旨説明	➤ 園長や主任保育士・主幹保育教諭等から研修会の趣旨を説明します。
②研修の流れの説明	➤ どのような流れ、時間配分で研修を進行するか説明します。
③各グループ内の役割決定	➤ グループワークの円滑な進行にあたり、グループ内でファシリテーターや記録係等を決定します。
④各グループでの作業	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 保育所保育指針の「ねらい」「保育の内容」「内容の取扱い」と自園の状況を照らし合わせて振り返りや、課題の改善に必要な要素を話し合います。（「第2章 令和4年度における作業内容」の「(1)」に記載の作業①～③の流れにあたります） ➤ 保育所保育指針の「ねらい」の数が複数あるため、グループごとに担当する「ねらい」を振り分けたり、複数回に分けて実施することも考えられます。
⑤各グループの発表	➤ 各グループで話し合われた内容を共有します。
⑥まとめ	➤ 園長や主任保育士・主幹保育教諭等からまとめを行います。

- なお、「中間のとりまとめ」で公表している資料「④ワークシート」は、園内研修や自己評価の取り組みにおいてご活用ください。



第2部

社会の変化に対応した保育内容等の検証と今後の展望

第1章

「乳児保育」に関するねらい及び内容の視点から

保育所保育指針「乳児保育に関わるねらい及び内容」と照らした整理

ア. 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」

○ ねらい

- ① 身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。
- ② 伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。
- ③ 食事、睡眠等の生活リズムの感覚が芽生える。

○ 内容

- ① 保育士等の愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、温かい触れ合いの中で心と体の発達を促すこと。特に、寝返り、お座り、はいはい、つかまり立ち、伝い歩きなど、発育に応じて、遊びの中で体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。

➤ 内容①および内容の取扱い①と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<input type="checkbox"/> 就労形態が多様化され、延長保育、休日、病児保育など利用する子どもは、長時間保育、生活する場所が変わることもあり、情緒の安定が難しい。 <input type="checkbox"/> 保育士の愛情が当たり前にあるものなのか保育士の資質が均等なのか <input type="checkbox"/> 核家族化が進み、母親との愛着形成が十分でないままに、保育園に来ている子どもも見かける。 <input type="checkbox"/> 家庭で這い這いをせずにつかまり立つ子どもが増えている。その為か転倒して怪我につながるが多い。 <input type="checkbox"/> 1,2歳児に向けた活動やルールが0歳児には難しいことが多く、中止させられたり、規制されたりする場が多々ある。	<input type="checkbox"/> 感染を防ぐため、向かい合わせに抱かない、至近距離で言葉掛けしないよう気を配る。 <input type="checkbox"/> 体調が悪くなった子どもは別室で保護者が来るまで保育を行っているので、クラス保育をする保育士が欠けてしまう。 <input type="checkbox"/> コロナだろうとなんだろうと、乳児保育は変わらないと思う。 <input type="checkbox"/> マスクを着けたままで、笑顔や言葉を傾けるが、十分に伝わっていない気がする。 <input type="checkbox"/> 1対1の対応が必要な際、園児6人であれば職員2人体制で、個人対応と集団対応に分かれることができるが、1人体制では自律授乳が難しいのではないかと。 <input type="checkbox"/> コロナ禍でスキンシップをしていると15分抱いていたらその子がコロナ陽性であった場合濃厚接触者になってしまう。スキンシップを失くすことは出来ないのでは難しさを感じる。

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」

○ 内容

② 一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、温かい触れ合いの中で心と体の発達を促すこと。特に、寝返り、お座り、はいはい、つかまり立ち、伝い歩きなど、発育に応じて、遊びの中で体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。

➤ 内容②および内容の取扱い①と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□家庭の生活スタイルの変化により、ほふくの保障が難しいのでは？ 這う経験が不足している子どもが多い。</p> <p>□待機児童対策で条件緩和のもとで作られた小規模園では、ほふく室がなく、十分な確保とは言えない。</p> <p>□家庭で這い這いをせずにつかまり立つ子どもが増えている。その為か転倒して怪我につながることが多い。</p> <p>□1,2歳児に向けた活動やルールが0歳児には難しいことが多く、中止させられたり、規制されたりする場面が多々ある。</p>	<p>□安心、安全に生活できるよう、保育室の衛生にかかる環境整備の徹底に努めた。</p> <p>□密を避け、人数や時間をずらして空間を確保。そのため、人員も要する。</p> <p>□園内に入れず部屋の様子が見てもらえない。</p> <p>□懇談会が開催できず、育児を伝えたり、情報共有できない。</p> <p>□援助や励ます、ほめるなどの行為の際には、ソーシャルディスタンスを取るなどは不可能。</p> <p>□運動機能の発達に差があるため、1人体制であると、安全のために幼い子は背中におんぶしたり、ベッドやラックに寝かせたりという時間が多くなる。</p> <p>□コロナ禍でスキンシップをしていると15分抱いていたらその子がコロナ陽性であった場合濃厚接触者になってしまう。スキンシップを失くすことは出来ないので難しさを感じる。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」

○ 内容

- ③ 個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ② 健康な心と体を育てるためには望ましい食習慣の形成が重要であることを踏まえ、離乳食が完了期へと徐々に移行する中で、様々な食品に慣れるようにするとともに、和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、嘱託医等の指示や協力の下に適切に対応すること。

➤ 内容③および内容の取扱い②と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<ul style="list-style-type: none"> □若年の保護者や意識の違いが大きいため、離乳の進み方に個人差が大きい。 □理由ではないですが、とある園で 保護者が嫌がるために、男性保育士の場合、以上児クラスの担任にしかできないということもある。 □本園から持ってきてもらう給食のため、調理担当者とリアルタイムに連携が取りにくい。 □核家族化に伴い、離乳食の進め方を知らない。 □スマホやママ友に頼る間違った知識。 □ベビーフードの普及もあり、家庭での離乳が進んでいなかったり、進め方が分からなかったりしていることが多く、園でも食べられる食材が増えていきづらい。 □アレルギー対応も多様化し、外国籍児童の宗教食の対応も増えている。 □自園調理の給食があつてこそ、調理の音、作る様子、におい、など五感を通して食習慣が形成されると考える。搬入給食では育たない。 □輸送するため、運搬や配膳に工夫している。が、皿ではなく、タッパーであったり、時間 	<ul style="list-style-type: none"> □マスク着用による、モデルの示しにくさを感じた。 □保育者のマスク使用により、口元が見えず模倣しにくいいため、必要に応じてマウスシールドを使用して口の動かし方などを伝えられるようにした。 □園内に入れず実際の量と大きさや形わからない。試食や保育参観が無いため食べさせ方食べ方を伝えられない。 □授乳時は語りかけを自粛し、優しい目を向け対応する。 □0歳児1:3 1~2歳児1:6を考えると個人差に対応できるのか、近年特に個人差を感じる □隣の子どもとの間隔を広げた。そのため、援助がやりにくく、待たせる時間が長くなる。 □密になったり 飛沫を防いだりするために、食事環境を見直した。

<p>が遅いため、急いで食べさせないと眠くなってしまふ、などの問題点が見られる。そのような状態の子どもを3人に一人の保育士では無理がある。</p>	
---	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」

○ 内容

④ 一人一人の生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、温かい触れ合いの中で心と体の発達を促すこと。特に、寝返り、お座り、はいはい、つかまり立ち、伝い歩きなど、発育に応じて、遊びの中で体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。

➤ 内容④および内容の取扱い①と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 家庭の生活時間の多様化で、一人一人のリズムも多様化。</p> <p><input type="checkbox"/> 小規模では異年齢ワンフロアでの午睡のため、生活リズムよりも集団行動を優先させてしまう。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭で這い這いをせずにつかまり立つ子どもが増えている。その為か転倒して怪我につながることが多い。</p> <p><input type="checkbox"/> 1、2歳児に向けた活動やルールが0歳児には難しいことが多く、中止させられたり、規制されたりする場面が多々ある。</p>	<p><input type="checkbox"/> 午睡時の子ども同士の間隔や向きに気を配り、子どもの様子と合わせ5分おきに確認する。ベッドや寝具を使用の度、清拭・消毒をする。</p> <p><input type="checkbox"/> 午睡というより睡眠</p> <p><input type="checkbox"/> コロナによってリモート勤務が増えたことにより、登園時間にばらつきが出て睡眠リズムが不安定。</p> <p><input type="checkbox"/> 午睡の時間に消毒を行うため、保育士の休憩や連絡帳を各時間などが少なくなっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 0歳児単独クラスと、0、1歳児など複式クラスでは、個々のリズムから園のリズムに整うまでに差があるように思える。複式は集団が優先され早いうちに集団リズムにな</p>

	<p>るだろう。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍でスキンシップをしていると15分抱いていたらその子がコロナ陽性であった場合濃厚接触者になってしまう。スキンシップを失くすことは出来ないのが難しさを感じる。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍だから…、という変更や課題はない。</p>
--	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」

○ 内容

⑤ おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、温かい触れ合いの中で心と体の発達を促すこと。特に、寝返り、お座り、はいはい、つかまり立ち、伝い歩きなど、発達に応じて、遊びの中で体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。

➤ 内容⑤および内容の取扱い①と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> おむつの性能がよくなり、家庭内で子どものおむつを長時間変えずにいる家庭があるため、清潔になる心地よさを味わいにくくなっている。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍で家にいる事が多くなるためオムツ交換の頻度が減っているのか休日明けにお尻かぶれになっている子どもが多い。</p> <p><input type="checkbox"/> 保護者のニーズや育児と仕事との両立支援の上で、紙おむつを採用。タイミングが計りにくい。</p>	<p><input type="checkbox"/> これまでにも増して徹底した衛生管理を心掛けた。</p> <p><input type="checkbox"/> 沐浴からシャワーに切り替えて、感染防止のため水をためないようにした。</p> <p><input type="checkbox"/> 使用済みのおむつの持ち帰りを廃止。園での保管やゴミ出し対応の工夫を要する。</p> <p><input type="checkbox"/> 送迎時に様子を伝え保育園ではこまめに替えるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 保育士のわいせつ行為の範囲をどう考えるかで、おむつ交換も必要最小限になる可能性もある？</p>

	<p>□マスクを着けたままで、笑顔や言葉を傾けるが、十分に伝わっていない気がする。</p> <p>□0歳児高月齢になると、アレルギー児に不可の食材を別児が家庭で食し、顔や手、服にアレルギーが付着して登園する場合がある。朝夕の合同保育では、大きなクラスとも接触する場合があるので、場面に応じて完全個別対応が必要である。</p>
--	--

ア. 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」

○ A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)

<ul style="list-style-type: none"> ・ マスクなしでの生活の保障。 ・ 食育に関する項目と家族支援の推進。 ・ 乳児に関する家庭での離乳、清潔などの知識を家庭に助言・指導する専門知識・技能を修了したスタッフの配置への補助。 ・ 個別の生活リズムに十分に対応できる、食べる、遊ぶ、寝る空間の確保と人員配置への補助。 ・ 一人一人の発達に応じた運動機能を促す遊びの保障のための十分な空間と人員の確保。 ・ 保護者が相談しやすい方法やシステムを構築。そのための、人員の確保と研修体制の構築。 ・ 睡眠チェックを5分おきにしているが、見守りの専任職員がいれば、職員がノンコンタクトタイムをとることができ、働き方改革につながる。 ・ 子どもの愛着関係づくりにとって、育児担当制保育は重要。乳児の入所状況によって違いはあるが、途中入所を受け入れ増員になっても、雇用できる保育士がいない。年度当初から増員を見込めるとありがたい。 ・ 全ての項目において当園に限れば、職員定数が基準より多く配置されているため、達成できていると考える。しかし、他の園の話を聴くと、保育士不足による時間外保育に対応するため、非常勤や無資格者の雇用になっている。保育の質をあげるのであれば、定数の見直し、主任を加算ではなく、必置にすべきである。 ・ 保育士が専門職であるということを、きちんと周知しなくてはならないと考える。 ・ 人員配置を検討。 ・ 小規模園の在り方を、行政を交えて話し合ったり、情報交換をしたり、横のつながりを作ってはどうか。 ・ マスクの着用の必須について、医学的な根拠を踏まえた見直しを図る。 ・ 消毒の必須について、医学的な根拠を踏まえた見直しを図る。また、消毒を実施にあたっての予算を増やす。(専門業者を入れる、合理化・省力化につながる機会の導入など) ・ 小規模であっても、現状の緩和措置で、『保育』として十分なのか、学識を含めた行政レベルで

点検・検討。

- ・ 0歳児クラス職員必要数が1人の場合、1歳児と複式にして、2人以上の配置とする。
- ・ 歩行が自立し、活発な子の場合は、1つ上のクラスに行き、活動を分けることで、それぞれの発達に合わせた関わりができる。
- ・ デイリープログラムは、保育者側の都合になっていないか、子どもの家庭を含めた生活の延長線上に保育園生活があるかを毎年確認する。
- ・ 朝登園後、全園児の服を着替えるなどする。給食は、卵を含まない段階の離乳食の提供がある場合は、そのチームの中で食事を行う。合同保育は、ベッドやサークルで分けしたり、おんぶをして接触を避ける。



○ 今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点

<p>i</p>	<p>配置基準の改定（あらゆる課題に対して人員配置が共通）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 保育所保育指針の内容は、10年に1度であるものの、社会の変化の状況も踏まえながら改訂が行われる。人員配置基準の見直しは行われていないために、基準が社会の変化に追いついていない状況がある。（現場の実態との乖離）・ 近年は、子どもの発達状況の個人差も大きいことから個別に対応する必要性が増しており、現状では保育者の努力により保育の質が確保されている状況である。 保育所保育指針のねらいを十分に達成する活動を展開するには、人員配置を見直す必要がある。（どのような子どもの人数であっても、最低2人の職員配置が必要）・ 子どもの育ちの観点からも、クラス編成の適正な人数を検討する必要がある。・ 乳児院では0・1歳児の配置基準が1.6:1、2歳児が2:1となっており、この数値との比較も必要。・ 現状の人員配置基準では、実態（11時間開所、土曜開所、休憩・有休の調整）への対応に余裕がなく、保育者の働き方改革にとっても基準の見直しが必要。 <p>【現状の配置基準による乳児保育の状況】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 保育者1人が子どもをおんぶしながら、他の子どもにミルクを飲ませ、寝ている子どもの様子も見るといったような状況がある・ クラスの中でも低月齢の子どもはおんぶや寝かせている時間が他の子どもと比べて長くなることもある
<p>ii</p>	<p>乳児の入所の減少等の実態を踏まえた対応</p> <ul style="list-style-type: none">・ 主任保育士専任加算について、主任保育士が担う役割が非常に重要であることから、令和5年度の特例の継続が必要。・ 育休の取得を社会的に促進するに伴い乳児の入所が減少している状況を踏まえ、公定価格の見直しが必要。 <p>【乳児の減少による影響】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 主任保育士選任加算の要件の1つであるため、加算の取得が困難になる。・ 乳児に加え、子ども全体の人数の減少により、地域によって定員に達しない状況がある。

イ. 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」

○ ねらい

- ① 安心できる関係の下で、身近な人とともに過ごす喜びを感じる。
- ② 体の動きや表情、発声等により、保育士等と気持ちを通わせようとする。
- ③ 身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。

○ 内容

- ① 子どもからの働きかけを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉がけによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 保育士等との信頼関係に支えられて生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮して、子どもの多様な感情を受け止め、温かく受容的・応答的に関わり、一人一人に応じた適切な援助を行うようにすること。

- ② 身近な人に親しみをもって接し、自分の感情などを表し、それに相手が応答する言葉を聞くことを通して、次第に言葉が獲得されていくことを考慮して、楽しい雰囲気の中での保育士等との関わり合いを大切にし、ゆっくりと優しく話しかけるなど、積極的に言葉のやり取りを楽しむことができるようにすること。

➤ 内容①および内容の取扱い①②と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<ul style="list-style-type: none"> □長時間保育により、家庭で過ごす時間が短いため、保護者が子どもと触れ合う時間が短くなっており、泣いたりわがままをいったりして思いを伝えようとする子どもが多い。 □当園は自然豊かな地域であるが、中にはビルの1室で保育が行われている現状もある。設置要綱の緩和による弊害があると思う。 □養成校を卒業する学生の学びの質、保育の質が保たれているか □定数ではあるが、便の始末や食事の配膳・調乳などで人手を取られると、5~6対1になってしまう。 □示されたように保育を行おうとして入るが、上記のように、一人ひとりにといた個別対応が難しい場面を多く見かける。 	<ul style="list-style-type: none"> □マスク着用によって表情が分かりにくく、子どもの欲求が満たされているのか、また保育士等とのやりとりが楽しめているか、 □濃厚接触者になる可能性を考えると、長時間の抱っこや接触を躊躇してしまう。 □感染や濃厚接触者となり保育士の休みが重なると保育士に余裕がなくなり、子どもに応答的、受容的に丁寧な関わりができないこともある。 □養成校を卒業する学生の学びの質 □マスク着用では、微笑みかけをキャッチしたり、唇の動きを見たりすることができない。 □全員が同じ活動に取り組んでいる場合、3人に1人の配置でも可能な場面は多いが、個々の対応ということは、1人ひとりが、それぞ

<p>□核家族が進み、保護者の勤務時間も長くなっていることから、ゆっくりと子どもと関わる時間が少なくなっている。関わりや言葉のやりとりが心配な家庭もある。</p> <p>□このねらいと内容の大切さを理解しているが、上記のように、応答的にかかわりができない場面も多々ある。</p>	<p>れ訴えることが違うということ。あそび、授乳、排泄といった場面が一機に発生した場合は、個々の語り掛けながらの対応は難しい。</p> <p>□マスク着用の保育により、より一層のマスクの下での豊かな表情と温かい声掛けを心掛けた。</p> <p>□マスク着用等によって、表情が分かりにくく、子どもの欲求が満たされているのか、また、保育士等とのやりとりが楽しめているのか。</p> <p>□保護者に保育室に入ってもらえない時期が長く、一人ひとりの育ち、家庭環境に向き合いくい状況があった。</p> <p>□スキンシップを禁止してはいないが、以前のように積極的にやることをはばかれている。</p> <p>□適切な距離と声の大きさを保ちながら、必ず視線を合わせて丁寧に応答する。</p> <p>□コロナ禍により家庭で過ごす時間が増えたことにより、ますますメディアに触れる機会が多くなり、発語が遅くなったり、目を合わせてのコミュニケーションが取りづらかったりする。</p> <p>□言葉の育ち、口腔機能の育ちには先生のマスクはマイナスの影響を感じる</p> <p>□マスク着用では、微笑みかけをキャッチしたり、唇の動きを見たりすることができない。</p>
---	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちを通じ合う」

○ 内容

② 体の動きや表情、発声、喃語等を優しく受け止めてもらい、保育士等とのやり取りを楽しむ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 保育士等との信頼関係に支えられて生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮して、子どもの多様な感情を受け止め、温かく受容的・応答的に関わり、一人一人に応じた適切な援助を行うようにすること。

② 身近な人に親しみをもって接し、自分の感情などを表し、それに相手が応答する言葉を聞くことを通して、次第に言葉が獲得されていくことを考慮して、楽しい雰囲気の中での保育士等との関わり合いを大切にし、ゆっくりと優しく話しかけるなど、積極的に言葉のやり取りを楽しむことができるようにするこ

➤ 内容②および内容の取扱い①②と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 定数ではあるが、便の始末や食事の配膳・調乳などで人手を取られると、5~6 対 1 になってしまう。</p> <p><input type="checkbox"/> 示されたように保育を行おうとして入るが、上記のように、一人に一人にといった個別対応が難しい場面を多く見かける。</p> <p><input type="checkbox"/> 核家族が進み、保護者の勤務時間も長くなっていることから、ゆっくりと子どもと関わる時間が少なくなっている。関わりや言葉のやりとりが心配な家庭もある。</p> <p><input type="checkbox"/> このねらいと内容の大切さを理解しているが、上記のように、応答的にかかわりができない場面も多々ある。</p> <p><input type="checkbox"/> 核家族が進み、保護者の勤務時間も長くなっていることから、ゆっくりと子どもと関わる時間が少なくなっている。関わりや言葉のやりとりが心配な家庭もある。</p> <p><input type="checkbox"/> このねらいと内容の大切さを理解しているが、上記のように、応答的にかかわりができない場面も多々ある。</p>	<p><input type="checkbox"/> マスクの使用で保育者の表情が伝わりにくいので、声のトーンや目の表情・動作などをより意識する。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍で他クラスの保育士と関わる機会が減っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 先生の口元が見えないことが発語、発声、表情からの読み取りが難しい</p> <p><input type="checkbox"/> マスク着用では、微笑みかけをキャッチしたり、唇の動きを見たりすることができない。</p> <p><input type="checkbox"/> 全員が同じ活動に取り組んでいる場合、3人に1人の配置でも可能な場面は多いが、個々の対応ということは、1人ひとりが、それぞれ訴えることが違うということ。あそび、授乳、排泄といった場面が一機に発生した場合は、個々の語り掛けながらの対応は難しい。</p> <p><input type="checkbox"/> マスク着用の保育により、より一層のマスクの下での豊かな表情と温かい声掛けを心掛けた。</p> <p><input type="checkbox"/> マスク着用等によって、表情が分かりにくく、子どもの欲求が満たされているのか、ま</p>

	<p>た、保育士等とのやりとりが楽しめているのか。</p> <p><input type="checkbox"/> 保護者に保育室に入ってもらえない時期が長く、一人ひとりの育ち、家庭環境に向き合いくらい状況があった。</p> <p><input type="checkbox"/> スキンシップを禁止してはいないが、以前のように積極的にやることをはばかれている。</p> <p><input type="checkbox"/> 適切な距離と声の大きさを保ちながら、必ず視線を合わせて丁寧に応答する。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍により家庭で過ごす時間が増えたことにより、ますますメディアに触れる機会が多くなり、発語が遅くなったり、目を合わせてのコミュニケーションが取りづらかったりする。</p> <p><input type="checkbox"/> 言葉の育ち、口腔機能の育ちには先生のマスクはマイナスの影響を感じる</p> <p><input type="checkbox"/> マスク装用では、微笑みかけをキャッチしたり、唇の動きを見たりすることができない。</p>
--	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」

○ 内容

③ 生活や遊びの中で、自分の身近な人の存在に気付き、親しみの気持ちを表す。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 保育士等との信頼関係に支えられて生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮して、子どもの多様な感情を受け止め、温かく受容的・応答的に関わり、一人一人に応じた適切な援助を行うようにすること。

② 身近な人に親しみをもって接し、自分の感情などを表し、それに相手が応答する言葉を聞くことを通して、次第に言葉が獲得されていくことを考慮して、楽しい雰囲気の中での保育士等との関わり合いを大切にし、ゆっくりと優しく話しかけるなど、積極的に言葉のやり取りを楽しむことができるようにするこ

➤ 内容③および内容の取扱い①②と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□地域とのつながりの希薄さや核家族化から、人と触れ合う機会が少なく、保育士が応答を心がけていても表情が乏しく、反応がないなどと愛着関係を築くことに時間を要する。</p> <p>□示されたように保育を行おうとして入るが、上記のように、一人に一人にといった個別対応が難しい場面を多く見かける。</p> <p>□核家族が進み、保護者の勤務時間も長くなっていることから、ゆっくりと子どもと関わる時間が少なくなっている。関わりや言葉のやりとりが心配な家庭もある。</p> <p>□このねらいと内容の大切さを理解しているが、上記のように、応答的にかかわりができない場面も多々ある。</p>	<p>□他クラスの子どもと合同保育をなるべく避けている為、いろいろな人との触れ合いが減っている。</p> <p>□コロナ禍で、その経験は希薄になったように感じる</p> <p>□マスク装用では、微笑みかけをキャッチしたり、唇の動きを見たりすることができない。</p> <p>□全員が同じ活動に取り組んでいる場合、3人に1人の配置でも可能な場面は多いが、個々の対応ということは、1人ひとりが、それぞれ訴えることが違うということ。あそび、授乳、排泄といった場面が一機に発生した場合は、個々の語り掛けながらの対応は難しい。</p> <p>□適切な距離と声の大きさを保ちながら、必ず視線を合わせて丁寧に応答する。</p> <p>□コロナ禍により家庭で過ごす時間が増えたことにより、ますますメディアに触れる機会が多くなり、発語が遅くなったり、目を合わせてのコミュニケーションが取りづらかったりする。</p> <p>□言葉の育ち、口腔機能の育ちには先生のマスクはマイナスの影響を感じる</p> <p>□マスク装用では、微笑みかけをキャッチしたり、唇の動きを見たりすることができない。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちを通じ合う」

○ 内容

④ 保育士等による語りかけや歌いかけ、発声や喃語等への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育つ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

② 身近な人に親しみをもって接し、自分の感情などを表し、それに相手が応答する言葉を聞くことを通して、次第に言葉が獲得されていくことを考慮して、楽しい雰囲気の中での保育士等との関わり合いを大切にし、ゆっくりと優しく話しかけるなど、積極的に言葉のやり取りを楽しむことができるようにするこ

➤ 内容④および内容の取扱い②と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□定数ではあるが、便の始末や食事の配膳・調乳などで人手を取られると、5~6対1となってしまう。</p> <p>□核家族が進み、保護者の勤務時間も長くなっていることから、ゆっくりと子どもと関わる時間が少なくなっている。関わりや言葉のやりとりが心配な家庭もある。</p> <p>□このねらいと内容の大切さを理解しているが、上記のように、応答的かわりかできない場面も多々ある。</p>	<p>□保育士がマスクをしているため、口もとが見えず、発声の仕方等の見本を見せることが難しく、言葉の発達への影響が心配される。</p> <p>□マスクで保育者の口元が見えないことが発語になんらかの影響があるのではないか。</p> <p>□マスク着用では、微笑みかけをキャッチしたり、唇の動きを見たりすることができない。</p> <p>□職員配置数には、「書類作成の時間、清掃などノンコンタクトタイム」は含まれていない。なので保育をしながら、取り組むところも多いはず。肯定的な対応が難しくなる。結果、「待って」「泣かないで」「静かに」「どうして？」など、子どもの発達にそぐわない言動が出てしまう。</p> <p>□適切な距離と声の大きさを保ちながら、必ず視線を合わせて丁寧に応答する。</p> <p>□コロナ禍により家庭で過ごす時間が増えたことにより、ますますメディアに触れる機会が多くなり、発語が遅くなったり、目を合わせてのコミュニケーションが取りづらかったりする。</p> <p>□言葉の育ち、口腔機能の育ちには先生のマスクはマイナスの影響を感じる</p>

	□マスク着用では、微笑みかけをキャッチしたり、唇の動きを見たりすることができない。
--	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」

○ 内容

⑤温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生える。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 保育士等との信頼関係に支えられて生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮して、子どもの多様な感情を受け止め、温かく受容的・応答的に関わり、一人一人に応じた適切な援助を行うようにすること。

➤ 内容⑤および内容の取扱い①と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□定数ではあるが、便の始末や食事の配膳・調乳などで人手を取られると、5~6対1となってしまう。</p> <p>□示されたように保育を行おうとして入るが、上記のように、一人に一人にといった個別対応が難しい場面を多く見かける。</p>	<p>□コロナ禍で、家庭で過ごす時間が増えたが子どもとの関わり方が分からず、テレビやYouTubeなどをみせていたり、保護者もスマホを見ていたりすることが多い。</p> <p>□マスク着用では、微笑みかけをキャッチしたり、唇の動きを見たりすることができない。</p> <p>□マスク着用の保育により、より一層のマスクの下での豊かな表情と温かい声掛けを心掛けた。</p> <p>□マスク着用等によって表情が分かりにくく、子どもの欲求が満たされているのか、また、保育士等とのやりとりが楽しめているのか。</p> <p>□保護者に保育室に入ってもらえない時期が長く、一人ひとりの育ち、家庭環境に向き合いにくい状況があった。</p> <p>□スキンシップを禁止してはいないが、以前のように積極的にやることをはばかれる。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちを通じ合う」

○ A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素

(制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)

- ・子どもの視線や喃語に丁寧に応えることのできる環境が必要。乳児保育においては子ども：保育士という人員配置ではなく、一部屋で保育する人数を制限する必要もありか。
- ・マスクなしでの生活の保障。
- ・子どもの性格や発育、家庭環境などを読み取り、成長を促すために必要な保育士の知識やスキルを学ぶ研修体制の構築。
- ・職員の育成を担えるように条件なしで主任保育士を専任にする制度。
- ・乳幼児期の子どもの生活リズムや睡眠の大切さについて、おたよりや連絡帳などで知らせていく。わらべうたや好きな遊びなどを知らせ、子どもとの関わりを楽しめる様にする。
- ・コロナ対策を十分に行い、園庭やウッドデッキなどで他クラスと交流する機会がもてるようにする。
- ・待機児童解消に向けた、保育所の設置基準の緩和により、ビルの中であったり、自然からかけ離れた場所での保育が展開されている。また、開所時間中ずっと園にいる子どももいる。家庭にいるより園にいるこどもが多いことを、考えてほしい。親のニーズが優先された結果では？
- ・人員配置を検討。
- ・マスクの着用の必須について、医学的な根拠を踏まえた見直しを図る。
- ・コロナ禍であっても必要な行動とその理由や配慮を明確に私たちが示すことで認められないか。
- ・小規模であっても、現状の緩和措置で、『保育』として十分なのか、学識を含めた行政レベルで点検・検討。
- ・結果、時間で飲ませたり、時間でおむつを交換したり、1歳を過ぎると、時間で午睡させたりが多くなる。授乳が重なると、ラックに寝かせた状態で、片手に哺乳びん、さらに眠い子がいると足でラックをゆらして寝かしつけを行うなどする。
- ・書類にかかる時間を園で決め、職員はその時間内に作業を行う。その時間はノンコンタクトタイムとして確保する。書類作成用の部屋を用意し、ながら事務はさせない。
- ・ICT化により業務効率化を進める一方で、保護者対応の時間の確保。



○ 今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点

	人員配置の見直し
i	<ul style="list-style-type: none">・乳児の育ちの保障には、応答的関わりが必要。それと同時に、勤務時間内に保育の振り返りや立案等の書類作成や、保育準備等の時間を確保するため、働き方改革の観点からも人員配置の見直しが必要。・保育者が子どもの様子に余裕をもって向き合い、穏やかに、細やかに保育を実施していくための必要最低人数の見直しを図る。必要最低人数の考え方については、調乳のため

	<p>調乳室に入っている場合、排便処理のためトイレに入っている場合などやむを得ず保育室を離れる場合があること、体調を整えるための水分補給や休息を取ること、記録や連絡ノートの記入など事務的な活動を行うこと、などを鑑みた判断を頂きたい。</p> <p>・乳児は月齢で配置基準を考える等の検討も必要（例/12か月未満は2：1）”</p>
ii	<p>保育所設置基準の緩和措置の見直し</p> <p>・社会の変化・子育て家庭の現状を踏まえ、待機児童解消も重要な子育て支援ではあるが、子どもの育ちに適切な環境の確保が必要。保育室の面積や自然環境等の違いにより、子どもの経験・発達に大きな差異が生じることを理解し、子どもの育ちを中心に最低基準の検討が必要。</p>
iii	<p>保育者の専門性の向上の機会の確保</p> <p>・子どもの発達や保育実践・保護者支援等において、保育者がそれぞれの階層や経験に応じた研修を受講し、専門性を向上させることのできる体制や支援が必要。”</p>
iv	<p>保育の現場における保育者のマスク着用の効果とデメリットについて</p> <p>・先行研究があれば国レベルでの取り上げと整理を行っていただき、医学的根拠を含むガイドラインを示していただきたい。</p>
v	<p>乳児期における人とのかかわりの大切さと感染症対策</p> <p>・どちらも大切なこの2つは、両立させることが難しい課題ではあるが、異年齢・地域などのかかわりを大切にした場合の保育実践では、当然ながら深い配慮を持ち実践している。一方で、活動しているということだけで社会からの批判非難の対象になりかねないことから、諦めている園も多い。このことから、保育では何を大切にしているか、そのための実践としてどのようなことが必要で、コロナ禍においてどのような配慮を行いながら実践しているか、などについて、正しく社会に理解してもらうような働きかけを行う必要がある。</p>
vi	<p>保育者のマスク着用について</p> <p>・コロナの感染が始まり、かなり大掛かりな予防に徹していた初期のころとは考え方や行い方が変化している。マスクについても緩和の傾向が出始めている今、保育の現場においても、こういった場面では着用よりも子どもの育ちを尊重することができる、といった、より具体的で、医学的にも根拠ある考え方が示されることが必要と思われる。</p> <p>・また、難しい状況にありつつも、どんな工夫と配慮でコロナ禍を乗り切ってきた(乗り切っている)のかということをもっと社会に発信していくべきではないだろうか。</p>
vii	<p>保育所保育指針の見直し</p> <p>・社会の変化（核家族化や保護者の地域とのつながりの希薄化等による影響）を踏まえた子育て家庭支援が必要となっており、子どもの視点だけでなくこのことも踏まえた記載が必要。</p>

ウ. 精神的発達に関する視点「身近なものに関わり感性が育つ」

○ ねらい

- ① 身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。
- ② 見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。
- ③ 身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。

○ 内容

- ① 身近な生活用具、玩具や絵本などが用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心をもつ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 玩具などは、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切なものを選び、その時々の子どもの興味や関心を踏まえるなど、遊びを通して感覚の発達が促されるものとなるように工夫すること。なお、安全な環境の下で、子どもが探索意欲を満たして自由に遊べるよう、身の回りのものについては、常に十分な点検を行うこと。

- ② 乳児期においては、表情、発声、体の動きなどで、感情を表現することが多いことから、これらの表現しようとする意欲を積極的に受け止めて、子どもが様々な活動を楽しむことを通して表現が豊かになるようにすること。

➤ 内容①および内容の取扱い①②と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 未満児ワンフロアでは、乳児に適した玩具をそろえていても乳児だけが扱うという確保は難しい。また、2歳児に適した玩具であっても0歳児にはあっていなかったり、誤飲につながる大きさや形状だったり、そのために乳児が手を出さないようにすることは困難。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの発達や興味に即したあそびの提供を心掛けているが、家庭で幼い頃からメディアやタブレットに触れがちな家庭が増えていくことが心配される。</p> <p><input type="checkbox"/> 活動範囲の狭さから、遊びがマンネリ化してしまう。長時間保育の子どもの増加から、点検する時間の余裕がなくなっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 保護者がスマートフォンを見るのが多く、</p>	<p><input type="checkbox"/> コロナ感染防止のため、個人用の玩具を準備し、舐めたり、触ったりして遊べる環境や玩具を見直した。</p> <p><input type="checkbox"/> 生活用具、玩具、絵本等の衛生管理を更に丁寧に行った。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの手が触れる場所の衛生管理に努めた。</p> <p><input type="checkbox"/> 密を避け、人数や時間をずらして空間を確保。そのため、人員も要する。</p> <p><input type="checkbox"/> 消毒の大変さから、保育士の疲弊もみられる。とはいえ、多くの玩具に触れさせたい思いを持っている。ただ、各年齢のねらいについて分けて考えることの難しさと活動の保証をするための環境づくりの難しさを感じ</p>

<p>子どもたちの発達に気が付けないことが多い。授乳中や食事中もテレビが付いていたり、スマートフォンを触っていたりすることがあり、表現しても受け止めてもらえず愛着関係が築きにくい。表情があまりなかったり、目があわなかったりする子どもが増えている。</p> <p>□表現活動においては特に、たった1年の違いでも必要な玩具や環境が違っており、適切に整えることの難しさがある。</p>	<p>ている。</p> <p>□目の表情や大きな仕草、声の抑揚などで感情を伝える工夫をする。</p>
---	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 精神的発達に関する視点「身近なものに関わり感性が育つ」

○ 内容

- ② 生活や遊びの中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気付き、感覚の働きを豊かにする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 玩具などは、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切なものを選び、その時々の子どもの興味や関心を踏まえるなど、遊びを通して感覚の発達が促されるものとなるように工夫すること。なお、安全な環境の下で、子どもが探索意欲を満たして自由に遊べるよう、身の回りのものについては、常に十分な点検を行うこと。

- ② 乳児期においては、表情、発声、体の動きなどで、感情を表現することが多いことから、これらの表現しようとする意欲を積極的に受け止めて、子どもが様々な活動を楽しむことを通して表現が豊かになるようにすること。

➤ 内容②および内容の取扱い①②と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□未満児ワンフロアでは、乳児に適した玩具をそろえていても乳児だけが扱うという確保は難しい。また、2歳児に適した玩具であっても0歳児にはあっていなかったり、誤飲につながる大きさや形状だったり、のために乳</p>	<p>□消毒できる素材の玩具・手作り玩具を見直し、細目に消毒をして感染の予防に努める。</p> <p>□目の表情や大きな仕草、声の抑揚などで感情を伝える工夫をする。</p> <p>□消毒の大変さから、保育士の疲弊もみられ</p>

<p>児が手を出さないようにすることは困難。</p> <p>□保護者がスマートフォンを見ることが多く、子どもたちの発達に気が付けないことが多い。授乳中や食事中もテレビが付いていたり、スマートフォンを触っていたりすることがあり、表現しても受け止めてもらえず愛着関係が築きにくい。表情があまりなかったり、目があわなかったりする子どもが増えている。</p> <p>□表現活動においては特に、たった1年の違いでも必要な玩具や環境が違っており、適切に整えることの難しさがある。</p>	<p>る。とはいえ、多くの玩具に触れさせたい思いを持っている。ただ、各年齢のねらいについて分けて考えることの難しさと活動の保証をするための環境づくりの難しさを感じている。</p>
---	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 精神的発達に関する視点「身近なものに関わり感性が育つ」

○ 内容

③ 保育士等と一緒に様々な色彩や形のものや絵本などを見る。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 玩具などは、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切なものを選び、その時々の子どもの興味や関心を踏まえるなど、遊びを通して感覚の発達が促されるものとなるように工夫すること。なお、安全な環境の下で、子どもが探索意欲を満たして自由に遊べるよう、身の回りのものについては、常に十分な点検を行うこと。

② 乳児期においては、表情、発声、体の動きなどで、感情を表現することが多いことから、これらの表現しようとする意欲を積極的に受け止めて、子どもが様々な活動を楽しむことを通して表現が豊かになるようにすること。

➤ 内容③および内容の取扱い①②と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
□未満児ワンフロアでは、乳児に適した玩具をそろえていても乳児だけが扱うという確保は難しい。また、2歳児に適した玩具であつ	□適切な距離と声の大きさに配慮した読み聞かせが必要。 □生活用具、玩具、絵本等の衛生管理を更に丁

<p>ても0歳児にはあっていなかったり、誤飲につながる大きさや形状だったり、のために乳児が手を出さないようにすることは困難。</p> <p>□子どもの発達や興味に即したあそびの提供を心掛けているが、家庭で幼い頃からメディアやタブレットに触れがちな家庭が増えていることが心配される。</p> <p>□活動範囲の狭さから、遊びがマンネリ化してしまう。長時間保育の子どもの増加から、点検する時間の余裕がなくなっている。</p> <p>□保護者がスマートフォンを見ることが多く、子どもたちの発達に気が付けないことが多い。授乳中や食事中もテレビが付いていたり、スマートフォンを触っていたりすることがあり、表現しても受け止めてもらえず愛着関係が築きにくい。表情があまりなかったり、目があわなかったりする子どもが増えている。</p> <p>□表現活動においては特に、たった1年の違いでも必要な玩具や環境が違っており、適切に整えることの難しさがある。</p>	<p>寧に行った。子どもの手が触れる場所の衛生管理に努めた。</p> <p>□密を避け、人数や時間をずらして空間を確保。そのため、人員も要する。</p> <p>□消毒の大変さから、保育士の疲弊もみられる。とはいえ、多くの玩具に触れさせたい思いを持っている。ただ、各年齢のねらいについて分けて考えることの難しさと活動の保証をするための環境づくりの難しさを感じている。</p> <p>□目の表情や大きな仕草、声の抑揚などで感情を伝える工夫をする。</p>
---	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 精神的発達に関する視点「身近なものに関わり感性が育つ」

○ 内容

- ④ 玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 玩具などは、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切なものを選び、その時々の子どもの興味や関心を踏まえるなど、遊びを通して感覚の発達が促されるものとなるように工夫すること。なお、安全な環境の下で、子どもが探索意欲を満たして自由に遊べるよう、身の回りのものについては、常に十分な点検を行うこと。

➤ 内容④および内容の取扱い①と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□未満児ワンフロアでは、乳児に適した玩具をそろえていても乳児だけが扱うという確保は難しい。また、2歳児に適した玩具であっても0歳児にはあっていなかったり、誤飲につながる大きさや形状だったり、のために乳児が手を出さないようにすることは困難。</p> <p>□子どもの発達や興味に即したあそびの提供を心掛けているが、家庭で幼い頃からメディアやタブレットに触れがちな家庭が増えていくことが心配される。</p> <p>□活動範囲の狭さから、遊びがマンネリ化してしまう。長時間保育の子どもが増加から、点検する時間の余裕がなくなっている。</p>	<p>□布製品はこまめに洗濯をしている。</p> <p>□生活用具、玩具、絵本等の衛生管理を更に丁寧に行った。子どもの手が触れる場所の衛生管理に努めた。</p> <p>□密を避け、人数や時間をずらして空間を確保。そのため、人員も要する。</p> <p>□消毒の大変さから、保育士の疲弊もみられる。とはいえ、多くの玩具に触れさせたい思いを持っている。ただ、各年齢のねらいについて分けて考えることの難しさと活動の保証をするための環境づくりの難しさを感じている。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 精神的発達に関する視点「身近なものに関わり感性が育つ」

○ 内容

⑤ 保育士等のあやし遊びに機嫌よく応じたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

② 乳児期においては、表情、発声、体の動きなどで、感情を表現することが多いことから、これらの表現しようとする意欲を積極的に受け止めて、子どもが様々な活動を楽しむことを通して表現が豊かになるようにすること。

➤ 内容⑤および内容の取扱い②と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□未満児ワンフロアでは、乳児に適した玩具をそろえていても乳児だけが扱うという確保は難しい。また、2歳児に適した玩具であっても0歳児にはあっていなかったり、誤飲に</p>	<p>□マスク着用のまま、温かなやり取りを心掛けた。</p>

<p>つながる大きさや形状だったり、のために乳児が手を出さないようにすることは困難。</p> <p>□保護者がスマートフォンを見ることが多く、子どもたちの発達に気が付けないことが多い。授乳中や食事中もテレビが付いていたり、スマートフォンを触っていたりすることがあり、表現しても受け止めてもらえず愛着関係が築きにくい。表情があまりなかったり、目があわなかったりする子どもが増えている。</p> <p>□表現活動においては特に、たった1年の違いでも必要な玩具や環境が違っており、適切に整えることの難しさがある。</p>	<p>□緊急事態宣言時、家庭で触れ合い遊びや歌遊びなどが楽しめるよう、遊び方を紹介する動画配信や絵本の貸し出しを行った。</p> <p>□目の表情や大きな仕草、声の抑揚などで感情を伝える工夫をする。</p>
---	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 精神的発達に関する視点「身近なものに関わり感性が育つ」

○ A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)

- ・子どもとのかかわりを離れ、衛生管理等の作業に集中できる時間の確保が必要。
- ・衛生管理のために保育士の仕事量が増えている。保育体制強化事業(拡充)保育に係る周辺業務を行う人の配置促進。
- ・子どもが安全に探索活動ができるような場所の確保のための補助金。
- ・保育士が保育環境や玩具を整えるための時間の確保をすること 働き方改革を踏まえて予備保育士を年間で雇えるようにする。
- ・保育園での遊びの様子をおたよりや連絡帳などで知らせ、それぞれの発達に合わせた玩具を紹介している。月齢と共に予測される行動を知らせ危険が回避できるよう家庭で取り組んでもらう。
- ・保育園での子どもたちの日頃のを伝え、保護者と共に成長を喜び合い、子どもへの愛着を深めて関わりを楽しめる様にする。マスク越しでも軟らかい言葉掛けやわらべうたを通して信頼関係が築けるようにする。
- ・待機児童解消に向けた、保育所の設置基準の緩和により、ビルの中であったり、自然からかけ離れた場所での保育が展開されている。また、開所時間中ずっと園にいる子どももいる。家庭にいるより園にいる子どもが多いことを、考えてほしい。親のニーズの優先された結果では?
- ・人員配置を検討。
- ・小規模であっても、現状の緩和措置で、『保育』として十分なのか、学識を含めた行政レベルで点検・検討。

- ・子育て中の親の労働時間について、行政・学識を含めた保育の現場で検討されるべき。
- ・乳児の玩具、特に木製はかなり高価であり、これに対する補助金があればいいが。



○ 今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点

i	<p>人員配置の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども 特に乳児は身の回りにある物に触れたり 口に入れたりすることで感触を確かめ、興味関心を高めながら感性が育っていく。そのため、安心して触れられるようこまめな消毒作業が不可欠で、感染症対策の観点からも保育士の業務が増加している。保育士が子どもとの関わりに集中できるよう、その他の業務を担える職員配置ができる体制や仕組みの充実の検討が必要。
ii	<p>子育て支援政策の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の就労支援のため、待機児童解消も子育て支援として必要ではあるが、子どもの育ちにおいて、保護者との愛着関係形成の重要性についての理解を広く知らせ、育休取得制度の普及や子育て家庭の就労体制等の取り組みが必要。

第2章

「1歳以上3歳未満児保育」に関するねらい及び内容の視点から

保育所保育指針「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」と照らした整理

ア. 心身の健康に関する領域「健康」

○ ねらい

- ① 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。
- ② 自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。
- ③ 健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちが育つ。

○ 内容

- ① 保育士等の愛情豊かな受容の下で、安定感をもって生活をする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、子どもの気持ちに配慮した温かい触れ合いの中で、心と体の発達を促すこと。特に、一人一人の発育に応じて、体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。

➤ 内容①および内容の取扱い①と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<ul style="list-style-type: none"> □労働者意識の変化により、保育士としての愛情が当たり前にならなくなっているのか □保育士の不足などにより、園生活の中でのゆとりが生まれにくくなっている。 □保護者の仕事優先の生活による長時間保育、分離不安 □車での移動が中心となり”歩く”経験が減り、体力が落ちてきていると感じる。 □身近に相談できる人がいない等、親にも支援が必要な場合がある。様々な虐待を想定し、早めに子どもたちのサインをキャッチし、援助していく事が必要。 □園庭がない園の場合、散歩に行くが、昨今の園外保育における事故等で、散歩に出るのを躊躇している園もある。 □就労支援のための受け皿確保を目的とした小規模園は配置基準が緩やかであるため、体を動かすための場所の確保や各年齢に応じた保育の提供が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> □抱きしめる等のスキンシップは難しくなっているため、感染予防に気を付けながら、保育を行っている。 □コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、ゆとりがない悪循環に陥る。 □保育者自身が安定していなければ、園児との安定した関係は作られない。まだまだ強制的な保育は多いように感じる。 □感染防止に配慮して、運動遊具や用具などこまめに消毒している。 □スキンシップを取る際は必ず保育士も子どもも手洗い、消毒等に心がけ感染の予防に努める。 □コロナの流行により、保護者が園舎入室が出来なくなった。園での様子を見たり、伝わりにくくなったりする。 □コロナも同様で、感染対策として、園外へ出なくなってしまった

	<p>□コロナ禍により保育内容を変更したといったことは、基本的な生活習慣についてはほとんどない。しかし、もともと定数で配置されている保育士がコロナ関係で複数休むと大規模園のようなクラス間流用といった柔軟な対応もできず、子どもの安全だけをとにかく見守るという託児的な対応になりがちである。また、設置基準に応じた環境であっても、年齢に応じた対応や一人一人の状態に応じた対応を行う多目的なスペースがなく、保護者に向けてもソーシャルディスタンスの確保などには気を遣っている状態。</p>
--	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 心身の健康に関する領域「健康」

○ 内容

② 食事や午睡、遊びと休息など、保育所における生活のリズムが形成される。

↳ 関連する「内容の取扱い」

② 健康な心と体を育てるためには望ましい食習慣の形成が重要であることを踏まえ、ゆったりとした雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、嘱託医等の指示や協力の下に適切に対応すること。

④ 食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなど、生活に必要な基本的な習慣については、一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で行うようにし、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重すること。また、基本的な生活習慣の形成に当たっては、家庭での生活経験に配慮し、家庭との適切な連携の下で行うようにすること。

➤ 内容②および内容の取扱い②④と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□保護者の生活スタイルや就業形態等が多様になり、就寝が遅く、それに伴い登園も遅くなり、園での生活リズムが整いにくい。</p> <p>□全体的に、家庭での基本的な生活習慣の取組</p>	<p>□感染状況により、継続して登園することが難しい子どもが増え、生活リズムが崩れやすい為、1人1人に合わせた対応を行った。</p> <p>□コロナ陽性や濃厚接触などでのまとまった</p>

<p>みが遅れている。というか、保護者にそこまでの理解がないように感じる。入園してようやく発達について考えるようになっていく。</p> <p>□生活リズムは家庭も含めた 24 時間で見る必要があるであり、家庭での生活リズムの乱れが見受けられる。</p> <p>□核家族や働き方の変化により、家族そろっての食事が少なくなり、楽しく食べる経験が減っているのではないかと感じる。</p> <p>□様々な種類のアレルギーに対応しなくてはならず、他の子と見た目が変わらない食事の形状にしたり、誤食を防ぐためよく確認してから提供する。</p> <p>□上記同様、好ましい雰囲気を作り上げる環境の確保や、食物アレルギーのある子どもにとっての好ましい場所とかかわりの確保などが難しい。</p> <p>□おもむつの性能が上がり、家庭で長時間交換しない家庭があり、清潔になる心地よさが感じにくく、トイレトレーニングが進みづらい。</p> <p>□生活習慣の獲得のために、子どもが自ら行う姿を見守る必要性を伝えたいが、保護者が忙しく、十分な会話や連携の時間が取りづらい。</p> <p>□保育時間が長く、保護者が子どもにかかる時間は短くなっている。さらに、仕事以外の時間も母親一人に負担が強られる場面が多い事からストレスを感じやすくなる。</p> <p>□上記にも記載したが、子どもの発達の理解が、保護者になく場合もある。</p> <p>□保育士数の関係、異年齢の関係などから、一人一人の状態に応じた適切な保育が提供できないこともある。また、小規模保育園の特性から、託児施設と誤解している保護者も少なくないため、家庭との連携が病気・ケガの共有などの表面的なものになっている。</p> <p>□「家庭との連携」ということをはき違えて、家庭側も努力が必要、家庭側へ頑張りを要求にならないよう配慮が必要。</p>	<p>休み期間に生活リズムが乱れることが多い。</p> <p>□登園する時間帯や体質などにより満 2 歳ごろまで午前寝が必要な子がいるなど個人差が大きく、個人に合わせるならば、園の生活リズムの形成は、2 歳児後半から 3 歳児前半。集団を優先するならば、2 歳児クラス半ばで形成か。</p> <p>□食物アレルギー食品が 1 つの場合は、書面（献立表）にて 4 者で除去確認を行い提供をしている。</p> <p>□仕事の激変や収入減などで生活のリズムが変わってしまった場合もある。親のストレスが子どもの発育に影響を受けないように、しっかりと食事の面でフォローする。</p> <p>□コロナ禍により保育内容を変更したといったことは、基本的な生活習慣についてはほとんどない。しかし、もともと定数で配置されている保育士がコロナ関係で複数休むと大規模園のようなクラス間流用といった柔軟な対応もできず、子どもの安全だけをとにかく見守るといった託児的な対応になりがちである。また、設置基準に応じた環境であっても、年齢に応じた対応や一人一人の状態に応じた対応を行う多目的なスペースがなく、保護者に向けてもソーシャルディスタンスの確保などには気を遣っている状態。</p> <p>□せめて、最低基準に+1 名いれば、ゆったりと対応できる場面は増える。給食の時間が早くなりがち。1100 スタートとか、1130 スタートとか。</p> <p>□玄関での受け入れにしているのが、保育士がゆとりをもって荷物の準備ができるように工夫している。</p> <p>□一人一人の状態、様子を把握しながら、自分でしようとする気持ちを大切に、援助を行っているが、家庭との連携がコロナ禍で取りにくくなっていることはある。</p> <p>□家庭との連携は登降園のみの短い会話、また、連絡帳のやりとりで取れるようにし、詳しく書くように心がける。</p>
--	--

	<p>□コロナ禍により保育内容を変更したといったことは、基本的な生活習慣についてはほとんどない。しかし、もともと定数で配置されている保育士がコロナ関係で複数休むと大規模園のようなクラス間流用といった柔軟な対応もできず、子どもの安全だけをとにかく見守るという託児的な対応になりがちである。また、設置基準に応じた環境であっても、年齢に応じた対応や一人一人の状態に応じた対応を行う多目的なスペースがなく、保護者に向けてもソーシャルディスタンスの確保などには気を遣っている状態。</p>
--	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 心身の健康に関する領域「健康」

○ 内容

③ 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、子どもの気持ちに配慮した温かい触れ合いの中で、心と体の発達を促すこと。特に、一人一人の発育に応じて、体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。

➤ 内容③および内容の取扱い①と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□乳児期に十分に這う期間をもたず、家具などにすぐにつかまり立ちをしてしまう。(這う場所が少ない)</p> <p>□身体の使い方がうまく出来ないことがある。全身を使って遊ぶことが家庭内で減ってきている。</p> <p>□あふれる情報の取捨選択ができていないのか。相談場所が SNS 中心となり、振り回されているように感じる。</p> <p>□家庭で経験することが少なくなっているの</p>	<p>□全身を使う遊びが楽しめるよう消毒できる用具・遊具の活用・数の調整を行っている。</p> <p>□密にならないようにクラスごとに園庭で遊ぶ時間を設けたことで、探索活動を行っている。</p> <p>□密集する、興奮のあまり抱き着く、大声で笑ったり叫んだりする、という様子が見られやすく、配慮する。</p> <p>□おうち時間が増えたことによって子どもたちの遊びが YouTube やメディア等が多くな</p>

<p>で園では以前にもまして意識的に前進を使った遊びを取り入れる必要性がある</p> <p>□園庭のない小規模では、全身を使った遊びの提供や保障をすることが難しい。</p> <p>□車での移動が中心となり”歩く”経験が減り、体力が落ちてきていると感じる。</p> <p>□身近に相談できる人がいない等、親にも支援が必要な場合がある。様々な虐待を想定し、早めに子どもたちのサインをキャッチし、援助していく事が必要。</p> <p>□園庭がない園の場合、散歩に行くが、昨今の園外保育における事故等で、散歩に出るのを躊躇している園もある。</p> <p>□就労支援のための受け皿確保を目的とした小規模園は配置基準が緩やかであるため、体を動かすための場所の確保や各年齢に応じた保育の提供が難しい。</p>	<p>り、視力低下につながっている。</p> <p>□感染防止に配慮して、運動遊具や用具などこまめに消毒している。</p> <p>□スキンシップを取る際は必ず保育士も子どもも手洗い、消毒等に心がけ感染の予防に努める。</p> <p>□コロナの流行により、保護者が園舎入室が出来なくなった。園での様子を見たり、伝わりにくくなったりする。</p> <p>□コロナも同様で、感染対策として、園外へ出なくなってしまった</p> <p>□コロナ禍により保育内容を変更したといったことは、基本的な生活習慣についてはほとんどない。しかし、もともと定数で配置されている保育士がコロナ関係で複数休むと大規模園のようなクラス間流用といった柔軟な対応もできず、子どもの安全だけをとにかく見守るという託児的な対応になりがちである。また、設置基準に応じた環境であっても、年齢に応じた対応や一人一人の状態に応じた対応を行う多目的なスペースがなく、保護者に向けてもソーシャルディスタンスの確保などには気を遣っている状態。</p>
--	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 心身の健康に関する領域「健康」

○ 内容

④ 様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

② 健康な心と体を育てるためには望ましい食習慣の形成が重要であることを踏まえ、ゆったりとした雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、嘱託医等の指示や協力の下に適切に対応すること。

④ 食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなど、生活に必要な基本的な習慣については、一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で行うようにし、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重すること。また、基本的な生活習慣の形成に当たっては、家庭での生活経験に配慮し、家庭との適切な連携の下で行うようにすること。

➤ 内容④および内容の取扱い②④と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 家庭では好きなものだけを食べている子どもが多く、給食を見た目で判断して食べない子どももいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭での食生活や生活リズムの乱れが園の中での課題に直結している。</p> <p><input type="checkbox"/> 1歳児は食べ方に差がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 核家族や働き方の変化により、家族そろっての食事が少なくなり、楽しく食べる経験が減っているのではないかと感じる。</p> <p><input type="checkbox"/> 様々な種類のアレルギーに対応しなくてはならず、他の子と見た目が変わらない食事の形状にしたり、誤食を防ぐためよく確認してから提供する。</p> <p><input type="checkbox"/> 上記同様、好ましい雰囲気を作り上げる環境の確保や、食物アレルギーのある子どもにとっての好ましい場所とかかわりの確保などが難しい。</p> <p><input type="checkbox"/> 生活習慣の獲得のために、子どもが自ら行う姿を見守る必要性を伝えたいが、保護者が忙</p>	<p><input type="checkbox"/> パーテーションなどを使用し、感染対策をして食事介助を行い、子どもたちは黙食をしている。保育者が一緒に食事をしながらマナー等を知らせ、食事を楽しむことが困難。</p> <p><input type="checkbox"/> 食事場面ではコロナ以前より消毒などの徹底は図っているが、方法・頻度など最適か不安な人も多い。</p> <p><input type="checkbox"/> 定員40人以下だと調理員は1名。園児に合わせた個別対応をするにはかなり余裕がない状態で働いているため、保育士と連携が二の次になっている園もある。調理員は、園児と職員分を作っているため、園児数だけの配置基準は厳しい場合がある。食事は、テーブルを拭く、手を拭く、エプロンを付ける、介助する、食後の身支度を整える、早く食べたいと訴える子、テーブルや床を拭く、眠気を訴え泣く子への対応を6対1で行うため、実際は「ゆったりと」が抜け落ちる。</p> <p><input type="checkbox"/> 咀嚼を促す際に職員がマスクをしているため、口の動きを見せられず、伝えることが難</p>

<p>しく、十分な会話や連携の時間が取りづらい。</p> <p>□保育士数の関係、異年齢の関係などから、一人一人の状態に応じた適切な保育が提供できないこともある。また、小規模保育園の特性から、託児施設と誤解している保護者も少なくないため、家庭との連携が病気・ケガの共有などの表面的なものになっている。</p> <p>□「家庭との連携」ということをはき違えて、家庭側も努力が必要、家庭側へ頑張りを要求にならないよう配慮が必要。</p>	<p>しい。長時間の食事介助が濃厚接触にあたると言われると焦ってしまう。</p> <p>□食物アレルギー食品が1つの場合は、書面（献立表）にて4者で除去確認を行い提供をしている。</p> <p>□仕事の激変や収入減などで生活のリズムが変わってしまった場合もある。親のストレスが子どもの発育に影響を受けないように、しっかりと食事の面でフォローする。</p> <p>□コロナ禍により保育内容を変更したといったことは、基本的な生活習慣についてはほとんどない。しかし、もともと定数で配置されている保育士がコロナ関係で複数休むと大規模園のようなクラス間流用といった柔軟な対応もできず、子どもの安全だけをとにかく見守るという託児的な対応になりがちである。また、設置基準に応じた環境であっても、年齢に応じた対応や一人一人の状態に応じた対応を行う多目的なスペースがなく、保護者に向けてもソーシャルディスタンスの確保などには気を遣っている状態。</p> <p>□せめて、最低基準に+1名いれば、ゆったりと対応できる場面は増える。給食の時間が早くなりがち。1100スタートとか、1130スタートとか。</p> <p>□一人一人の状態、様子を把握しながら、自分でしようとする気持ちを大切に、援助を行っているが、家庭との連携がコロナ禍で取りにくくなっていることはある。</p> <p>□家庭との連携は登降園のみの短い会話、また、連絡帳のやりとりで取れるようにし、詳しく書くように心がける。</p>
--	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 心身の健康に関する領域「健康」

○ 内容

⑤ 身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く。

↳ 関連する「内容の取扱い」

③ 排泄の習慣については、一人一人の排尿間隔等を踏まえ、おむつが汚れていないときに便器に座らせるなどにより、少しずつ慣れさせるようにすること。

④ 食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなど、生活に必要な基本的な習慣については、一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で行うようにし、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重すること。また、基本的な生活習慣の形成に当たっては、家庭での生活経験に配慮し、家庭との適切な連携の下で行うようにすること。

➤ 内容⑤および内容の取扱い③④と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 手洗い場が少なく、待ち時間を少なくするために丁寧な手洗い習慣ができていない。 <input type="checkbox"/> インターネットやメディアからトイレトレーニングに関する情報を得ている保護者が多く子どもの発達とあっていない場合がある。 <input type="checkbox"/> 発達上の課題もあり、個人差が大きい。 <input type="checkbox"/> 保育士の不足から一人一人に合わせた十分なかわりができていないことも多い。 <input type="checkbox"/> おむつの性能が上がり、家庭で長時間交換しない家庭があり、清潔になる心地よさが感じにくく、トイレトレーニングが進みづらい。 <input type="checkbox"/> 生活習慣の獲得のため、子どもが自ら行う姿を見守る必要性を伝えたいが、保護者が忙しく、十分な会話や連携の時間が取りづらい。 <input type="checkbox"/> 子どもの発達の理解が、保護者にない場合もある。 <input type="checkbox"/> 保育士数の関係、異年齢の関係などから、一人一人の状態に応じた適切な保育が提供できないこともある。また、小規模保育園の特性から、託児施設と誤解している保護者も少 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 子どもの鼻水を拭いた後の手指消毒を徹底している。 <input type="checkbox"/> より一層、清潔に気を使っている。 <input type="checkbox"/> 手洗いなどの清潔習慣もコロナ以前より取り組みつつ、現状が最適が不安な人も多い。 <input type="checkbox"/> コロナ禍により保育内容を変更したといったことは、基本的な生活習慣についてはほとんどない。しかし、もともと定数で配置されている保育士がコロナ関係で複数休むと大規模園のようなクラス間流用といった柔軟な対応もできず、子どもの安全だけをとにかく見守るという託児的な対応になりがちである。また、設置基準に応じた環境であっても、年齢に応じた対応や一人一人の状態に応じた対応を行う多目的なスペースがなく、保護者に向けてもソーシャルディスタンスの確保などには気を遣っている状態。 <input type="checkbox"/> 個人対応をしている間、集団を見る職員が居ない。なので、全員をトイレに連れていき、個人の希望に合わせてトイレに座るなど試みる。タイミングがずれその後に訴えた園児

<p>なくないため、家庭との連携が病気・ケガの共有などの表面的なものになっている。</p> <p>□「家庭との連携」ということをはき違えて、家庭側も努力が必要、家庭側へ頑張りを要求にならないよう配慮が必要。</p>	<p>には「さっきトイレに行ったでしょ」という対応になってしまう。</p> <p>□一人一人の状態、様子を把握しながら、自分でしようとする気持ちを大切に、援助を行っているが、家庭との連携がコロナ禍で取りにくくなっていることはある。</p> <p>□家庭との連携は登降園のみの短い会話、また、連絡帳のやりとりで取れるようにし、詳しく書くように心がける。</p>
---	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 心身の健康に関する領域「健康」

○ 内容

⑥ 保育士等の助けを借りながら、衣類の着脱を自分でしようとする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

④ 食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなど、生活に必要な基本的な習慣については、一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で行うようにし、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重すること。また、基本的な生活習慣の形成に当たっては、家庭での生活経験に配慮し、家庭との適切な連携の下で行うようにすること。

➤ 内容⑥および内容の取扱い④と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□保護者が忙しいことから、家庭で着脱をする経験が少ない。そのため、保育士が要領を知らせながら見守り、自分でできたという満足感が持てるようにしている。</p> <p>□収納・着脱などの場所が限られており、自発的な着脱や集中して行うことの難しさがある。</p> <p>□おむつの性能が上がり、家庭で長時間交換しない家庭があり、清潔になる心地よさが感じにくく、トイレトレーニングが進みづらい。</p> <p>□生活習慣の獲得のために、子どもが自ら行う</p>	<p>□保育士は手指の消毒を欠かさず、援助を行っている。</p> <p>□保育士の不足などで、子ども一人一人のペースに合わせたゆとりあるかわりができにくい。</p> <p>□玄関での受け入れにしているため、保育士がゆとりをもって荷物の準備ができるように工夫している。</p> <p>□一人一人の状態、様子を把握しながら、自分でしようとする気持ちを大切に、援助を行っているが、家庭との連携がコロナ禍で取り</p>

<p>姿を見守る必要性を伝えたいが、保護者が忙しく、十分な会話や連携の時間が取りづらい。</p> <p>□保育時間が長く、保護者が子どもにかかる時間は短くなっている。さらに、仕事以外の時間も母親一人に負担が強られる場面が多い事からストレスを感じやすくなる。</p> <p>□上記にも記載したが、子どもの発達への理解が、保護者にない場合もある。</p> <p>□保育士数の関係、異年齢の関係などから、一人一人の状態に応じた適切な保育が提供できないこともある。また、小規模保育園の特性から、託児施設と誤解している保護者も少なくないため、家庭との連携が病気・ケガの共有などの表面的なものになっている。</p> <p>□「家庭との連携」ということをはき違えて、家庭側も努力が必要、家庭側へ頑張りを要求にならないよう配慮が必要。</p>	<p>にくくなっていることはある。</p> <p>□家庭との連携は登降園のみの短い会話、また、連絡帳のやりとりで取れるようにし、詳しく書くように心がける。</p> <p>□コロナ禍により保育内容を変更したといったことは、基本的な生活習慣についてはほとんどない。しかし、もともと定数で配置されている保育士がコロナ関係で複数休むと大規模園のようなクラス間流用といった柔軟な対応もできず、子どもの安全だけをとにかく見守るという託児的な対応になりがちである。また、設置基準に応じた環境であっても、年齢に応じた対応や一人一人の状態に応じた対応を行う多目的なスペースがなく、保護者に向けてもソーシャルディスタンスの確保などには気を遣っている状態。</p>
---	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 心身の健康に関する領域「健康」

○ 内容

⑦ 便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる。

↳ 関連する「内容の取扱い」

③ 排泄の習慣については、一人一人の排尿間隔等を踏まえ、おむつが汚れていないときに便器に座らせるなどにより、少しずつ慣れさせるようにすること。

④ 食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなど、生活に必要な基本的な習慣については、一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で行うようにし、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重すること。また、基本的な生活習慣の形成に当たっては、家庭での生活経験に配慮し、家庭との適切な連携の下で行うようにすること。

➤ 内容⑦および内容の取扱い③④と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□ 育児情報が氾濫しており、保護者が記事通りにトイレトレーニングを行うことで、かたくなに便器に座ることを嫌がる子どもがいる。結果排泄の自立が遅くなっている。</p> <p>□ 家庭では男児も座って排尿することが多く、立って排尿する事に慣れるまで時間を要する。</p> <p>□ おまるを置く場所がない。紙おむつでは濡れた感覚が分からず、外からも分かりにくい。</p> <p>□ インターネットやメディアからトイレトレーニングに関しての情報を得ている保護者が多く子どもの発達とあっていない場合がある。</p> <p>□ 発達上の課題もあり、個人差が大きい。</p> <p>□ 保育士の不足から一人一人に合わせた十分なかわりができていないことも多い。</p> <p>□ おむつの性能が上がり、家庭で長時間交換しない家庭があり、清潔になる心地よさが感じにくく、トイレトレーニングが進みづらい。</p> <p>□ 生活習慣の獲得のために、子どもが自ら行う姿を見守る必要性を伝えたいが、保護者が忙しく、十分な会話や連携の時間が取りづらい。</p> <p>□ 保育時間が長く、保護者が子どもにかかる時間は短くなっている。さらに、仕事以外の時間も母親一人に負担が強られる場面が多い事からストレスを感じやすくなる。</p> <p>□ 上記にも記載したが、子どもの発達の理解が、保護者にない場合もある。</p> <p>□ 保育士数の関係、異年齢の関係などから、一人一人の状態に応じた適切な保育が提供できないこともある。また、小規模保育園の特性から、託児施設と誤解している保護者も少なくないため、家庭との連携が病気・ケガの共有などの表面的なものになっている。</p>	<p>□ 保育士の不足などで、子ども一人一人のペースに合わせたゆとりあるかわりができにくい。</p> <p>□ コロナ禍により保育内容を変更したといったことは、基本的な生活習慣についてはほとんどない。しかし、もともと定数で配置されている保育士がコロナ関係で複数休むと大規模園のようなクラス間流用といった柔軟な対応もできず、子どもの安全だけをとにかく見守るという託児的な対応になりがちである。また、設置基準に応じた環境であっても、年齢に応じた対応や一人一人の状態に応じた対応を行う多目的なスペースがなく、保護者に向けてもソーシャルディスタンスの確保などには気を遣っている状態。</p> <p>□ 個人対応をしている間、集団を見る職員が居ない。なので、全員をトイレに連れていき、個人の希望に合わせてトイレに座るなど試みる。タイミングがずれその後に訴えた園児には「さっきトイレに行ったでしょ」という対応になってしまう。</p> <p>□ 一人一人の状態、様子を把握しながら、自分でしようとする気持ちを大切に、援助を行っているが、家庭との連携がコロナ禍で取りにくくなっていることはある。</p> <p>□ 家庭との連携は登降園のみの短い会話、また、連絡帳のやりとりで取れるようにし、詳しく書くように心がける。</p>

□「家庭との連携」ということをはき違えて、 家庭側も努力が必要、家庭側へ頑張りを要求 にならないよう配慮が必要。	
--	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」

○ A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)

- ・マスクなしでの生活の保障。
- ・丁寧な保護者の支援が必要なため、加配を位置づけていただきたい。家庭支援推進事業の拡充。
- ・保護者が相談しやすい方法やシステムを構築する必要がある。そのためには、人員の確保と研修体制を整えることが必要。
- ・衛生管理のために保育士の仕事量が増えている。保育体制強化事業(拡充)保育に係る周辺業務を行う人の配置促進。
- ・コロナの流行で、保護者が園舎入室が出来なくなったことで、より丁寧に子どもたちのことを連絡帳や送迎時に伝え家庭での情報を共有する。
- ・密を避ける為、遊ぶ空間を広くとり、少人数での活動が増える為、保育士の手が足りない事がある。
- ・全身を使った遊びが家庭内で減ってきていると思うので、保育所(園)での役割が大きい。
- ・トイレトレーニングに関しては家庭との連携が必要だと感じているので、保護者にも大切さを伝え、無理なく対応出来るように心がける。
- ・保護者(主に母親)のネットワークが、SNSのため、乳幼児健診における相談までたどり着いていない。
- ・交通ルールを守っているのに、車が突っ込んでくる事故が多発しており、街道整備等が進むが、市町村の温度差がある。
- ・出産前に、保育所に来られる機会(プレ母親(父親)学級等)となると、相談機関かもしれない。
- ・保育士数配置基準の法改正
- ・衛生面で嘱託職員でもよいので看護師や保健師の配置予算をつける
- ・コロナ関係で職員が休んだ場合の休園措置、当該親子に対する保育の保障を行政レベルでしてほしい
- ・生活習慣や消毒の適切な方法・頻度・内容などについて、医療関係者からの指示のもとに行う
- ・小規模であっても、現状の緩和措置で、『保育』として十分なのか、学識を含めた行政レベルで点検・検討。
- ・未満児保育において、異年齢ワンフロアが適切か、そのために必要な別室(多目的空間、保育士

休憩室など)の整備について学識を含めた行政レベルで点検・検討。

- ・この時期の保育士とのかかわり、子ども同士のかかわりの重要性を保護者に伝え、コロナ禍であっても必要な保育であることを、学識の援助も受け発信。
- ・行事や保育以外にも、書類作成も年間計画を立て取り組む。その際、年間を通して業務時間のバランスを整える。
- ・合同の時間帯にも対応がとれるように、寝具や簡易ベットを合同保育室に設置したり、すぐ取り出せるように配置する。
- ・メニューによって人手が必要な時には、子育て支援員さんに2時間程度、調理業務をお願いする。フリー職員を配置し、書類仕事や給食時の手が必要な時などにクラスへ入るなど対応する。



○ 今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点

i	配置基準の改定 ・保育者自身の安定、ゆとりを持った関りのために配置基準の見直しが必要。
ii	ゆとりをもって子どもと関わることのできる環境の整備 ・手づかみ→スプーン 離乳食→完了食→幼児食 の進め方やトイレトレーニングなど子どもの体のづくり(膀胱の大きさや働き等も含め)を丁寧に説明する必要があるため、保育士が愛情豊かに子どもと子育てに関われる環境整備が必要
iii	専門性の向上の機会の確保 ・保育に携わる看護師にも「保育」に関わる研修が必要では。 ・キャリアアップの前に「こども観」「保育観」の研修を必須とし、現場を経験した方が取得しやすいのでは。 ・保育士のスキルアップ(研修への参加)の観点からも職員配置の見直しが必要。
iv	コロナ禍が子どもに与える影響の検証 ・毎日マスクをする生活が影響する子どもの発達

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ ねらい

- ① 保育所での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じる。
- ② 周囲の子ども等への興味や関心が高まり、関わりをもとうとする。
- ③ 保育所の生活の仕方に慣れ、きまりの大切さに気付く。

○ 内容

- ① 保育士等や周囲の子ども等との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 保育士等との信頼関係に支えられて生活を確立するとともに、自分で何かをしようとする気持ちが旺盛になる時期であることに鑑み、そのような子どもの気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに、応答的に関わり、適切な援助を

➤ 内容①および内容の取扱い①と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 就労形態が多様化され、延長保育、休日、病児保育など利用する子どもは、長時間保育、生活する場所が変わることもあり、情緒の安定が難しい時もある。 <input type="checkbox"/> 核家族化、子どもとの時間が取れない保護者がいる中で保育園で家庭的な保育を目指す。 <input type="checkbox"/> 1学年の人数は大規模園に比べるとこの内容が達成されやすい。しかし、異年齢の難しさがある。 <input type="checkbox"/> 1、2歳児6:1の職員配置で応答的に適切な援助が難しい時がある <input type="checkbox"/> 保育士の人数が定数の配置の中、その子どもにかかわる以外の仕事(別の子どもの対応、掃除、配膳など)をせざるを得ない場面があり、適切な援助ができていないこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 保育者は日常的にマスクをするので、子どもとの安定した関係を築く為、マスクを外した笑顔の写真を名札につけて胸に着用している。 <input type="checkbox"/> 保育士や友だちと過ごすことが希薄にならないように言葉かけや会話のやりとり十分に配慮する。 <input type="checkbox"/> コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、ゆとりがない悪循環に陥る。 <input type="checkbox"/> 玩具の衛生管理に努めた。 <input type="checkbox"/> コロナ禍でスキンシップを行うことが難しくはなっているが、できたことには大いに褒め、自分がしていることに自信が持てるように接していく。 <input type="checkbox"/> コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、子ども一人一人に応答的にかかわることができなくなることもある。友達や小さい子に対して乱暴であったり、すぐに手が出てしまったり、といった姿

	<p>に対しても、リアルタイムに適切な対応ができない場合もある。また職員不足は、日常の子どもの様子を伝えあったり、どのようにしていくか方向性や考え方を話しあう時間・機会をなくしたり減らしたりすることにもつながっている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの保育と、その他の仕事が混在しているとこれは出来ない。</p>
--	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ 内容

② 保育士等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 保育士等との信頼関係に支えられて生活を確立するとともに、自分で何かをしようとする気持ちが旺盛になる時期であることに鑑み、そのような子どもの気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに、応答的に関わり、適切な援助を

➤ 内容②および内容の取扱い①と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<input type="checkbox"/> 保育士数がギリギリであるものの、丁寧なかわりに努めている。 <input type="checkbox"/> 1、2歳児6:1の職員配置で応答的に適切な援助が難しい時がある <input type="checkbox"/> 保育士の人数が定数の配置の中、その子どもにかかわる以外の仕事(別の子どもの対応、掃除、配膳など)をせざるを得ない場面があり、適切な援助ができていないこともある。	<input type="checkbox"/> 濃厚接触のリスクを考慮すると、今までのように十分なスキンシップが取りづらい。 <input type="checkbox"/> コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、ゆとりがない悪循環に陥る。 <input type="checkbox"/> 食事や衣服の着脱、排泄などと、職員がやらなければならない仕事(片づけや、次の準備、配膳など)を同時進行で取り組むような場面では、6人に1人では声を荒げることがあるようだ。 <input type="checkbox"/> 玩具の衛生管理に努めた。 <input type="checkbox"/> コロナ禍でスキンシップを行うことが難しくはなっているが、できたことには大いに褒

	<p>め、自分がしていることに自信が持てるように接していく。</p> <p>□コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、子ども一人一人に応答的にかかわることができなくなることもある。友達や小さい子に対して乱暴であったり、すぐに手が出てしまったり、といった姿に対しても、リアルタイムに適切な対応ができない場合もある。また職員不足は、日常の子どもの様子を伝えあったり、どのようにしていくか方向性や考え方を話しあう時間・機会をなくしたり減らしたりすることにもつながっている。</p> <p>□子どもの保育と、その他の仕事が混在しているとこれは出来ない。</p>
--	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ 内容

③ 身の回りに様々な人がいることに気付き、徐々に他の子どもと関わりをもって遊ぶ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

② 思い通りにいかない場合等の子どもの不安定な感情の表出については、保育士等が受容的に受け止めるとともに、そうした気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることへの気付き等につなげていけるように援助すること。

③ この時期は自己と他者との違いの認識がまだ十分ではないことから、子どもの自我の育ちを見守るとともに、保育士等が仲立ちとなって、自分の気持ちを相手に伝えることや相手の気持ちに気付くことの大切さなど、友達の気持ちや友達との関わり方を丁寧に伝えていくこと。

➤ 内容③および内容の取扱い②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
□核家族化でコミュニケーションがとりにくくなっていることもあり、孤立する子どもが	□異年齢との交流に制限があり、親しみを持つ機会が減少。

<p>いる。</p> <p>□一人っ子が多くなり、集団生活に期待されるが、小規模には3歳以上児がいない。</p> <p>□保護者に“トラブルを経験しての育ち”が伝わりにくく、苦情につながる場合がある。</p> <p>□保護者が就労と子育てで忙しく、余裕がない時は、子どもの思いを聞かずに、善悪を判断することがあり、保育所でも感情を出せない子どももいる。保育士が子どもの思いに気づき寄り添うことで、感情が出せるようにしている。</p> <p>□思い通りになるまで泣き通そうとする子どもが増えていているように感じる。家庭で我慢が出来ていないので、気持ちのコントロールが少しずつ出来るように導いていく。</p> <p>□仕事のため長時間保育になる場合、気持ちが満たされておらず不安定になりがちなので、スキンシップをしたり要求に応え関わっている</p> <p>□一部の子どもには、母親からの愛情不足・育児を知らないための放任や過保護、など現代社会における家庭環境の問題が見られる。</p> <p>□小規模園では、向かい合う相手が同年齢とは限らず、2歳児対0歳児だと、2歳児にとっては納得いかないままの我慢、0歳児にとっては意味のない我慢を強いられることもあり、課題。</p>	<p>□制止することはないが、あまりに密の状態などには気を配っている。</p> <p>□感染や濃厚接触者となり保育士の休みが重なると担任以外の職員（短時間保育士等）がクラスに入ることになる。子どもの性格や発達、かかわり方などのポイントが分からず、十分に援助ができないこともある。</p> <p>□消毒や感染症の対応に忙しく、保育士の育成ができていないことで、保育内容への理解や必要な援助の方法などの習得が難しい。</p> <p>□コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、子ども一人一人に応答的にかかわることができなくなることもある。友達や小さい子に対して乱暴であったり、すぐに手が出てしまったり、といった姿に対しても、リアルタイムに適切な対応ができない場合もある。また職員不足は、日常の子どもの様子を伝えあったり、どのようにしていくか方向性や考え方を話しあう時間・機会をなくしたり減らしたりすることにもつながっている。</p> <p>□個別配慮が必要な子どもがいる場合、職員1人がかなり対応に追われる。10人に1人とも言われることを踏まえると、クラスの規模によりクラス単位の加算が必要ではないかと思われる。</p> <p>□保育士等の仲立ちがとても大切な時期であるが、個別対応と集団対応は同時に行うことが出来ない</p>
---	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ 内容

④ 保育士等の仲立ちにより、他の子どもとの関わり方を少しずつ身につける。

↳ 関連する「内容の取扱い」

② 思い通りにいかない場合等の子どもの不安定な感情の表出については、保育士等が受容的に受け止めるとともに、そうした気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることへの気付き等につなげていけるように援助すること。

③ この時期は自己と他者との違いの認識がまだ十分ではないことから、子どもの自我の育ちを見守るとともに、保育士等が仲立ちとなって、自分の気持ちを相手に伝えることや相手の気持ちに気付くことの大切さなど、友達の気持ちや友達との関わり方を丁寧に伝えていくこと。

➤ 内容④および内容の取扱い②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 周囲に同年齢の友だちがいない子は経験が少なく、トラブルにつながりやすい。</p> <p><input type="checkbox"/> 異年齢間におけるかかわり方は難しく、それをこの時期の子どもに求めていくことは無理なのではないか。</p> <p><input type="checkbox"/> 保護者に“トラブルを経験しての育ち”が伝わりにくく、苦情につながる場合がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 保護者が就労と子育てで忙しく、余裕がない時は、子どもの思いを聞かずに、善悪を判断することがあり、保育所でも感情を出せない子どももいる。保育士が子どもの思いに気づき寄り添うことで、感情が出せるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 思い通りになるまで泣き通そうとする子どもが増えていているように感じる。家庭で我慢が出来ていないので、気持ちのコントロールが少しずつ出来るように導いていく。</p> <p><input type="checkbox"/> 仕事のため長時間保育になる場合、気持ちが満たされておらず不安定になりがちなので、スキンシップをしたり要求に応え関わって</p>	<p><input type="checkbox"/> 密を防ぎつつ、友だちと一緒に遊びこめるように、間隔を広くとったコーナー配置を見直した。</p> <p><input type="checkbox"/> 制止することはないが、あまりに密の状態などには気を配っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 園児の行動理解など保育者の高いスキルが求められる。すべての保育者ができることではない。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染や濃厚接触者となり保育士の休みが重なると担任以外の職員（短時間保育士等）がクラスに入ることになる。子どもの性格や発達、かかわり方などのポイントが分からず、十分に援助ができないこともある。</p> <p><input type="checkbox"/> 消毒や感染症の対応に忙しく、保育士の育成ができていないことで、保育内容への理解や必要な援助の方法などの習得が難しい。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、子ども一人一人に応答的にかかわることができなくなることもある。友達や小さい子に対して乱暴であったり、すぐに手が出てしまったり、といった姿</p>

<p>いる。</p> <p>□一部の子どもには、母親からの愛情不足・育児を知らないための放任や過保護、など現代社会における家庭環境の問題が見られる。</p> <p>□自己と他者の物がわからず、全て自分の物にしようとするが増えてきているので、保育士が仲立ちし、少しずつでも他者の気持ちもあることを伝えていけるようにする。</p> <p>□小規模園では、向かい合う相手が同年齢とは限らず、2歳児対0歳児だと、2歳児にとっては納得いかないままの我慢、0歳児にとっては意味のない我慢を強いられることもあり、課題。</p>	<p>に対しても、リアルタイムに適切な対応ができない場合もある。また職員不足は、日常の子どもの様子を伝えあったり、どのようにしていくか方向性や考え方を話しあう時間・機会をなくしたり減らしたりすることにもつながっている。</p> <p>□個別配慮が必要な子どもがいる場合、職員1人がかなり対応に追われる。10人に1人とも言われることを踏まえると、クラスの規模によりクラス単位の加算が必要ではないかと思われる。</p> <p>□保育士等の仲立ちがとても大切な時期であるが、個別対応と集団対応は同時に行うことが出来ない</p>
--	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ 内容

⑤ 保育所の生活の仕方に慣れ、きまりがあることや、その大切さに気付く。

↳ 関連する「内容の取扱い」

② 思い通りにいかない場合等の子どもの不安定な感情の表出については、保育士等が受容的に受け止めるとともに、そうした気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることへの気付き等につなげていけるように援助すること。

③ この時期は自己と他者との違いの認識がまだ十分ではないことから、子どもの自我の育ちを見守るとともに、保育士等が仲立ちとなって、自分の気持ちを相手に伝えることや相手の気持ちに気付くことの大切さなど、友達の気持ちや友達との関わり方を丁寧に伝えていくこと。

➤ 内容⑤および内容の取扱い②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
□子どもの育ちや個性により、なかなか社会のルールが身に付きにくい子どもがいる。	□一般的なコロナ感染予防の決まりが保育園のこの年齢にも必要かどうかわからないで

<p>□この年齢に、決まりやその大切さに気づくことを求めるのは難しいが小規模だともっと難しい。</p> <p>□保護者が就労と子育てで忙しく、余裕がない時は、子どもの思いを聞かずに、善悪を判断することがあり、保育所でも感情を出せない子どももいる。保育士が子どもの思いに気づき寄り添うことで、感情が出せるようにしている。</p> <p>□思い通りになるまで泣き通そうとする子どもが増えていているように感じる。家庭で我慢が出来ていないので、気持ちのコントロールが少しずつ出来るように導いていく。</p> <p>□自己と他者の物がわからず、全て自分の物にしようとするが増えてきているので、保育士が仲立ちし、少しずつでも他者の気持ちもあることを伝えていけるようにする。</p> <p>□小規模園では、向かい合う相手が同年齢とは限らず、2歳児対0歳児だと、2歳児にとっては納得いかないままの我慢、0歳児にとっては意味のない我慢を強いられることもあり、課題。</p>	<p>いる。</p> <p>□感染や濃厚接触者となり保育士の休みが重なると担任以外の職員（短時間保育士等）がクラスに入ることになる。子どもの性格や発達、かかわり方などのポイントが分からず、十分に援助ができないこともある。</p> <p>□消毒や感染症の対応に忙しく、保育士の育成ができていないことで、保育内容への理解や必要な援助の方法などの習得が難しい。</p> <p>□コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、子ども一人一人に応答的にかかわることができなくなることもある。友達や小さい子に対して乱暴であったり、すぐに手が出てしまったり、といった姿に対しても、リアルタイムに適切な対応ができない場合もある。また職員不足は、日常の子どもの様子を伝えあったり、どのようにしていくか方向性や考え方を話しあう時間・機会をなくしたり減らしたりすることにもつながっている。</p> <p>□個別配慮が必要な子どもがいる場合、職員1人がかなり対応に追われる。10人に1人とも言われることを踏まえると、クラスの規模によりクラス単位の加算が必要ではないかと思われる。</p> <p>□保育士等の仲立ちがとても大切な時期であるが、個別対応と集団対応は同時に行うことが出来ない</p>
---	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ 内容

⑥ 生活や遊びの中で、年長や保育士等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 保育士等との信頼関係に支えられて生活を確立するとともに、自分で何かをしようとする気持ちが旺盛になる時期であることに鑑み、そのような子どもの気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに、応答的に関わり、適切な援助を行うようにすること。

➤ 内容⑥および内容の取扱い①と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 小規模だと、2歳児には年長児がおらず、そのまねをする機会が少ない。</p> <p><input type="checkbox"/> 1、2歳児6:1の職員配置で応答的に適切な援助が難しい時がある</p> <p><input type="checkbox"/> 保育士の人数が定数の配置の中、その子どもにかかわる以外の仕事(別の子どもの対応、掃除、配膳など)をせざるを得ない場面があり、適切な援助ができていないこともある。</p>	<p><input type="checkbox"/> マスクをしている為、保育士等の真似をしたりでは表情がわかりにくい。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染防止のためにクラス単位で保育をしているため、以上児クラスとの関わりは持ていない。</p> <p><input type="checkbox"/> 室内での交流が難しいため、戸外で交流の機会を作っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 異年齢児との関りが減ってきているので、距離をとりながら行事での年中、年長児の姿を見てもらう。</p> <p><input type="checkbox"/> 他クラスの様子も楽しめるようYouTube配信などを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、ゆとりがない悪循環に陥る。</p> <p><input type="checkbox"/> 玩具の衛生管理に努めた。</p> <p><input type="checkbox"/> スキンシップを行うことが難しくなっているが、できたことには大いに褒め、自分に自信が持てるように接していく。</p> <p><input type="checkbox"/> 子ども保育と、その他の仕事が混在しているとこれは出来ない。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ A・B を踏まえて今後必要と考えられる要素

(制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)

- ・ 保育士の確保が難しくなり、短時間パートの保育士や臨時職員が増えている。子どもの育ちを保障するためには、保育内容の理解や資質の向上のための研修体制の構築が必要。
- ・ 育児休業や子育て世帯の方の就労時間の緩和など、子育てをしやすい制度の確立。
- ・ コロナ禍でスキンシップが難しくなる中、友だちにも違う考え、気持ちがあることに気付けるように、保育所(園)で他者と関わる体験がとて重要になると思う。
- ・ 保育士数配置基準の法改正
- ・ コロナ関係で職員が休んだ場合の休園措置、当該親子に対する保育の保障を行政レベルでしてほしい
- ・ 小規模であっても、現状の緩和措置で、『保育』として十分なのか、学識を含めた行政レベルで点検・検討。
- ・ この年齢に必須の消毒の適切な方法・頻度・内容などについて、医療関係者からの指示のもとに行う
- ・ この時期の保育士とのかかわり、子ども同士のかかわりの重要性を保護者に伝え、コロナ禍であっても必要な保育であることを、学識の援助も受け発信。
- ・ 生活の学びについては、生活時間のみに体験を組み入れると、時間に振り回されることが多いので、あえて、設定保育の中に実践を組み入れることで、生活時間は職員が気兼ねなく手伝うことができる。
- ・ 指導係へいつでも相談できる関係を築く。不適切な保育が見られた時には、即園内研修を実施し、正しい保育を共有する。
- ・ 年長児だけとは限らない。
- ・ 保育所は人が人を育てる場であることを、保育者自身が改めて自覚する必要がある。



○ 今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点

i	<p>生活様式の変化等を踏まえた人間関係の基礎づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者には、より落ち着いた(安心できる)雰囲気求められる ・ 決まりの大切さは、繰り返し知らせていくことで、3歳~4歳位で、大切さによりやく気付くのでは。決まりの大切さは、保育者の言葉掛けで知る程度ではないか。配慮が必要な子にはもっと難しいため、その視点も必要ではないか。 ・ 令和 AI 時代になり、人との関係の基礎を築く保育所の役割は重要
ii	<p>配置基準の改定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1歳児であっても1:1の関わりが必要な場面があり、柔軟に対応できる人員配置に見直すことが必要。
iii	<p>保育士の応答的で受容的な関り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人は信頼できるものだという基礎を築くために、保育者の役割は重要

iv	自我の芽生えの受け止め方。家庭への発信
	・専門職の立場からこの時期の子どもについて、また「しんどさ」だけでなく、この時期の面白さ、楽しさも伝えていく

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

○ ねらい

- ① 身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ。
- ② 様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。
- ③ 見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする。

○ 内容

- ① 安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 玩具などは、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切なものを選び、遊びを通して感覚の発達が促されるように工夫すること。

② 身近な生き物との関わりについては、子どもが命を感じ、生命の尊さに気付く経験へとつながるものであることから、そうした気付きを促すような関わりとなるようにすること。

③ 地域の生活や季節の行事などに触れる際には、社会とのつながりや地域社会の文化への気付きにつながるものとなることが望ましいこと。その際、保育所内外の行事や地域の人々との触れ合いなどを通して行うこと等も考慮すること。

➤ 内容①および内容の取扱い①②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 異常な暑さから、戸外での活動を制限しなければならない。 <input type="checkbox"/> いろいろな環境下で、物に触れることを嫌がる親が増え、自由に探索活動ができない経験不足な子もいる。 <input type="checkbox"/> 敷地内は自由に探索できるが、限りがあるため、十分とは言えないのかもしれない。 <input type="checkbox"/> 研修をうけ、玩具の質と量の充実を図っているが、家庭での遊びがテレビ・ビデオをも通り越し、スマホ・タブレットなどへ変化している。ギャップがある。 <input type="checkbox"/> 生き物に触れることを避ける家庭があり、生き物には命があり、いつかなくなってしまう 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> コロナ禍で、園外散歩にいけませんが、園内に自然に触れる場所があるので散歩をしたり、草花に触れたりして遊んでいる。 <input type="checkbox"/> 密にならないように小人数で過ごしたり距離を保ったりしている。 <input type="checkbox"/> 安全のためには消毒の必要性もあり、活動を規制している場面もある。 <input type="checkbox"/> 子どもにあった手作り玩具を作成し、共有の玩具は感染対策の為にこまめに消毒を行うことで、自由に使うことが以前より減った気がする。 <input type="checkbox"/> コロナ禍で、ショッピングの機会が減り、子どもが実際に見て、玩具を買ってもらう機会

<p>という経験ができないでいる子がいる。</p> <p>□園では、アゲハチョウを孵化させたり、カブトムシを卵から育てたり、といった活動があるが、家庭では環境的になかなか触れ合う機会がないようである。</p> <p>□地域との関係を避けて、過ごす家庭が多くなり、季節の行事を知らないで過ごす子が多くなった。そのため園内で知らせる工夫をしている。</p> <p>□核家族化が進み、季節ごとの伝統的な行事への関心が薄れており、保育所の役割が大きい。</p> <p>□核家族化や転勤等の理由から地元の方との交流なく過ごしている家庭も多く、また、小規模だと地域や季節に対応した行事なども少なく、機会を逃している。</p>	<p>が減っているようだ。家にいることが多く、ネットなどをみせてしまう</p> <p>□都会で育った保護者自身が生き物を捕えたり飼ったりした経験がなく、コロナ感染の誤解もあって、生き物に対しマイナス要素があるかもしれない。</p> <p>□通常の近隣への散歩は可能だが、地域の高齢者施設の訪問等、日常的に行っていたことができなくなった。再開の目途が立たない。</p> <p>□園外に出ることが難しく、また、地域の方を迎え入れることもできなかった為、地域の方々との交流ができなかった。</p> <p>□コロナ禍で園外活動に制限があり、実際に近隣の生活などを見る機会がなくなっている。絵本などを通して生活の様子や町や店の様子などを知らせている。</p> <p>□コロナ禍で、地域の行事が激減していたり、外出の機会が少なくなっていたりして、つながりや文化に触れる経験が減っているようだ。</p> <p>□地域の行事へ参加する際、「出来栄え評価」となることは避ける。</p>
--	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

○ 内容

② 玩具、絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 玩具などは、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切なものを選び、遊びを通して感覚の発達が促されるように工夫すること。

➤ 内容②および内容の取扱い①と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□絵本離れから、家庭で読まれない子が増えている為、絵本を集中して見られない子がいる。</p> <p>□家庭での遊びが機械音や光を放つ電子玩具に変化し、より刺激の強いものを好むようになってきた。</p> <p>□研修をうけ、玩具の質と量の充実を図っているが、家庭での遊びがテレビ・ビデオをも通り越し、スマホ・タブレットなどへ変化している。ギャップがある。</p>	<p>□消毒が出来る玩具・手作り玩具の見直しを行い、こまめに消毒している。</p> <p>□安全のためには消毒の必要性もあり、活動を規制している場面もある。</p> <p>□子どもにあった手作り玩具を作成し、共有の玩具は感染対策の為にこまめに消毒を行うことで、自由に使うことが以前より減った気がする。</p> <p>□コロナ禍で、ショッピングの機会が減り、子どもが実際に見て、玩具を買ってもらえる機会が減っているようだ。家にいることが多く、ネットなどをみせてしまう</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

○ 内容

③ 身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付く。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 玩具などは、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切なものを選び、遊びを通して感覚の発達が促されるように工夫すること。

➤ 内容③および内容の取扱い①と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□現代の親は、触れて学ぶことを避けて、SNSやTVなど見ることばかりが増え、実際に触れる機会が減ってきている。</p> <p>□知育玩具の普及により、表面的な数量や色の名前などが言えることに親は喜びを感じている。</p>	<p>□身の回りのものに触れる際、消毒をしてから触れるため、自由に触れられない環境下にある。</p> <p>□安全のためには消毒の必要性もあり、活動を規制している場面もある。</p> <p>□子どもにあった手作り玩具を作成し、共有の</p>

<p>□研修をうけ、玩具の質と量の充実を図っているが、家庭での遊びがテレビ・ビデオをも通り越し、スマホ・タブレットなどへ変化している。ギャップがある。</p>	<p>玩具は感染対策の為にこまめに消毒を行うことで、自由に使うことが以前より減った気がする。</p> <p>□コロナ禍で、ショッピングの機会が減り、子どもが実際に見て、玩具を買ってもらう機会が減っているようだ。家にいることが多く、ネットなどをみせてしまう</p>
---	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

○ 内容

④ 自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、環境を捉える感覚が育つ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 玩具などは、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切なものを選び、遊びを通して感覚の発達が促されるように工夫すること。

➤ 内容④および内容の取扱い①と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□核家族化が進み、いろいろな人と関わるのが少なくなったり、一人っ子などから、物を与えられ、人と共有することが減少している。</p> <p>□ロッカー・かばんなどが別空間にあり、日常的に自分の持ち物を管理していない。</p> <p>□研修をうけ、玩具の質と量の充実を図っているが、家庭での遊びがテレビ・ビデオをも通り越し、スマホ・タブレットなどへ変化している。ギャップがある。</p>	<p>□人との共有が難しくなったり、間隔を取って過ごすことにより、この感覚を育てることが難しくなっている。</p> <p>□安全のためには消毒の必要性もあり、活動を規制している場面もある。</p> <p>□子どもにあった手作り玩具を作成し、共有の玩具は感染対策の為にこまめに消毒を行うことで、自由に使うことが以前より減った気がする。</p> <p>□コロナ禍で、ショッピングの機会が減り、子どもが実際に見て、玩具を買ってもらう機会が減っているようだ。家にいることが多く、ネットなどをみせてしまう</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

○ 内容

⑤ 身近な生き物に気付き、親しみをもつ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

② 身近な生き物との関わりについては、子どもが命を感じ、生命の尊さに気付く経験へとつながるものであることから、そうした気付きを促すような関わりとなるようにすること。

➤ 内容⑤および内容の取扱い②と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 田んぼの減少により虫なども少なくなり、実物と触れ合える機会が少なくなっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 保育士の工夫により、身近な昆虫を育てているが、管理やえさの確保が難しくなっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 生き物に触れることを避ける家庭があり、生き物には命があり、いつかなくなってしまうという経験ができないでいる子がいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 園では、アゲハチョウを孵化させたり、カブトムシを卵から育てたり、といった活動があるが、家庭では環境的になかなか触れ合う機会がないようである。</p>	<p><input type="checkbox"/> コロナ禍で、家庭で出かける機会が少なくなっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 都会で育った保護者自身が生き物を捕えたり飼ったりした経験がなく、コロナ感染の誤解もあって、生き物に対しマイナス要素があるかもしれない。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

○ 内容

⑥ 近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

③ 地域の生活や季節の行事などに触れる際には、社会とのつながりや地域社会の文化への気付きにつながるものとなることが望ましいこと。その際、保育所内外の行事や地域の人々との触れ合いなどを通して行うこと等も考慮すること。

➤ 内容⑥および内容の取扱い③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 地域との関係を持たずに過ごす家庭が増え、子どもたちも経験していないことがある。</p> <p><input type="checkbox"/> 日本の伝統行事や祝い事を行う家庭が減っているため、伝統文化などに興味がある子どもが少なく、知らない子どももいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 年齢的なことと、小規模であることで、近隣に行く機会や行事が少ないが、連携には努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域との関係を避けて、過ごす家庭が多くなり、季節の行事を知らないで過ごす子が多くなった。そのため園内で知らせる工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 核家族化が進み、季節ごとの伝統的な行事への関心が薄れており、保育所の役割が大きい。</p> <p><input type="checkbox"/> 核家族化や転勤等の理由から地元の方との交流なく過ごしている家庭も多く、また、小規模だと地域や季節に対応した行事なども少なく、機会を逃している。</p>	<p><input type="checkbox"/> 近隣の生活に触れる機会はないが、保育所内で季節を感じられるように自然物を飾ったり、季節や行事の絵本を読み聞かせたりして関心が持てるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染防止の為、地域の行事参加ができなく、散歩での地域の人との触れ合いもできない。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍で地域の行事がなくなり、経験の幅が狭くなる</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍で、家庭で出かける機会が少なくなっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 通常の近隣への散歩は可能だが、地域の高齢者施設の訪問等、日常的に行っていたことができなくなった。再開の目途が立たない。</p> <p><input type="checkbox"/> 園外に出ることが難しく、また、地域の方を迎え入れることもできなかった為、地域の方々との交流ができなかった。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍で園外活動に制限があり、実際に近隣の生活などを見る機会がなくなっている。絵本などを通して生活の様子や町や店の様子などを知らせている。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍で、地域の行事が激減していたり、外出の機会が少なくなっていたりして、つながりや文化に触れる経験が減っているようだ。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の行事へ参加する際、「出来栄え評価」となることは避ける。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

○ A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)

- ・ 保育環境改善事業
- ・ 施設の安全や保育環境を整えるための事業
- ・ 物に触れる機会が減る中で、いかに子どもたちに経験を積むことができるのか、模索している。感染予防に努めた安全な環境の中で、いろいろな経験ができるように工夫をしている。
- ・ 保育士の負担軽減のため、保育体制強化事業(拡充)保育に係る周辺業務を行う人の配置促進。
- ・ 子どもたちが家庭で経験できないことが増えたので、その中でも園内で行事の大切さをわかりやすく伝えたり、面白さを知らせたりしながら、子どもたちの感性に触れられるようにしている。
- ・ この年齢に必須の消毒の適切な方法・頻度・内容などについて、医療関係者からの指示のもとに行う
- ・ この時期の適切な玩具の重要性を保護者に伝え、学識の援助も受け発信。
- ・ 小規模であっても、現状の緩和措置で、『保育』として十分なのか、学識を含めた行政レベルで点検・検討。
- ・ 小規模保育施設に対する研修の充実、研修時の代替え保育士の確保とその予算、小規模同士の横のつながりによる情報交換と共有
- ・ 孤立している家庭に対するかかわりの重要性を、地域の自治会や公民館、民生委員などと連携を取りながら、より良い経験の機会を確保し、豊かな育ちにつなげる。
- ・ その都度、職員へは指導を行う。養成校においては、発表や授業中における言葉遣いや表現力がより豊になるようにご指導頂きたい。



○ 今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点

気象等による環境の変化に対応した柔軟な保育環境の構築

- ・ 地域によっては、夏の異常な暑さで園庭やプール遊び、水遊びの制限、また冬の遊びの制限等もある中、園内において子どもたちに十分身体を使って遊びを展開できるような工夫が必要
- ・ 親子で気軽に掛けられない中、家の中だけで過ごすことが多くなり、運動不足もさることながら、自然に触れることが無くなり、それに伴う経験不足の子どもたちへいかにして様々な遊びを保障するか。
- ・ 絵本より、ビデオや YouTube に触れるのが早い子どもたち 自然の中の遊びやで五感を刺激して、情緒の安定をはかり、非認知能力を育てる。
- ・ 猛暑や新型コロナウイルスの影響により、これまでとは異なる保育環境の設定に大変な労力がかかっている。今後もこのような変化が起こる可能性があり、これを見越した労働環境の改善が必要(人員配置の見直し)。

ii	<p>日本（地域）の行事や日常の体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や人との関係が希薄になってきたが、工夫しながら子どもたちに経験させることは必要。かつては家庭であたりまえに経験してきたことも経験できないような状況もあるので園で経験することが必要。 ・緩和により、ビルの1フロアに保育園があったり、保護者が忌避するケースもあり、全体的に自然と触れ合う機会が減少している。また、保育士自身が自然に触れることなく育ってきていることもあるので、その辺りの創意工夫。自然の中での保育（森の保育）の重要性
iii	<p>バーチャルな時代における実体験の保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは体験して学ぶということを踏まえ、自然物と意識的にふれあい経験させることの重要性を感じる。

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

○ ねらい

- ① 言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる。
- ② 人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする。
- ③ 絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる。

○ 内容

- ① 保育士等の応答的な関わりや話しかけにより、自ら言葉を使おうとする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 身近な人に親しみをもって接し、自分の感情などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して、次第に言葉が獲得されていくものであることを考慮して、楽しい雰囲気の中で保育士等との言葉のやり取りができるようにすること。
- ② 子どもが自分の思いを言葉で伝えるとともに、他の子どもの話などを聞くことを通して、次第に話を理解し、言葉による伝え合いができるようになるよう、気持ちや経験等の言語化を行うことを援助するなど、子ども同士の関わりの中を立ち行うようにすること。
- ③ この時期は、片言から、二語文、ごっこ遊びでのやり取りができる程度へと、大きく言葉の習得が進む時期であることから、それぞれの子どもの発達の状況に応じて、遊びや関わり工夫など、保育の内容を適切に展開することが必要であること。

➤ 内容①および内容の取扱い①②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□ 家庭で TV など一方的に耳にする言葉を意味を理解せずに使用する子どもがいて、気になる。</p> <p>□ 保育士の不足によるかかわりの不十分さ。</p> <p>□ 同じように保育士が応答をしても、親子での会話が少ない家庭は、感情を伝える言葉の習得や語彙を獲得することに差が見られる。</p> <p>□ 親が忙しくなり、子どもの言葉に耳を傾けな</p>	<p>□ 保育者のマスク使用により、口元が見えず模倣しにくいいため、必要に応じてマウスシールドを使用する。</p> <p>□ コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、ゆとりがない悪循環に陥る。</p> <p>□ 保育者がマスクをしているため、言葉が聞き取りにくかったり表情が分かりにくかったりするので、声のトーンや動きに配慮してい</p>

<p>いことがあり、園では保育士に聞いてほしいとしゃべりすぎてしまう子がいる。人の話を聞けない子が増えた。</p> <p>□保育士の人数が定数の配置の中、その子どもにかかわる以外の仕事(別の子どもの対応、掃除、配膳など)をせざるを得ない場面があり、適切な援助ができていないこともある。</p> <p>□言葉の語彙が低下し、思うように言葉で伝えられずに、手が出てしまいトラブルになることがある。</p> <p>□終始目と手を離せない0歳児との同空間での保育は、どうしても1、2歳児が後回しになってしまうこともあり、十分なかかわりの上での援助となっていないことも多い。</p> <p>□ノンコンタクトタイムも全く取れず、定数配置では11時間開所に対応するシフトを組んでも残業が発生することも多く、子どもの様子に対応した保育内容を話しあい機会が少ない。</p>	<p>る。</p> <p>□人との距離を取らなければならないが、一方的に発する環境はできるだけ作らずに、お互いのやり取りが持てるように、工夫をしている。</p> <p>□コロナ禍で、テレビを見せたり、スマホを見せたりして、家庭保育や休日の時間を過ごしているようだ。そのため、流行している言葉や面白い言葉に敏感に異常に反応し、使いたがる傾向がある。そんな言葉をまねることができていることに喜ぶ保護者の姿もある。また、言葉を育てること、そのためのツールとなる保育内容などについて、話しあいたくても、コロナ陽性や濃厚接触での休みもあり、あるいは揃っていても消毒などに追われる状態もあり、十分にできていない現状がある。</p> <p>□強制的な保育では育まれない。自然環境が豊かであると表現力が育まれる場面が増える。</p> <p>□感染や濃厚接触者となり保育士の休みが重なると、一人一人の子どもと、ゆっくり言葉のやり取りをするゆとりがない状況もある。</p> <p>□感染や濃厚接触者となり保育士の休みが重なると担任以外の職員(短時間保育士等)がクラスに入ることになる。遊びや関わりの工夫などの共通理解が難しいこともある。</p> <p>□家庭で経験できないことを、保育園で経験できるように、コロナ禍だからと言って、できないとせず、どうしたらできるかを保育士間で話し合っている。</p>
---	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

○ 内容

② 生活に必要な簡単な言葉に気付き、聞き分ける。

↳ 関連する「内容の取扱い」

② 子どもが自分の思いを言葉で伝えるとともに、他の子どもの話などを聞くことを通して、次第に話を理解し、言葉による伝え合いができるようになるよう、気持ちや経験等の言語化を行うことを援助するなど、子ども同士の関わりの仲立ちを行うようにすること。

➤ 内容②および内容の取扱い②と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 言葉の使い方が変化している中で、生活の場面で必要な言葉を保育士が意識的に使うことが必要となる。保育士の語彙力の向上が必要。</p> <p><input type="checkbox"/> テレビなどの影響を受けやすく、不適切な言葉も使おうとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 言葉の語彙が低下し、思うように言葉で伝えられずに、手が出てしまいトラブルになることがある。</p> <p><input type="checkbox"/> 終始目と手を離せない0歳児との同空間での保育は、どうしても1、2歳児が後回しになってしまうこともあり、十分なかかわりの上での援助となっていないことも多い。</p>	<p><input type="checkbox"/> コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、ゆとりがない悪循環に陥る。</p> <p><input type="checkbox"/> マスク越しのため、言葉が聞き取りづらい状況がある。単語のみで話すことが増えた。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染や濃厚接触者となり保育士の休みが重なると、一人一人の子どもと、ゆっくり言葉のやり取りをするゆとりがない状況もある。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍で、テレビを見せたり、スマホを見せたりして、家庭保育や休日の時間を過ごしているようだ。そのため、流行している言葉や面白い言葉に敏感に異常に反応し、使いたがる傾向がある。そんな言葉をまねることができていることに喜ぶ保護者の姿もある。また、言葉を育てること、そのためのツールとなる保育内容などについて、話しあいたくても、コロナ陽性や濃厚接触での休みもあり、あるいは揃っていても消毒などに追われる状態もあり、十分にできていない現状がある。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

○ 内容

③ 親しみをもって日常の挨拶に応じる。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 身近な人に親しみをもって接し、自分の感情などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して、次第に言葉が獲得されていくものであることを考慮して、楽しい雰囲気の中で保育士等との言葉のやり取りができるようにすること。

② 子どもが自分の思いを言葉で伝えるとともに、他の子どもの話などを聞くことを通して、次第に話を理解し、言葉による伝え合いができるようになるよう、気持ちや経験等の言語化を行うことを援助するなど、子ども同士の関わりの仲立ちを行うようにすること。

➤ 内容③および内容の取扱い①②と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 親自身が挨拶しないのを見て、子ども自身もしないことがある。</p> <p><input type="checkbox"/> 保護者世代の挨拶に対する習慣が子どもに影響。</p> <p><input type="checkbox"/> 同じように保育士が応答をしても、親子での会話が少ない家庭は、感情を伝える言葉の習得や語彙を獲得することに差が見られる。</p> <p><input type="checkbox"/> 親が忙しくなり、子どもの言葉に耳を傾けないことがあり、園では保育士に聞いてほしいとしゃべりすぎてしまう子がいる。人の話を聞けない子が増えた。</p> <p><input type="checkbox"/> 保育士の人数が定数の配置の中、その子どもにかかわる以外の仕事(別の子どもの対応、掃除、配膳など)をせざるを得ない場面があり、適切な援助ができていないこともある。</p> <p><input type="checkbox"/> 言葉の語彙が低下し、思うように言葉で伝えられずに、手が出てしまいトラブルになることがある。</p>	<p><input type="checkbox"/> ソーシャルディスタンスを取りながらも、人としての挨拶を丁寧にするのは怠らないようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍で、家族以外の大人同士の挨拶を見聞きする機会が減ったかもしれない。</p> <p><input type="checkbox"/> 保育者がマスクをしているため、言葉が聞き取りにくかったり表情が分かりにくかったりするので、声のトーンや動きに配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 人との距離を取らなければならないが、一方的に発する環境はできるだけ作らずに、お互いのやり取りが持てるように、工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍で、テレビを見せたり、スマホを見せたりして、家庭保育や休日の時間を過ごしているようだ。そのため、流行している言葉や面白い言葉に敏感に異常に反応し、使いたがる傾向がある。そんな言葉をまねることができていることに喜ぶ保護者の姿もある。また、言葉を育てること、そのためのツールと</p>

<p>□終始目と手を離せない0歳児との同空間での保育は、どうしても1、2歳児が後回しになってしまうこともあり、十分なかわりの上での援助となっていないことも多い。</p>	<p>なる保育内容などについて、話しあいたくても、コロナ陽性や濃厚接触での休みもあり、あるいは揃っていても消毒などに追われる状態もあり、十分にできていない現状がある。</p> <p>□強制的な保育では育まれない。自然環境が豊かであると表現力が育まれる場面が増える。</p> <p>□感染や濃厚接触者となり保育士の休みが重なると、一人一人の子どもと、ゆっくり言葉のやり取りをするゆとりがない状況もある。</p>
--	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

○ 内容

④ 絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

③ この時期は、片言から、二語文、ごっこ遊びでのやり取りができる程度へと、大きく言葉の習得が進む時期であることから、それぞれの子どもの発達の状況に応じて、遊びや関わりの工夫など、保育の内容を適切に展開することが必要であること。

➤ 内容④および内容の取扱い③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□保育士間で保育内容を話しあう時間・場所の不足。</p> <p>□You-Tube などの動画に慣れすぎて、絵本や紙芝居などの止まっている絵から想像する力がなくなっている。</p> <p>□ノンコンタクトタイムも全く取れず、定数配置では 11 時間開所に対応するシフトを組んでも残業が発生することも多く、子どもの様子に対応した保育内容を話しあい機会が少ない。</p>	<p>□保育士がマスクをしている影響か、模倣が少なくなったように感じる。</p> <p>□コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、ゆとりがない悪循環に陥る。</p> <p>□感染や濃厚接触者となり保育士の休みが重なると担任以外の職員（短時間保育士等）がクラスに入ることになる。遊びや関わりの工夫などの共通理解が難しいこともある。</p> <p>□家庭で経験できないことを、保育園で経験できるように、コロナ禍だからと言って、でき</p>

	<p>ないとせず、どうしたらできるかを保育士間で話し合っている。</p> <p>□コロナ禍で、テレビを見せたり、スマホを見せたりして、家庭保育や休日の時間を過ごしている。そのため、流行している言葉や面白い言葉に敏感に異常に反応し、使いたがる傾向がある。そんな言葉をまねることができていることに喜ぶ保護者の姿もある。また、言葉を育てること、そのためのツールとなる保育内容などについて、話しあいたくても、コロナ陽性や濃厚接触での休みもあり、あるいは揃っていても消毒などに追われる状態もあり、十分にできていない現状がある。</p>
--	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

○ 内容

⑤ 保育士等とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 身近な人に親しみをもって接し、自分の感情などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して、次第に言葉が獲得されていくものであることを考慮して、楽しい雰囲気の中で保育士等との言葉のやり取りができるようにすること。
- ② 子どもが自分の思いを言葉で伝えるとともに、他の子どもの話などを聞くことを通して、次第に話を理解し、言葉による伝え合いができるようになるよう、気持ちや経験等の言語化を行うことを援助するなど、子ども同士の関わりの仲立ちを行うようにすること。
- ③ この時期は、片言から、二語文、ごっこ遊びでのやり取りができる程度へと、大きく言葉の習得が進む時期であることから、それぞれの子どもの発達の状況に応じて、遊びや関わりの工夫など、保育の内容を適切に展開することが必要であること。

➤ 内容⑤および内容の取扱い①②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□保育士の不足によるかかわりの不十分さと、ふざけて不適切な言葉を使おうとする。</p> <p>□同じように保育士が応答をしても、親子での会話が少ない家庭は、感情を伝える言葉の習得や語彙を獲得することに差が見られる。</p> <p>□親が忙しくなり、子どもの言葉に耳を傾けないことがあり、園では保育士に聞いてほしいとしゃべりすぎてしまう子がいる。人の話を聞けない子が増えた。</p> <p>□保育士の人数が定数の配置の中、その子どもにかかわる以外の仕事(別の子どもの対応、掃除、配膳など)をせざるを得ない場面があり、適切な援助ができていないこともある。</p> <p>□言葉の語彙が低下し、思うように言葉で伝えられずに、手が出てしまいトラブルになることがある。</p> <p>□終始目と手を離せない0歳児との同空間での保育は、どうしても1、2歳児が後回しになってしまうこともあり、十分なかかわりの上での援助となっていないことも多い。</p> <p>□ノンコンタクトタイムも全く取れず、定数配置では11時間開所に対応するシフトを組んでも残業が発生することも多く、子どもの様子に対応した保育内容を話しあい機会が少ない。</p>	<p>□言葉の面白さを伝え、人との触れ合い、やり取りが楽しめるように工夫して遊ぶ環境づくりに努めている。</p> <p>□コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、ゆとりがない悪循環に陥る。</p> <p>□保育者の言葉づかいは大切。「～のやつ(具体的な名称が思いつかない時にあいまいに表現する時)」、少ないが「超」「やばい」など適切に指導が必要。</p> <p>□保育者がマスクをしているため、言葉が聞き取りにくかったり表情が分かりにくかったりするので、声のトーンや動きに配慮している。</p> <p>□人との距離を取らなければならないが、一方的に発する環境はできるだけ作らずに、お互いのやり取りが持てるように、工夫をしている。</p> <p>□コロナ禍で、テレビを見せたり、スマホを見せたりして、家庭保育や休日の時間を過ごしているようだ。そのため、流行している言葉や面白い言葉に敏感に異常に反応し、使いたがる傾向がある。そんな言葉をまねることができていることに喜ぶ保護者の姿もある。また、言葉を育てること、そのためのツールとなる保育内容などについて、話しあいたくても、コロナ陽性や濃厚接触での休みもあり、あるいは揃っていても消毒などに追われる状態もあり、十分にできていない現状がある。</p> <p>□強制的な保育では育まれない。自然環境が豊かであると表現力が育まれる場面が増える。</p> <p>□感染や濃厚接触者となり保育士の休みが重なると、一人一人の子どもと、ゆっくり言葉のやり取りをするゆとりがない状況もある。</p> <p>□感染や濃厚接触者となり保育士の休みが重</p>

	<p>なると担任以外の職員（短時間保育士等）がクラスに入ることになる。遊びや関わりの工夫などの共通理解が難しいこともある。</p> <p>□家庭で経験できないことを、保育園で経験できるように、コロナ禍だからと言って、できないとせず、どうしたらできるかを保育士間で話し合っている。</p>
--	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

○ 内容

⑥ 保育士等を仲立ちとして、生活や遊びの中で友達との言葉のやり取りを楽しむ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 身近な人に親しみをもって接し、自分の感情などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して、次第に言葉が獲得されていくものであることを考慮して、楽しい雰囲気の中で保育士等との言葉のやり取りができるようにすること。
- ② 子どもが自分の思いを言葉で伝えるとともに、他の子どもの話などを聞くことを通して、次第に話を理解し、言葉による伝え合いができるようになるよう、気持ちや経験等の言語化を行うことを援助するなど、子ども同士の関わりの仲立ちを行うようにすること。
- ③ この時期は、片言から、二語文、ごっこ遊びでのやり取りができる程度へと、大きく言葉の習得が進む時期であることから、それぞれの子どもの発達の状況に応じて、遊びや関わりの工夫など、保育の内容を適切に展開することが必要であること。

➤ 内容⑥および内容の取扱い①②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□保育士の不足によるかかわりの不十分さと、ふざけて不適切な言葉を使おうとする。</p> <p>□同じように保育士が応答をしても、親子での会話が少ない家庭は、感情を伝える言葉の習得や語彙を獲得することに差が見られ</p>	<p>□コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、ゆとりがない悪循環に陥る。</p> <p>□保育者がマスクをしているため、言葉が聞き取りにくかったり 表情が分かりにくかった</p>

<p>る。</p> <p>□親が忙しくなり、子どもの言葉に耳を傾けないことがあり、園では保育士に聞いてほしいとしゃべりすぎてしまう子がいる。人の話を聞けない子が増えた。</p> <p>□保育士の人数が定数の配置の中、その子どもにかかわる以外の仕事(別の子どもの対応、掃除、配膳など)をせざるを得ない場面があり、適切な援助ができていないこともある。</p> <p>□言葉の語彙が低下し、思うように言葉で伝えられずに、手が出てしまいトラブルになることがある。</p> <p>□終始目と手を離せない0歳児との同空間での保育は、どうしても1、2歳児が後回しになってしまうこともあり、十分なかかわりの上での援助となっていないことも多い。</p> <p>□ノンコンタクトタイムも全く取れず、定数配置では11時間開所に対応するシフトを組んでも残業が発生することも多く、子どもの様子に対応した保育内容を話しあい機会が少ない。</p>	<p>りするので、声のトーンや動きに配慮している。</p> <p>□人との距離を取らなければならないが、一方的に発する環境はできるだけ作らずに、お互いのやり取りが持てるように、工夫をしている。</p> <p>□コロナ禍で、テレビを見せたり、スマホを見せたりして、家庭保育や休日の時間を過ごしているようだ。そのため、流行している言葉や面白い言葉に敏感に異常に反応し、使いたがる傾向がある。そんな言葉をまねることができていることに喜ぶ保護者の姿もある。また、言葉を育てること、そのためのツールとなる保育内容などについて、話しあいたくても、コロナ陽性や濃厚接触での休みもあり、あるいは揃っていても消毒などに追われる状態もあり、十分にできていない現状がある。</p> <p>□強制的な保育では育まれない。自然環境が豊かであると表現力が育まれる場面が増える。</p> <p>□感染や濃厚接触者となり保育士の休みが重なると、一人一人の子どもと、ゆっくり言葉のやり取りをするゆとりがない状況もある。</p> <p>□感染や濃厚接触者となり保育士の休みが重なると担任以外の職員(短時間保育士等)がクラスに入ることになる。遊びや関わりの工夫などの共通理解が難しいこともある。</p> <p>□家庭で経験できないことを、保育園で経験できるように、コロナ禍だからと言って、できないとせず、どうしたらできるかを保育士間で話し合っている。</p>
--	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

○ 内容

⑦ 保育士等や友達の言葉や話に興味や関心をもって、聞いたり、話したりする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 身近な人に親しみをもって接し、自分の感情などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して、次第に言葉が獲得されていくものであることを考慮して、楽しい雰囲気の中で保育士等との言葉のやり取りができるようにすること。

② 子どもが自分の思いを言葉で伝えるとともに、他の子どもの話などを聞くことを通して、次第に話を理解し、言葉による伝え合いができるようになるよう、気持ちや経験等の言語化を行うことを援助するなど、子ども同士の関わりの仲立ちを行うようにすること。

➤ 内容⑦および内容の取扱い①②と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 保育士の不足によるかかわりの不十分さと、ふざけて不適切な言葉を使おうとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 同じように保育士が応答をしても、親子での会話が少ない家庭は、感情を伝える言葉の習得や語彙を獲得することに差が見られる。</p> <p><input type="checkbox"/> 親が忙しくなり、子どもの言葉に耳を傾けないことがあり、園では保育士に聞いてほしいとしゃべりすぎてしまう子がいる。人の話を聞けない子が増えた。</p> <p><input type="checkbox"/> 保育士の人数が定数の配置の中、その子どもにかかわる以外の仕事(別の子どもの対応、掃除、配膳など)をせざるを得ない場面があり、適切な援助ができていないこともある。</p> <p><input type="checkbox"/> 言葉の語彙が低下し、思うように言葉で伝えられずに、手が出てしまいトラブルになることがある。</p> <p><input type="checkbox"/> 終始目と手を離せない0歳児との同空間での保育は、どうしても1、2歳児が後回しに</p>	<p><input type="checkbox"/> 保育士はマスクをしているため言葉がはっきりと聞き取れるように意識して話すようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ陽性や濃厚接触などで職員が減ると代替えや補充ができず、ゆとりがない悪循環に陥る。</p> <p><input type="checkbox"/> 保育者がマスクをしているため、言葉が聞き取りにくかったり表情が分かりにくかったりするので、声のトーンや動きに配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 人との距離を取らなければならないが、一方的に発する環境はできるだけ作らずに、お互いのやり取りが持てるように、工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍で、テレビを見せたり、スマホを見せたりして、家庭保育や休日の時間を過ごしているようだ。そのため、流行している言葉や面白い言葉に敏感に異常に反応し、使いたがる傾向がある。そんな言葉をまねることが</p>

<p>なってしまうこともあり、十分なかかわりの上での援助となっていないことも多い。</p>	<p>できていることに喜ぶ保護者の姿もある。また、言葉を育てること、そのためのツールとなる保育内容などについて、話しあいたくても、コロナ陽性や濃厚接触での休みもあり、あるいは揃っていても消毒などに追われる状態もあり、十分にできていない現状がある。</p> <p>□強制的な保育では育まれない。自然環境が豊かであると表現力が育まれる場面が増える。</p> <p>□感染や濃厚接触者となり保育士の休みが重なると、一人一人の子どもと、ゆっくり言葉のやり取りをするゆとりがない状況もある。</p>
---	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

- A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素
(制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)

<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の配置増員。 ・保育士の資質の向上のための研修や研修を受けるための体制を構築する。 ・対人援助職である保育士がやりがいをもって仕事に臨める体制づくり ・処遇の改善 ICTを活用した業務システムの導入 ・いろいろな模倣遊びを通し、生活で経験する言葉をつかえるので、普段から保育者自身が正しい言葉を使って、手本になるように意識している。 ・語彙不足は、いま問題となっている。子どもが考えて、言葉で伝えられるように、保育者が待ち、子どもの気持ちを引き出しながら、言葉のやり取りができるように工夫したり配慮をしたりする必要がある。 ・保育士数配置基準の法改正 ・小規模であっても、現状の緩和措置で、『保育』として十分なのか、学識を含めた行政レベルで点検・検討。 ・未満児保育において、異年齢ワンフロアが適切か、そのために必要な別室(多目的空間、保育士休憩室など)の整備について学識を含めた行政レベルで点検・検討。 ・コロナ関係で職員が休んだ場合の休園措置、当該親子に対する保育の保障を行政レベルでしてほしい ・小規模保育施設における消毒の適切な方法・頻度・内容などについて、医療関係者からの指示のもとに行う ・言葉の育ちについての研修の充実と、それらを話し合い提供するための会議の場の保障



○ 今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点

i	<p>言葉のやりとりの面白さ、楽しさを知ることのできる関わりの確保</p> <ul style="list-style-type: none">・建物が反響するせいか「キヤー」と叫ぶ子が多かったり、不明瞭な言葉に対してどう答えていいかわからない保護者がいる。保育者が意識して丁寧に言葉でのやりとりをすることで、子どもがやりとりの楽しさを知ることが大切。・語彙数の問題／生まれた時から、スマホやYouTubeが当たり前の子どもたち。絵本の読み聞かせの経験も少ない子どもたち。現在当園での1歳児クラスの園児は、月齢が低い子どもが多いせいもあるが、発音が不明瞭で、語彙数も少ない。全体的に発達がゆっくりになっているように感じる。・丁寧な関わりができる体制の確保のため、人員配置や質の向上のための研修の充実が必要。
ii	<p>言葉の獲得の保障</p> <ul style="list-style-type: none">・話の理解や言葉による伝え合いは、子どもが自分の思いを言葉で伝えたり、他の子どもの話を聞いたり、する経験を繰り返し、次第に獲得する。そのため子ども同士の間で保育者が双方の気持ちや出来事を言葉にして仲立ちをすることが重要。
iii	<p>保護者への情報発信の強化</p> <ul style="list-style-type: none">・生活環境の変化や経験の制約があるなかで、保育所ではどのような方法で子どもの経験を保障しているのかの発信が必要。これにより、家庭での経験の充実にもつながる。

オ. 感性と表現に関する領域「表現」

○ ねらい

- ① 身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。
- ② 感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする。
- ③ 生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。

○ 内容

- ① 水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 子どもの表現は、遊びや生活の様々な場面で表出されているものであることから、それらを積極的に受け止め、様々な表現の仕方や感性を豊かにする経験となるようにすること。

- ④ 身近な自然や身の回りの事物に関わる中で、発見や心が動く経験が得られるよう、諸感覚を働かせることを楽しむ遊びや素材を用意するなど保育の環境を整えること。

➤ 内容①および内容の取扱い①④と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 衣服、家が汚れる等家庭で素材に触れて遊ぶことは減少、既製品玩具の使用が増えてきている。</p> <p><input type="checkbox"/> 楽しめてはいるが、ハード面で制約も多い。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会の変化から、保育士の生活経験や自然の中で遊ぶ体験などが減っている。子どもの表現や感性に気づき共感するスキルが不足していると感じられる。</p> <p><input type="checkbox"/> テレビの影響は大きく、また、最近ではYouTubeで流れるユーチューバーのウケを狙った表現に影響されている子どももおり、禁止もできず難しい。</p> <p><input type="checkbox"/> 異年齢が過ごす空間で、年齢に応じた、育ちに応じたかかわりを行う難しさがある。また、保育士の人数が定数の配置の中、その子どもにかかわる以外の仕事(別の子どもへの対</p>	<p><input type="checkbox"/> 手洗い・消毒の習慣がついた反面、様々な感触に触れる経験が少なく、汚れることを拒む子どもが増えている。</p> <p><input type="checkbox"/> 飛沫からの感染や密を避ける為、プールでの水遊びが中止になる。</p> <p><input type="checkbox"/> 何でも自由に触れて楽しんだり 友だちと共有したりすることが難しくなった。</p> <p><input type="checkbox"/> 提供の仕方、後始末の方法など、消毒と関連した適切な方法がわからないまま、不安を抱えている。</p> <p><input type="checkbox"/> 園内外、家庭内外といった様々な場所での、様々な人との交わりの中で、いろいろな経験を重ね、感性を豊かにしていくものであるが、コロナ禍では、そのような機会が奪われ、限られた空間や人とのかかわりになっている。また、保育士がコロナ陽性や濃厚接触に</p>

<p>応、掃除、配膳など)をせざるを得ない場面があり、適切な援助ができていないこともある。さらに、ノンコンタクトタイムも全く取れず、定数配置では11時間開所に対応するシフトを組んでも残業が発生することも多く、子どもの様子に対応した保育内容を話しあい機会が少ない。</p>	<p>より、休むと人手不足から適切な援助が見込めない可能性もある。さらに、人手不足は左記のような保育について語り合いよい保育を展開していく機会も減らしてしまう。</p> <p>□散歩や戸外遊びを通し、様々な物事に保育士自身が感動して言葉をかけることで、子どもの感性を豊かにできるようにする。</p> <p>□コロナ禍により室内より換気の良い外遊びの機会が増えて季節の自然物を使用した制作物を取り入れられる良い機会となった。</p> <p>□散歩に行かなくても園内にある自然豊かな広場で、子どもが草花を見つけたり、虫を探したりできるように広場を整備している。</p> <p>□園の周りを散策する場合、1人担任だと難しい。安全のため少なくとも二人の配置が必要と思われる。</p>
---	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

オ. 感性と表現に関する領域「表現」

○ 内容

② 音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 子どもの表現は、遊びや生活の様々な場面で表出されているものであることから、それらを積極的に受け止め、様々な表現の仕方や感性を豊かにする経験となるようにすること。

② 子どもが試行錯誤しながら様々な表現を楽しむことや、自分の力でやり遂げる充実感などに気付くよう、温かく見守るとともに、適切に援助を行うようにすること。

③ 様々な感情の表現等を通じて、子どもが自分の感情や気持ちに気付くようになる時期であることに鑑み、受容的な関わりの中で自信をもって表現をすることや、諦めずに続けた後の達成感等を感じられるような経験が蓄積されるようにすること。

- ④ 身近な自然や身の回りの事物に関わる中で、発見や心が動く経験が得られるよう、諸感覚を働かせることを楽しむ遊びや素材を用意するなど保育の環境を整えること。

➤ 内容③および内容の取扱い①②③④と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□ 楽しめてはいるが、ハード面で制約も多い。</p> <p>□ 住宅構造上の問題（階下の人への配慮）</p> <p>□ 社会の変化から、保育士の生活経験や自然の中で遊ぶ体験などが減っている。子どもの表現や感性に気づき共感するスキルが不足していると感じられる。</p> <p>□ テレビの影響は大きく、また、最近ではYouTubeで流れるユーチューバーのウケを狙った表現に影響されている子どももあり、禁止もできず難しい。</p> <p>□ 共働き家庭や核家族化により人に頼らず抱え込み、育児や時間に余裕がない家庭がみられる。その為、言葉や手が出てしまうことが増えてきている傾向が見られる。</p> <p>□ 異年齢が過ごす空間で、年齢に応じた、育ちに応じたかかわりを行う難しさがある。また、保育士の人数が定数の配置の中、その子どもにかかわる以外の仕事（別の子どもの対応、掃除、配膳など）をせざるを得ない場面があり、適切な援助ができていないこともある。さらに、ノンコンタクトタイムも全く取れず、定数配置では11時間開所に対応するシフトを組んでも残業が発生することも多く、子どもの様子に対応した保育内容を話し合い機会が少ない。</p> <p>□ 子どもとの関わり方が分からない保護者もいるため、自己肯定感が低い子どももいる。保護者に子どもの頑張っている過程や取り組みの様子などを伝えることで自信をもって活動に取り組めるようにする。</p>	<p>□ 換気に留意してクラスごとに行っている。</p> <p>□ 提供の仕方、後始末の方法など、消毒と関連した適切な方法がわからないまま、不安を抱えている。</p> <p>□ 園内外、家庭内外といった様々な場所での、様々な人との交わりの中で、いろいろな経験を重ね、感性を豊かにしていくものであるが、コロナ禍では、そのような機会が奪われ、限られた空間や人とのかかわりになっている。また、保育士がコロナ陽性や濃厚接触により、休むと人手不足から適切な援助が見込めない可能性もある。さらに、人手不足は左記のような保育について語り合いよい保育を展開していく機会も減らしてしまう。</p> <p>□ 使用する素材の共有を避けるため、素材の数を見直した。</p> <p>□ 家庭での時間も増え、日中出来ることが増えた事に家庭で気付かれる保護者も多く、受入簿等で成長を感じると記入されることが多くなったように思える。</p> <p>□ 成果主義になってしまうと、充実感を味わえない。月の制作の内容に要注意。保育者として保育内容に評価をもらえず、制作の出来栄評価になってしまうと、園児の充実感からかけ離れた保育者制作になる場合がある。</p> <p>□ コロナ禍でも様々な味、香り等感じられるように畑やプランターで栽培し、食育にも力を入れている。</p> <p>□ 家庭時間が増え、表情が豊かになったように思える子どももいる。</p> <p>□ 子どもの保育時間に、事務的な仕事を並行し</p>

<p>□異年齢が過ごす空間で、年齢に応じた、育ちに 応じたかかわりを行う難しさがある。また、 保育士の人数が定数の配置の中、その子 どもにかかわる以外の仕事(別の子どもの対 応、掃除、配膳など)をせざるを得ない場 面があり、適切な援助ができていないこと もある。さらに、ノンコンタクトタイムも 全く取れず、定数配置では11時間開所 に対応するシフトを組んでも残業が発生 することも多く、子どもの様子に対応し た保育内容を話しあい機会が少ない。</p>	<p>て取り組んでいると、観察できないし、 気付きもない。</p> <p>□散歩や戸外遊びを通し、様々な物事に 保育士自身が感動して言葉をかけること で、子どもの感性を豊かにできるように する。</p> <p>□コロナ禍により室内より換気の良い 外遊びの機会が増えて季節の自然物 を使用した制作物を取り入れられる 良い機会となった。</p> <p>□散歩に行かなくても園内にある自然 豊かな広場で、子どもが草花を見つ けたり、虫を探したりできるように 広場を整備している。</p> <p>□園の周りを散策する場合、1人担 任だと難しい。安全のため少なく とも二人の配置が必要と思われる。</p>
---	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

オ. 感性と表現に関する領域「表現」

○ 内容

- ③ 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 子どもの表現は、遊びや生活の様々な場面で表出されているものであることから、それらを積極的に受け止め、様々な表現の仕方や感性を豊かにする経験となるようにすること。

- ④ 身近な自然や身の回りの事物に関わる中で、発見や心が動く経験が得られるよう、諸感覚を働かせることを楽しむ遊びや素材を用意するなど保育の環境を整えること。

➤ 内容③および内容の取扱い①④と照らした現状の整理

<p>A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等</p>	<p>B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等</p>
<p>□核家族化、共働き家庭が増え、行事食や日頃</p>	<p>□提供の仕方、後始末の方法など、消毒と関連</p>

<p>の食事に対して疎くなったように思える。</p> <p>□楽しめてはいるが、ハード面で制約も多い。</p> <p>□社会の変化から、保育士の生活経験や自然の中で遊ぶ体験などが減っている。子どもの表現や感性に気づき共感するスキルが不足していると感じられる。</p> <p>□テレビの影響は大きく、また、最近ではYouTubeで流れるユーチューバーのウケを狙った表現に影響されている子どももあり、禁止もできず難しい。</p> <p>□異年齢が過ごす空間で、年齢に応じた、育ちに応じたかかわりを行う難しさがある。また、保育士の人数が定数の配置の中、その子どもにかかわる以外の仕事(別の子どもの対応、掃除、配膳など)をせざるを得ない場面があり、適切な援助ができていないこともある。さらに、ノンコンタクトタイムも全く取れず、定数配置では11時間開所に対応するシフトを組んでも残業が発生することも多く、子どもの様子に対応した保育内容を話し合い機会が少ない。</p>	<p>した適切な方法がわからないまま、不安を抱えている。</p> <p>□五感からの多様な経験が減った。</p> <p>□園内外、家庭内外といった様々な場所での、様々な人との交わりの中で、いろいろな経験を重ね、感性を豊かにしていくものであるが、コロナ禍では、そのような機会が奪われ、限られた空間や人とのかかわりになっている。また、保育士がコロナ陽性や濃厚接触により、休むと人手不足から適切な援助が見込めない可能性もある。さらに、人手不足は左記のような保育について語り合いよい保育を展開していく機会も減らしてしまう。</p> <p>□散歩や戸外遊びを通し、様々な物事に保育士自身が感動して言葉をかけることで、子どもの感性を豊かにできるようにする。</p> <p>□コロナ禍により室内より換気の良い外遊びの機会が増えて季節の自然物を使用した制作物を取り入れられる良い機会となった。</p> <p>□散歩に行かなくても園内にある自然豊かな広場で、子どもが草花を見つけたり、虫を探したりできるように広場を整備している。</p> <p>□園の周りを散策する場合、1人担任だと難しい。安全のため少なくとも二人の配置が必要と思われる。</p>
--	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

オ. 感性と表現に関する領域「表現」

○ 内容

④ 歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 子どもの表現は、遊びや生活の様々な場面で表出されているものであることから、それらを積極的に受け止め、様々な表現の仕方や感性を豊かにする経験となるようにすること。

② 子どもが試行錯誤しながら様々な表現を楽しむことや、自分の力でやり遂げる充実感などに気付くよう、温かく見守るとともに、適切に援助を行うようにすること。

③ 様々な感情の表現等を通じて、子どもが自分の感情や気持ちに気付くようになる時期であることに鑑み、受容的な関わりの中で自信をもって表現をすることや、諦めずに続けた後の達成感等を感じられるような経験が蓄積されるようにすること。

④ 身近な自然や身の回りの事物に関わる中で、発見や心が動く経験が得られるよう、諸感覚を働かせることを楽しむ遊びや素材を用意するなど保育の環境を整えること。

➤ 内容④および内容の取扱い①②③④と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> ユーチューブの影響で、子どもの好む曲が変化しているように感じる。季節の歌や童謡への関心が薄れている。</p> <p><input type="checkbox"/> 楽しめてはいるが、ハード面で制約も多い。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会の変化から、保育士の生活経験や自然の中で遊ぶ体験などが減っている。子どもの表現や感性に気づき共感するスキルが不足していると感じられる。</p> <p><input type="checkbox"/> テレビの影響は大きく、また、最近ではYouTubeで流れるユーチューバーのウケを狙った表現に影響されている子どももあり、禁止もできず難しい。</p> <p><input type="checkbox"/> 共働き家庭や核家族化により人に頼らず抱え込み、育児や時間に余裕がない家庭がみられる。その為、言葉や手が出てしまうことが増えてきている傾向が見られる。</p> <p><input type="checkbox"/> 異年齢が過ごす空間で、年齢に応じた、育ちに応じたかかわりを行う難しさがある。また、保育士の人数が定数の配置の中、その子どもにかかわる以外の仕事(別の子どもの対応、掃除、配膳など)をせざるを得ない場面があり、適切な援助ができていないこともあ</p>	<p><input type="checkbox"/> 密を防ぐ為、集合して歌う機会は減らしているが、放送器具を使用したり各クラスで歌う機会を十分に設けたりし、また、声の大きさも考慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 提供の仕方、後始末の方法など、消毒と関連した適切な方法がわからないまま、不安を抱えている。</p> <p><input type="checkbox"/> 園内外、家庭内外といった様々な場所での、様々な人との交わりの中で、いろいろな経験を重ね、感性を豊かにしていくものであるが、コロナ禍では、そのような機会が奪われ、限られた空間や人とのかかわりになっている。また、保育士がコロナ陽性や濃厚接触により、休むと人手不足から適切な援助が見込めない可能性もある。さらに、人手不足は左記のような保育について語り合いよい保育を展開していく機会も減らしてしまう。</p> <p><input type="checkbox"/> 使用する素材の共有を避けるため、素材の数を見直した。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭での時間も増え、日中出来ることが増えた事に家庭で気付かれる保護者も多く、受入簿等で成長を感じると記入されることが多くなったように思える。</p>

<p>る。さらに、ノンコンタクトタイムも全く取れず、定数配置では 11 時間開所に対応するシフトを組んでも残業が発生することも多く、子どもの様子に対応した保育内容を話しあい機会が少ない。</p> <p>□子どもとの関わり方が分からない保護者もいるため、自己肯定感が低い子どももいる。保護者に子どもの頑張っている過程や取り組みの様子などを伝えることで自信をもって活動に取り組めるようにする。</p>	<p>□成果主義になってしまうと、充実感を味わえない。月の制作の内容に要注意。保育者として保育内容に評価をもらえず、制作の出来栄を評価になってしまうと、園児の充実感からかけ離れた保育者制作になる場合がある。</p> <p>□コロナ禍でも様々な味、香り等感じられるように畑やプランターで栽培し、食育にも力を入れている。</p> <p>□家庭時間が増え、表情が豊かになったように思える子どももいる。</p> <p>□子どもの保育時間に、事務的な仕事を並行して取り組んでいると、観察できないし、気付きもない。</p> <p>□散歩や戸外遊びを通し、様々な物事に保育士自身が感動して言葉をかけることで、子どもの感性を豊かにできるようにする。</p> <p>□コロナ禍により室内より換気の良い外遊びの機会が増えて季節の自然物を使用した制作物を取り入れられる良い機会となった。</p> <p>□散歩に行かなくても園内にある自然豊かな広場で、子どもが草花を見つけたり、虫を探したりできるように広場を整備している。</p> <p>□園の周りを散策する場合、1人担任だと難しい。安全のため少なくとも二人の配置が必要と思われる。</p>
--	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

オ. 感性と表現に関する領域「表現」

○ 内容

⑤ 保育士等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 子どもの表現は、遊びや生活の様々な場面で表出されているものであることから、それらを積極的に受け止め、様々な表現の仕方や感性を豊かにする経験となるようにすること。

- ④ 身近な自然や身の回りの事物に関わる中で、発見や心が動く経験が得られるよう、諸感覚を働かせることを楽しむ遊びや素材を用意するなど保育の環境を整えること。

➤ 内容⑤および内容の取扱い①④と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□生活経験の乏しい子どもは、イメージの共有ができてにくい。</p> <p>□より強い刺激を求めるようになった子どもたちには、テレビやCDなどを使う場面も多くなってしまう。</p> <p>□社会の変化から、保育士の生活経験や自然の中で遊ぶ体験などが減っている。子どもの表現や感性に気づき共感するスキルが不足していると感じられる。</p> <p>□テレビの影響は大きく、また、最近ではYouTubeで流れるユーチューバーのウケを狙った表現に影響されている子どももおおし、禁止もできず難しい。</p> <p>□異年齢が過ごす空間で、年齢に応じた、育ちに応じたかかわりを行う難しさがある。また、保育士の人数が定数の配置の中、その子どもにかかわる以外の仕事(別の子どもの対応、掃除、配膳など)をせざるを得ない場面があり、適切な援助ができていないこともある。さらに、ノンコンタクトタイムも全く取れず、定数配置では11時間開所に対応するシフトを組んでも残業が発生することも多く、子どもの様子に対応した保育内容を話し合い機会が少ない。</p>	<p>□密にならない遊び方を考え、様々な素材に触れる経験を取り入れたが、以前に比べ回数や時間が減ったように感じる。</p> <p>□コロナ禍で外出の機会が減り、遊びの幅も狭くなったので、イメージの共有に配慮しなくてはならない。</p> <p>□園内外、家庭内外といった様々な場所での、様々な人との交わりの中で、いろいろな経験を重ね、感性を豊かにしていくものであるが、コロナ禍では、そのような機会が奪われ、限られた空間や人とのかかわりになっている。また、保育士がコロナ陽性や濃厚接触により、休むと人手不足から適切な援助が見込めない可能性もある。さらに、人手不足は左記のような保育について語り合いよい保育を展開していく機会も減らしてしまう。</p> <p>□散歩や戸外遊びを通し、様々な物事に保育士自身が感動して言葉をかけることで、子どもの感性を豊かにできるようにする。</p> <p>□コロナ禍により室内より換気の良い外遊びの機会が増えて季節の自然物を使用した制作物を取り入れられる良い機会となった。</p> <p>□散歩に行かなくても園内にある自然豊かな広場で、子どもが草花を見つけたり、虫を探したりできるように広場を整備している。</p> <p>□園の周りを散策する場合、1人担任だと難しい。安全のため少なくとも二人の配置が必要と思われる。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

オ. 感性と表現に関する領域「表現」

○ 内容

⑥ 生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 子どもの表現は、遊びや生活の様々な場面で表出されているものであることから、それらを積極的に受け止め、様々な表現の仕方や感性を豊かにする経験となるようにすること。
- ② 子どもが試行錯誤しながら様々な表現を楽しむことや、自分の力でやり遂げる充実感などに気付くよう、温かく見守るとともに、適切に援助を行うようにすること。
- ③ 様々な感情の表現等を通じて、子どもが自分の感情や気持ちに気付くようになる時期であることに鑑み、受容的な関わりの中で自信をもって表現をすることや、諦めずに続けた後の達成感等を感じられるような経験が蓄積されるようにすること。
- ④ 身近な自然や身の回りの事物に関わる中で、発見や心が動く経験が得られるよう、諸感覚を働かせることを楽しむ遊びや素材を用意するなど保育の環境を整えること。

➤ 内容⑥および内容の取扱い①②③④と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 総合商業施設が増え、お店屋さんなどを知らない子が増え、ごっこ遊びも変化しつつある。</p> <p><input type="checkbox"/> 異年齢の難しさがある。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会の変化から、保育士の生活経験や自然の中で遊ぶ体験などが減っている。子どもの表現や感性に気づき共感するスキルが不足していると感じられる。</p> <p><input type="checkbox"/> テレビの影響は大きく、また、最近ではYouTubeで流れるユーチューバーのウケを狙った表現に影響されている子どももおり、禁止もできず難しい。</p> <p><input type="checkbox"/> 共働き家庭や核家族化により人に頼らず抱え込み、育児や時間に余裕がない家庭がみら</p>	<p><input type="checkbox"/> コロナ禍により様々な規制、経験が減ってきているためイメージがつかないことが増えてきている。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍で外出の機会が減り、遊びの幅も狭くなったので、イメージの共有に配慮しなくてはならない。</p> <p><input type="checkbox"/> 園内外、家庭内外といった様々な場所での、様々な人との交わりの中で、いろいろな経験を重ね、感性を豊かにしていくものであるが、コロナ禍では、そのような機会が奪われ、限られた空間や人とのかわりになっている。また、保育士がコロナ陽性や濃厚接触により、休むと人手不足から適切な援助が見込めない可能性もある。さらに、人手不足は左記のような保育について語り合いよい保育</p>

<p>れる。その為、言葉や手が出てしまうことが増えてきている傾向が見られる。</p> <p>□異年齢が過ごす空間で、年齢に応じた、育ちに応じたかかわりを行う難しさがある。また、保育士の人数が定数の配置の中、その子どもにかかわる以外の仕事(別の子どもの対応、掃除、配膳など)をせざるを得ない場面があり、適切な援助ができていないこともある。さらに、ノンコンタクトタイムも全く取れず、定数配置では11時間開所に対応するシフトを組んでも残業が発生することも多く、子どもの様子に対応した保育内容を話し合い機会が少ない。</p> <p>□子どもとの関わり方が分からない保護者もいるため、自己肯定感が低い子どももいる。保護者に子どもの頑張っている過程や取り組みの様子などを伝えることで自信をもって活動に取り組めるようにする。</p>	<p>を展開していく機会も減らしてしまう。</p> <p>□使用する素材の共有を避けるため、素材の数を見直した。</p> <p>□家庭での時間も増え、日中出来ることが増えた事に家庭で気付かれる保護者も多く、受入簿等で成長を感じると記入されることが多くなったように思える。</p> <p>□成果主義になってしまうと、充実感を味わえない。月の制作の内容に要注意。保育者として保育内容に評価をもらえず、制作の出来栄え評価になってしまうと、園児の充実感からかけ離れた保育者制作になる場合がある。</p> <p>□コロナ禍でも様々な味、香り等感じられるように畑やプランターで栽培し、食育にも力を入れている。</p> <p>□家庭時間が増え、表情が豊かになったように思える子どももいる。</p> <p>□子どもの保育時間に、事務的な仕事を並行して取り組んでいると、観察できないし、気付きもない。</p> <p>□散歩や戸外遊びを通し、様々な物事に保育士自身が感動して言葉をかけることで、子どもの感性を豊かにできるようにする。</p> <p>□コロナ禍により室内より換気の良い外遊びの機会が増えて季節の自然物を使用した制作物を取り入れられる良い機会となった。</p> <p>□散歩に行かなくても園内にある自然豊かな広場で、子どもが草花を見つけたり、虫を探したりできるように広場を整備している。</p> <p>□園の周りを散策する際、1人担任だと難しい。安全のため少なくとも二人の配置が必要。</p>
---	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

オ. 感性と表現に関する領域「表現」

- A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素
(制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)

- ・ 家庭の教育力の向上のための支援やそれを行うための連携体制の構築など。
- ・ 核家族化や若年層の保育士や保護者が増加傾向な為、言葉遣いやわらべうたなど伝統的なことを引き継いでいくことも大切であると思う。
- ・ 保育環境改善事業
- ・ 施設の安全や保育環境を整えるための事業
- ・ 保育士が体験の中で様々なことを学ぶ実習や研修の充実
- ・ 保護者・子どものメンタルヘルスケアも必要だが受け止める保育士のメンタルヘルスも大切にできる環境を整える必要があると思われる。
- ・ 保育士数配置基準の法改正
- ・ 小規模であっても、現状の緩和措置で、『保育』として十分なのか、学識を含めた行政レベルで点検・検討。
- ・ 未満児保育において、異年齢ワンフロアが適切か、そのために必要な別室(多目的空間、保育士休憩室など)の整備について学識を含めた行政レベルで点検・検討。
- ・ コロナ関係で職員が休んだ場合の休園措置、当該親子に対する保育の保障を行政レベルでしてほしい
- ・ 小規模保育施設における消毒の適切な方法・頻度・内容などについて、医療関係者からの指示のもとに行う
- ・ 子どもの表現活動の育ちについての研修の充実と、それらを話し合い提供するための会議の場の保障



- 今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点

	保護者への情報発信の強化
i	・生活環境の変化や経験の制約があるなかで、保育所ではどのような方法で子どもの経験を保障しているのかの発信が必要。これにより、家庭での経験の充実にもつながる。

第3章

「3歳以上児保育」に関するねらい及び内容の視点から

保育所保育指針「3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容」と照らした整理

ア. 心身の健康に関する領域「健康」

○ ねらい

- ① 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。
- ② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。
- ③ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。

○ 内容

- ① 保育士等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、子どもが保育士等や他の子どもとの温かい触れ合いの中で自己の存在感や充実感を味わうことなどを基盤として、しなやかな心と体の発達を促すこと。特に、十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。

➤ 内容①および内容の取扱い①と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<input type="checkbox"/> 「伸び伸びと」の意味を家庭と共有することが難しい。 <input type="checkbox"/> 子ども主体の保育が、ともすれば子ども任せの保育とも見えることがある。保育者の意図が見えにくいことも時として見られる。 <input type="checkbox"/> 友だちとのかかわりの中で自己を主張するあまりに引くに引けなくなる場面においてそこに絡んだ糸をほどくかのように丁寧に気持ちを引き出す保育者の関わりがさらに必要になってきている。 <input type="checkbox"/> 忙しい毎日の中、休みの日は大人の都合に合わせて行動する家庭も多く、戸外で遊ぶ機会が減り、体の使い方が不器用な子どもがいる。また、体幹が弱いと感じる子どもも増えている。体を動かす楽しさを感じられるような遊びに誘っている。	<input type="checkbox"/> 自粛期間など少人数での保育では音に敏感な子どもにとっては居心地の良い環境となった。 <input type="checkbox"/> 休園措置などにおける家庭保育の増加。 <input type="checkbox"/> ソーシャルディスタンスを保っていたり、ふれあいを良しとしなかった期間があった <input type="checkbox"/> 個別配慮が必要な子への対応が発生すると、担任一人で抱える場合もあり、そのような体制では安全優先、安定感は二の次になる。 <input type="checkbox"/> 一か所に集中せず分散できる環境づくりを行い、感染対策を講じて戸外では友達と触れ合える機会を多くもてるようにする。 <input type="checkbox"/> コロナ禍で家庭や地域において人と関わる機会が減少している中、友達と関わって遊ぶ機会に課題がある。一人遊びの中でしか自己を発揮できず、集団にうまく参加できなかったり、友達との関わりに消極的な傾向にある。

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 心身の健康に関する領域「健康」

○ 内容

② いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、子どもが保育士等や他の子どもとの温かい触れ合いの中で自己の存在感や充実感を味わうことなどを基盤として、しなやかな心と体の発達を促すこと。特に、十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。

② 様々な遊びの中で、子どもが興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することにより、体を動かす楽しさを味わい、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。その際、多様な動きを経験する中で、体の動きを調整するようにすること。

③ 自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶことにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、子どもの興味や関心が戸外にも向くようにすること。その際、子どもの動線に配慮した園庭や遊具の配置などを工夫すること。

➤ 内容②および内容の取扱い①②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> TV ゲームなどの普及により、家庭で戸外に出て遊ぶことが減り、子どもの体力が低下している。集団での遊びを好まなくなり個人での遊びを好む。</p> <p><input type="checkbox"/> いろいろな遊び、とは何か遊んできていない世代が保育士になっている現状がある</p> <p><input type="checkbox"/> 鬼ごっこなど、空間認知の力の低下や周囲を見極めながら走る力が低下しているのか、他児と衝突するなどのアクシデントに見舞われる。</p> <p><input type="checkbox"/> 忙しい毎日の中、休みの日は大人の都合に合わせて行動する家庭も多く、戸外で遊ぶ機会が減り、体の使い方が不器用な子どもがいる。また、体幹が弱いと感じる子どもも増えている。体を動かす楽しさを感じられるような遊びに誘っている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 幼児期に身に付けたい 36 の動きのうち、当園の環境では、のる、こぐ、うく、およぐができない。</p> <p><input type="checkbox"/> 一か所に集中せず分散できる環境づくりを行い、感染対策を講じて戸外では友達と触れ合える機会を多くもてるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍で家庭や地域において人と関わる機会が減少している中、友達と関わって遊ぶ力に課題がある。一人遊びの中でしか自己を発揮できず、集団にうまく参加できなかったり、友達との関わりに消極的な傾向にある。</p> <p><input type="checkbox"/> 全身を使う遊びが楽しめるよう消毒できる用具・遊具の活用・数の調整を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍により子どもの生活や遊びに影響を及ぼしている。テレビやDVD、ゲーム等による一人遊びの時間の増加している。異年齢</p>

<p>□社会環境や生活様式の変化から、家庭では興味関心がスマホやゲームなどに向き、体を動かして遊ぶ機会が減少している。その事が意欲や気力の減弱、コミュニケーションが構築できないなど、子どもの心身の発達にも影響を及ぼしている。</p> <p>□自園では園庭が狭く、その中で戸外遊びは十分にできてはいるが園外での自然に触れる機会が減ってきている。(安全性を考慮して)</p> <p>□地域で安心して遊べる場や、異年齢での子ども同士が関わって遊ぶ機会が減少し、テレビ視聴やゲーム等の室内での遊びが増えている。友だちとの関わりが減り自己をコントロールする力が弱くなっている。</p>	<p>の友達と関わって遊んだり集団で群れて遊ぶ機会が減り、人と関わる機会が減少している。</p> <p>□散歩に行かなくても園内にある自然豊かな広場で、走ったり、アスレチックや縄ブランコをしたりして全身を使って遊べるように環境の整備。</p> <p>□幼稚園とは異なり、保育所は、少なくとも未満児向け、以上児向けの遊具の設置が出来る安全対策が図りやすい。</p>
---	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 心身の健康に関する領域「健康」

○ 内容

③ 進んで戸外で遊ぶ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、子どもが保育士等や他の子どもとの温かい触れ合いの中で自己の存在感や充実感を味わうことなどを基盤として、しなやかな心と体の発達を促すこと。特に、十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。

② 様々な遊びの中で、子どもが興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することにより、体を動かす楽しさを味わい、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。その際、多様な動きを経験する中で、体の動きを調整するようにすること。

③ 自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶことにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、子どもの興味や関心が戸外にも向くようにすること。その際、子どもの動線に配慮した園庭や遊具の配置などを工夫すること。

➤ 内容③および内容の取扱い①②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□子どもたちが興味をもって活動できる保育環境の整備と安全の確保を両立</p> <p>□異常気象（猛暑、科学物質（光化学オキシダントやp m2.5など）で戸外で思う存分遊ぶことができない。</p> <p>□熱中症アラートが出ていると戸外遊びができないので夏は屋内遊びが中心になる</p> <p>□不審者対応を考えると散歩で地域の人との交流をためらってしまう。</p> <p>□道路（交通）事情で遠距離に散歩できなくなっている。</p> <p>□忙しい毎日の中、休みの日は大人の都合に合わせて行動する家庭も多く、戸外で遊ぶ機会が減り、体の使い方が不器用な子どもがいる。また、体幹が弱いと感じる子どもも増えている。体を動かす楽しさを感じられるような遊びに誘っている。</p> <p>□社会環境や生活様式の変化から、家庭では興味関心がスマホやゲームなどに向き、体を動かして遊ぶ機会が減少している。その事が意欲や気力の減弱、コミュニケーションが構築できないなど、子どもの心身の発達にも影響を及ぼしている。</p> <p>□自園では園庭が狭く、その中で戸外遊びは十分にできてはいるが園外での自然に触れる機会が減ってきている。（安全性を考慮して）</p> <p>□地域で安心して遊べる場や、異年齢での子ども同士が関わって遊ぶ機会が減少し、テレビ視聴やゲーム等の室内での遊びが増えている。友だちとの関わりが減り自己をコントロールする力が弱くなっている。</p>	<p>□一か所に集中せず分散できる環境づくりを行い、感染対策を講じて戸外では友達と触れ合える機会を多くもてるようにする。</p> <p>□コロナ禍で家庭や地域において人と関わる機会が減少している中、友達と関わって遊ぶ力に課題がある。一人遊びの中でしか自己を発揮できず、集団にうまく参加できなかったり、友達との関わりに消極的な傾向にある。</p> <p>□全身を使う遊びが楽しめるよう消毒できる用具・遊具の活用・数の調整を行っている。</p> <p>□コロナ禍により子どもの生活や遊びに影響を及ぼしている。テレビやDVD、ゲーム等による一人遊びの時間の増加している。異年齢の友達と関わって遊んだり集団で群れて遊ぶ機会が減り、人と関わる機会が減少している。</p> <p>□散歩に行かなくても園内にある自然豊かな広場で、走ったり、アスレチックや縄ブランコをしたりして全身を使って遊べるように環境の整備。</p> <p>□幼稚園とは異なり、保育所は、少なくとも未満児向け、以上児向けの遊具の設置が出来ることと安全対策が図りやすい。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 心身の健康に関する領域「健康」

○ 内容

④ 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、子どもが保育士等や他の子どもとの温かい触れ合いの中で自己の存在感や充実感を味わうことなどを基盤として、しなやかな心と体の発達を促すこと。特に、十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。

② 様々な遊びの中で、子どもが興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することにより、体を動かす楽しさを味わい、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。その際、多様な動きを経験する中で、体の動きを調整するようにすること。

③ 自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶことにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、子どもの興味や関心が戸外にも向くようにすること。その際、子どもの動線に配慮した園庭や遊具の配置などを工夫すること。

④ 健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切であることを踏まえ、子どもの食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中で保育士等や他の子どもと食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味や関心をもったりするなどし、食の大切さに気付き、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。

➤ 内容④および内容の取扱い①②③④と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 失敗やうまくできないことを恐れ、やってみようと思えるまでに時間がかかる子もいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 集団での活動の場合、思い通りにならないことを周囲のせいにするなどして時として活動に中断が生じることもある。</p> <p><input type="checkbox"/> 栽培活動などの取り組みをさらに充実させたいが、日常の保育との折り合いをつけていかねばならず、取り組みの規模や方法に制限をかける必要が生じる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 歌を歌わなかったり、活動に制限を設けたりした園も多々あった</p> <p><input type="checkbox"/> 一か所に集中せず分散できる環境づくりを行い、感染対策を講じて戸外では友達と触れ合える機会を多くもてるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍で家庭や地域において人と関わる機会が減少している中、友達と関わって遊ぶ力に課題がある。一人遊びの中でしか自己を発揮できず、集団にうまく参加できなかった</p>

<p>□子どもの遊びに変化が見られ、主体性を発揮して夢中になり遊びを通した子ども同士の関わりが減ってきている。様々な活動にも楽しんで取り組む姿勢が薄くなっている。</p> <p>□様々な、も曖昧でわかりにくい</p> <p>□忙しい毎日の中、休みの日は大人の都合に合わせて行動する家庭も多く、戸外で遊ぶ機会が減り、体の使い方が不器用な子どもがいる。また、体幹が弱いと感じる子どもも増えている。体を動かす楽しさを感じられるような遊びに誘っている。</p> <p>□社会環境や生活様式の変化から、家庭では興味関心がスマホやゲームなどに向き、体を動かして遊ぶ機会が減少している。その事が意欲や気力の減弱、コミュニケーションが構築できないなど、子どもの心身の発達にも影響を及ぼしている。</p> <p>□自園では園庭が狭く、その中で戸外遊びは十分にできてはいるが園外での自然に触れる機会が減ってきている。(安全性を考えて)</p> <p>□地域で安心して遊べる場や、異年齢での子ども同士が関わって遊ぶ機会が減少し、テレビ視聴やゲーム等の室内での遊びが増えている。友だちとの関わりが減り自己をコントロールする力が弱くなっている。</p> <p>□食事の大切さ、重要さを実感している家庭とそうではない家庭との格差を感じる。</p> <p>□核家族や働き方の変化により、家族そろっての食事が少なくなり、楽しく食べる経験が減っているのではないかと感じる。また、保護者自身が朝食を食べないなど食生活の乱れがある。</p>	<p>り、友達との関わりに消極的な傾向にある。</p> <p>□全身を使う遊びが楽しめるよう消毒できる用具・遊具の活用・数の調整を行っている。</p> <p>□コロナ禍により子どもの生活や遊びに影響を及ぼしている。テレビやDVD、ゲーム等による一人遊びの時間の増加している。異年齢の友達と関わって遊んだり集団で群れて遊ぶ機会が減り、人と関わる機会が減少している。</p> <p>□散歩に行かなくても園内にある自然豊かな広場で、走ったり、アスレチックや縄ブランコをしたりして全身を使って遊べるように環境の整備。</p> <p>□幼稚園とは異なり、保育所は、少なくとも未満児向け、以上児向けの遊具の設置が出来ると安全対策が図りやすい。</p> <p>□コロナ感染予防のため、保育士と一緒に給食を食べることができなくなっている。子ども同士も黙食のため、会話をしながら楽しく食事をする機会が減っている。</p> <p>□日々の給食が一番の食育媒体だと考えると、コロナ禍の感染症対策において、取組が難しい。そのため、生活の中で食材や食の関心を高める活動や、家庭への働き掛けを行った。</p> <p>□コロナ禍で他児との距離を取って食事する、なるべくしゃべらない、などの制限があり、他児と食べる喜び楽しさは味わいにくくなっている</p> <p>□そもそも生活の学びには個別配慮が多くあり、職員が食事をしながら30人の安全を見守り、個別サポートするなど困難である。</p>
---	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 心身の健康に関する領域「健康」

○ 内容

⑤ 保育士等や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

④ 健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切であることを踏まえ、子どもの食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中で保育士等や他の子どもと食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味や関心をもったりするなどし、食の大切さに気づき、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。

➤ 内容⑤および内容の取扱い④と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 家庭での食事の姿が姿勢や食具の扱い方に投影される。また、離乳期からの影響が食べる姿に見られる。</p> <p><input type="checkbox"/> 長時間労働や生活スタイルの多様化で、親子で買い物に行く機会のない子どもたちは、野菜や食材の形が分からないこともある。栽培や調理の様子を見るなどして興味を持てるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員は楽しんで食事をする機会がない。その姿を見て子どもは楽しめているのか。</p> <p><input type="checkbox"/> 食事の大切さ、重要さを実感している家庭とそうではない家庭との格差を感じる。</p> <p><input type="checkbox"/> 核家族や働き方の変化により、家族そろっての食事が少なくなり、楽しく食べる経験が減っているのではないかと感じる。また、保護者自身が朝食を食べないなど食生活の乱れがある。</p>	<p><input type="checkbox"/> 保育士と一緒に食べることをしなくなったが、反面、子どもの食事の状態を詳細に把握することができた。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染リスクを防ぐ為、保育者が一緒に食事しながらマナーなどを知らせ、食事を楽しむことが困難。</p> <p><input type="checkbox"/> 他児と離れて食べる、やなるべくしゃべらないで食べるなどの制限があった</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ感染予防のため、保育士と一緒に給食を食べることができなくなっている。子ども同士も黙食のため、会話をしながら楽しく食事をする機会が減っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 日々の給食が一番の食育媒体だと考えると、コロナ禍の感染症対策において、取組が難しい。そのため、生活の中で食材や食の関心を高める活動や、家庭への働き掛けを行った。</p> <p><input type="checkbox"/> 他児との距離を取って食事する、なるべくしゃべらない、などの制限があり、他児と食べる喜び楽しさは味わいにくくなっている</p> <p><input type="checkbox"/> そもそも生活の学びには個別配慮が多くあり、職員が食事しながら30人の安全を見守り、個別サポートするなど困難である。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 心身の健康に関する領域「健康」

○ 内容

⑥ 健康な生活のリズムを身に付ける。

↳ 関連する「内容の取扱い」

⑤ 基本的な生活習慣の形成に当たっては、家庭での生活経験に配慮し、子どもの自立心を育て、子どもが他の子どもと関わりながら主体的な活動を展開する中で、生活に必要な習慣を身に付け、次第に見通しをもって行動できるようにすること。

➤ 内容⑥および内容の取扱い⑤と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 保護者の生活スタイルや就業形態等が多様になり、就寝が遅く、それに伴い登園も遅くなり、園での生活リズムが整いにくい。</p> <p><input type="checkbox"/> 保護者にとって体温など、可視化されている状況は理解しやすいが、機嫌の悪さ、便の状況などからは体調不良を認めない。</p> <p><input type="checkbox"/> 健康な生活のリズムとはどういうものか各家庭の置かれている状況が多様</p> <p><input type="checkbox"/> 長時間の保育が子どもの生活リズムに及ぼす影響</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭での生活スタイルが多様化していることまた開示したがない家庭も増えた為、アセスメントがしづらい。</p> <p><input type="checkbox"/> 生活習慣獲得のために、子どもが自ら行う姿を見守る必要性を伝えたいが、保護者が忙しく、十分な会話や連携の時間が取りづらい。</p>	<p><input type="checkbox"/> 感染状況により、継続して登園することが難しい子どもが増え、生活リズムが崩れやすい為、個別に応じて対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナウイルスについての絵本や健康な体についての絵本などの読み聞かせを通して、生活リズムを整えることやバランスの良い食事をとることの大切さなど伝えている。</p> <p><input type="checkbox"/> 午睡や給食の時間設定について、大人側の都合による場合がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染防止の観点から、自分たちで配膳をしたり、生活習慣の経験をすることが難しくなっている状況の中、経験値を上げるための手だてが必要である。</p> <p><input type="checkbox"/> 保育園の中に保護者が入ってこられないので、他の子どもとの関わりを見てもらうことができない。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 心身の健康に関する領域「健康」

○ 内容

⑦ 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

⑤ 基本的な生活習慣の形成に当たっては、家庭での生活経験に配慮し、子どもの自立心を育て、子どもが他の子どもと関わりながら主体的な活動を展開する中で、生活に必要な習慣を身に付け、次第に見通しをもって行動できるようにすること。

➤ 内容⑦および内容の取扱い⑤と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 現在の自分の自立の状況を自覚し、可視化することで意欲的に取組もうとする気持ちは芽生える。家庭への働きかけは子どもを通して行うことが効果的</p> <p><input type="checkbox"/> 保育所に任せきりになる傾向にあるので、家庭と保育所と一体となって毎日コツコツと取り組むことが必要である。</p> <p><input type="checkbox"/> 排泄面で紙パンツの性能が良いせいなのか、布パンツになる年齢が高くなっているように感じる。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭での生活スタイルが多様化していることまた開示しながらない家庭も増えた為、アセスメントがしづらい。</p> <p><input type="checkbox"/> 生活習慣獲得のために、子どもが自ら行う姿を見守る必要性を伝えたいが、保護者が忙しく、十分な会話や連携の時間が取りづらい。</p>	<p><input type="checkbox"/> トイレットペーパーを清潔に使用、管理できるようにホルダーを取り換えた。</p> <p><input type="checkbox"/> 生活習慣の自立を確認してきたお泊り保育が例年のプログラム通りには展開できなくなったが、その分、何が大切なのか、何を大切にして実施するのが良いのかと、ねらいからの見直しができた。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染防止の観点から、自分たちで配膳をしたり、生活習慣の経験をすることが難しくなっている状況の中、経験値を上げるための手だてが必要である。</p> <p><input type="checkbox"/> 保育園の中に保護者が入ってこられないので、他の子どもとの関わりを見てもらうことができない。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 心身の健康に関する領域「健康」

○ 内容

⑧ 保育所における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。

↳ 関連する「内容の取扱い」

⑤ 基本的な生活習慣の形成に当たっては、家庭での生活経験に配慮し、子どもの自立心を育て、子どもが他の子どもと関わりながら主体的な活動を展開する中で、生活に必要な習慣を身に付け、次第に見通しをもって行動できるようにすること。

➤ 内容⑧および内容の取扱い⑤と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 保育園での生活が長く、家庭で過ごす時間が短くなってきている家庭が増えてきている。</p> <p><input type="checkbox"/> 見通しのある生活が生活習慣の自立につながる。家庭においてこの見通しが定着していない場合がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭での生活スタイルが多様化していることまた開示したがない家庭も増えた為、アセスメントがしづらい。</p> <p><input type="checkbox"/> 生活習慣獲得のために、子どもが自ら行う姿を見守る必要性を伝えたいが、保護者が忙しく、十分な会話や連携の時間が取りづらい。</p>	<p><input type="checkbox"/> 感染リスクを防ぐ為、黙食の必要性を知らせ、ルールを守りながら食事をする。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ感染防止のために、色々な場面で日課が変わることもあり、落ちつけない環境になることがある。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染防止の観点から、自分たちで配膳をしたり、生活習慣の経験をするのが難しくなっている状況の中、経験値を上げるための手だてが必要である。</p> <p><input type="checkbox"/> 保育園の中に保護者が入ってこられないので、他の子どもとの関わりを見てもらうことができない。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 心身の健康に関する領域「健康」

○ 内容

⑨ 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、子どもが保育士等や他の子どもとの温かい触れ合いの中で自己の存在感や充実感を味わうことなどを基盤として、しなやかな心と体の発達を促すこと。特に、十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。
- ② 様々な遊びの中で、子どもが興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することにより、体を動かす楽しさを味わい、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。その際、多様な動きを経験する中で、体の動きを調整するようにすること。
- ③ 自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶことにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、子どもの興味や関心が戸外にも向くようにすること。その際、子どもの動線に配慮した園庭や遊具の配置などを工夫すること。
- ④ 健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切であることを踏まえ、子どもの食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中で保育士等や他の子どもと食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味や関心をもったりするなどし、食の大切さに気付き、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。
- ⑤ 基本的な生活習慣の形成に当たっては、家庭での生活経験に配慮し、子どもの自立心を育て、子どもが他の子どもと関わりながら主体的な活動を展開する中で、生活に必要な習慣を身に付け、次第に見通しをもって行動できるようにすること。

➤ 内容⑨および内容の取扱い①②③④⑤と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<input type="checkbox"/> 医療的ケアの必要な子ども、特別な支援が必要な子どもとの生活が当たり前になってくる（希望的） <input type="checkbox"/> 仕事が休めない時は病児保育等利用する家庭が増えてきている。	<input type="checkbox"/> 進んで手指の消毒をしたり、人との距離を意識したりすることを促せるように、視覚的教材を用いた環境など見直した。 <input type="checkbox"/> アルコール消毒や手洗いをしすぎて手荒れのひどい子どもがいた

<p>□軽微であっても体調不良を抱えて登園してくるケースがある。</p> <p>□忙しい毎日の中、休みの日は大人の都合に合わせて行動する家庭も多く、戸外で遊ぶ機会が減り、体の使い方が不器用な子どもがいる。また、体幹が弱いと感じる子どもも増えている。体を動かす楽しさを感じられるような遊びに誘っている。</p> <p>□社会環境や生活様式の変化から、家庭では興味関心がスマホやゲームなどに向き、体を動かして遊ぶ機会が減少している。その事が意欲や気力の減弱、コミュニケーションが構築できないなど、子どもの心身の発達にも影響を及ぼしている。</p> <p>□自園では園庭が狭く、その中で戸外遊びは十分にできてはいるが園外での自然に触れる機会が減ってきている。(安全性を考慮して)</p> <p>□地域で安心して遊べる場や、異年齢での子ども同士が関わって遊ぶ機会が減少し、テレビ視聴やゲーム等の室内での遊びが増えている。友だちとの関わりが減り自己をコントロールする力が弱くなっている。</p> <p>□食事の大切さ、重要さを実感している家庭とそうではない家庭との格差を感じる。</p> <p>□核家族や働き方の変化により、家族そろっての食事が少なくなり、楽しく食べる経験が減っているのではないかと感じる。また、保護者自身が朝食を食べないなど食生活の乱れがある。</p> <p>□家庭での生活スタイルが多様化していることまた開示したがない家庭も増えた為、アセスメントがしづらい。</p> <p>□生活習慣獲得のために、子どもが自ら行う姿を見守る必要性を伝えたいが、保護者が忙しく、十分な会話や連携の時間が取りづらい。</p>	<p>□一か所に集中せず分散できる環境づくりを行い、感染対策を講じて戸外では友達と触れ合える機会を多くもてるようにする。</p> <p>□コロナ禍で家庭や地域において人と関わる機会が減少している中、友達と関わって遊ぶ力に課題がある。一人遊びの中でしか自己を発揮できず、集団にうまく参加できなかったり、友達との関わりに消極的な傾向にある。</p> <p>□全身を使う遊びが楽しめるよう消毒できる用具・遊具の活用・数の調整を行っている。</p> <p>□コロナ禍により子どもの生活や遊びに影響を及ぼしている。テレビやDVD、ゲーム等による一人遊びの時間の増加している。異年齢の友達と関わって遊んだり集団で群れて遊ぶ機会が減り、人と関わる機会が減少している。</p> <p>□散歩に行かなくても園内にある自然豊かな広場で、走ったり、アスレチックや縄ブランコをしたりして全身を使って遊べるように環境の整備。</p> <p>□幼稚園とは異なり、保育所は、少なくとも未満児向け、以上児向けの遊具の設置が出来ること安全対策が図りやすい。</p> <p>□コロナ感染予防のため、保育士と一緒に給食を食べることができなくなっている。子ども同士も黙食のため、会話をしながら楽しく食事をする機会が減っている。</p> <p>□日々の給食が一番の食育媒体だと考えると、コロナ禍の感染症対策において、取組が難しい。そのため、生活の中で食材や食の関心を高める活動や、家庭への働き掛けを行った。</p> <p>□コロナ禍で他児との距離を取って食事する、なるべくしゃべらない、などの制限があり、他児と食べる喜び楽しさは味わいにくくなっている</p> <p>□そもそも生活の学びには個別配慮が多くあり、職員が食事をしながら30人の安全を見守り、個別サポートするなど困難である。</p> <p>□感染防止の観点から、自分たちで配膳をしたり、生活習慣の経験をすることが難しくなっ</p>
---	--

	<p>ている状況の中、経験値を上げるための手だてが必要である。</p> <p>□ 保育園の中に保護者が入ってこれられないので、他の子どもとの関わりを見てもらうことができない。</p>
--	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 心身の健康に関する領域「健康」

○ 内容

⑩ 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。

↳ 関連する「内容の取扱い」

⑥ 安全に関する指導に当たっては、情緒の安定を図り、遊びを通して安全についての構えを身に付け、危険な場所や事物などが分かり、安全についての理解を深めるようにすること。また、交通安全の習慣を身に付けるようにするとともに、避難訓練などを通して、災害などの緊急時に適切な行動がとれるようにすること。

➤ 内容⑩および内容の取扱い⑥と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□ ヒーローになりきる姿を見かける。仮想と現実が混合し、痛みを伴う遊びになってしまうこともある。</p> <p>□ 自由に動く範囲が狭くなっているため危険を感じる力は弱くなっている</p> <p>□ 子どもは遊びを通して、考えることや人間関係、行動力、伝達する力、人の話を聞く等様々なことが養われていくが、その遊びを通して獲得する力が養われなくなっている。</p> <p>□ 安全を気にするあまり過保護や過介入になってしまい危険を避ける能力が育たず、大怪我ではないが、小さな怪我が多くなっている。</p>	<p>□ 園外保育や散歩の機会が減り、実際に交通ルールを伝える機会が減ったため、絵本や紙芝居を活用している。</p> <p>□ 保育の環境は、子どもが危険な行動をとっても危険が発生しないように設定されているため、体験では身に付けることは出来ない。交通安全の学ぶ機会を与えることはできるが、習慣を身に付けることは大変難しい。普段から横断歩道を使わない、歩道のない道路は歩きたくない。緊急時は、「大人の指示に従うこと」としているため、自ら適切な行動がとれるようにはしていない。自ら判断されると集団避難が困難になる。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ア. 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」

○ A・B を踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)

- ・ どの子にも居心地の良い環境は適度な賑わい。
- ・ 面積基準と一クラスでの適正な人数が再考されるべき。
- ・ マスクなしでの生活の保障。
- ・ 丁寧な保護者の支援が必要なため、加配を位置づけていただきたい。家庭支援推進事業の拡充。
- ・ 医療的ケアに必要な専門スタッフの配置(実際の労務に加え、子どもや職員、当該保護者や他の保育者への教育的役割も果たしてほしい)
- ・ 家庭への食育指導、食育支援への人員補助。
- ・ 保育士に求められる資質と能力が低下することにより子どもを理解し信頼し、活動の場面に応じた適切な指導を行う力が弱まっている。子どもを理解し、総合的な指導をするための必要な資質を身に付けなければならない。
- ・ 保育園の中だけでもメディアから離れ、楽しく遊べる工夫を行う。
- ・ 安心して園外に行ける体制が十分に整うためにも、人員の配置を増してほしい。
- ・ 保育環境改善事業
- ・ 施設の安全や保育環境を整えるための事業
- ・ 興味をもって運動遊びに取り組むような環境構成や援助の工夫をし、体を動かすことに充実感や満足感を味わえるようにする。
- ・ 自園での畑の野菜づくりを経験し、水やり等で生長を観て実感し、触ったり嗅いだり大きくなることを喜びそのことを友だちと共有する機会を多く持つ。
- ・ 家庭の教育力の向上のための支援やそれを行うための連携体制の構築など。
- ・ 今の子どもを取り巻く環境の違いから、やる前から無理、やらないということがある。物事をやり遂げる気持ちも弱く飽きっぽい傾向にある。結果や成果を求めるのではなくやろう、やりたいとする過程を大事にしながら、身に付けていけるようにする。
- ・ 子どもが経験するには、園だけではなく、家庭でも…と思うが、平日は出来ない。交通安全教室もあるが、ちょっとやり方を工夫してほしい。
- ・ 基本は担任からの発信によりいつでも園長や主任が個別対応に入り、状態が落ち着いてからクラスへ戻る。複数担任の場合は、人を替えることで切り替えができることもあるため、どの先生が良い?と子どもに聞き対応する。
- ・ 自転車などを設置できない。園庭がほぼ全面が砂場なので自転車をこげる平面がない。プールが無い。
- ・ 職員の勤務時間や休憩は、デイリープログラムに沿った職員必要数を算出して設定する。デイリープログラムも常に確認する。
- ・ ルールとして取り組むことと、理解をして取り組むことの間であると思う。
- ・ 園生活の中であり、園の決まったルールの中での限定。



○ 今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点

i	配置基準の改定
	<p>○インクルーシブ保育の課題</p> <ul style="list-style-type: none">・ 保育施設には、特別支援学級が無い。すべての子どもが通常クラスへ在籍している。・ 特に加配のない子どもの保育と集団保育の両立が困難な状況がある（通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒：8.8%）・ 医療的ケア児や障がい児について、必要なケアは様々である。定型発達の子の保育内容しか示されていないため、現場での混乱がある。 <p>○生活に関連する保育の課題</p> <ul style="list-style-type: none">・ 生活リズム・生活の自立・食事・睡眠・排泄について、根拠のある記述が少ないため、保育内容に個人差が出やすい。・ 生活に関わる保育は家庭での経験による差が大きいため、丁寧な関わりのためには、より人員が必要である。・ 職員がゆったりと子どもと食事を共にすることは出来ません。
ii	保育者の専門性の確保
	<p>○医療的ケア児への対応</p> <ul style="list-style-type: none">・ 保育の場は、人と人の関わりの中で成り立つため、看護師が配置されただけでは対応はできない。関わる子ども、家庭、全職員の学びが必要である。
iii	面積基準の改定
	<p>○おゆうぎ室（室内運動場）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 未満児と以上児では安全基準が異なる。幼稚園では以上児で1室設けられているので、保育所では以上児・未満児各1室設置が望ましい。・ 異常気象（大雨、猛暑、大雪など）により、外出など制限を増えているため、室内運動場の整備が求められる。 <p>○教室</p> <ul style="list-style-type: none">・ 生活と教育の場が共有のため、より豊かな保育の実践が難しい。もしくは、その都度環境を整えるために人員が必要となる。・ 面積基準 1.98 m²は、個人机といすを置くと、ほぼ満たされる。フリースペースが存在しないため、保育の展開に制限がある。
iv	コロナ禍の保育を振り返って
	<ul style="list-style-type: none">・ 感染蔓延対策には、園内の消毒作業よりも、感染者の隔離にあった（園内に感染者が入らなければ蔓延は起こらない）。病後児保育の計画的設置や勤務先の理解が求められる。・ 感染症ガイドラインの理解と、小児科医との連携が必要。
v	自然とのふれあい、戸外活動の課題
	<p>○自然とのふれあい</p> <ul style="list-style-type: none">・ 地域差が大きい。 <p>○戸外活動</p> <ul style="list-style-type: none">・ 不審者や交通事情による安全の確保の難しさにより外出が制限される。・ 異常気象により外出の制限が増えている。

vi	<p>[文科省の36の動きとの関連する記述がない]</p> <p>[具体的な運動時間やスクリーンタイムの把握が必要]</p>
vii	<p>包括的性教育を意識することの必要性</p> <p>・性教育は自身の身体を守ることや、人権の意識を育てることにつながるものであり、意識的にかかわることが必要。</p>

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ ねらい

- ① 保育所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
- ② 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。
- ③ 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。保育所での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じる。

○ 内容

- ① 保育士等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 保育士等との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮し、子どもが自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力でやることの充実感を味わうことができるよう、子どもの行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。
- ② 一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていくようにすること。その際、集団の生活の中で、子どもが自己を発揮し、保育士等や他の子どもにも認められる体験をし、自分のよさや特徴に気付き、自信をもって行動できるようにすること。
- ③ 子どもが互いに関わりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。
- ④ 道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、子どもが他の子どもとの関わりの中で他人の存在に気付き、相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにし、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。
- ⑤ 集団の生活を通して、子どもが人との関わりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、子どもが保育士等との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気付き、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。

➤ 内容①および内容の取扱い①②③④⑤と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□家庭という社会を構成する基礎となる集団の中でメディアが中心となる生活を送っていると園での遊びの意図や方法がすぐに理解できず、自分の居場所を見つけられずに室内を歩き回る姿が見られる。</p> <p>□友だちとのかかわりの中で、自己主張に走り、納得できずにこじらせてしまうことがある。まあ、いかなどの歩み寄る力が希薄。</p> <p>□家庭や地域において人と関わる機会が減少している中、友達と関わって遊ぶ力に課題がある。一人遊びの中でしか自己を発揮できず、集団にうまく参加できなかつたり、友達とのかかわりに消極的な傾向にある。</p> <p>□密を防ぎつつ、友だちと一緒に遊びこめるように、間隔を広くとったコーナー配置を見直した。</p> <p>□家庭で様々な人と接する機会が少なく、相手の気持ちを受け入れたり、尊重したりする機会が少なくなっている。保育士が先導するのではなく、子ども自身が自分の気持ちを十分に伝えられるように援助している。</p> <p>□道徳性や規範意識などは家庭での関わりで違いが見られる。親によく見られたい、怒られたくないという気持ちから本当のことが言えない子どももいる。反面、自分の思いを伝えることができない子どももいるため、保育士が寄り添い、友達の気持ちや自分の気持ちを表出できるように丁寧に関わっている。家庭との連携が大切である。</p> <p>□人口減少に伴う園児数の減少はいろいろな考えや行動を、周囲の友だちの中に見つける機会や範囲を狭めていくことにもなる。</p> <p>□少子化や核家族化、テレビやDVD、ゲーム等による一人遊びの時間の増加に伴って家庭や地域において、異年齢の友達と関わって遊んだり集団で群れて遊んだりすることが少</p>	<p>□コロナ禍で家庭保育をしている子どもに対して、手紙や動画配信などを通し、保育者や友だちとの親しみが継続できるようにすると共に、登園が楽しみになるようにした。</p> <p>□休園措置などにおける家庭保育の増加、参集（大人数での行事等）の機会の減少。</p> <p>□クラスに配慮の必要な子どもが在籍する場合、その子の持てる力に合わせて保育を設定すると混乱が少ないと言われている。しかし、能力が高い子どもに対しては、試行錯誤する経験が少なくなる。1人担任には限界がある。</p> <p>□グレーゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、共同の活動ではトラブルが多発する。そのため、共同の活動が成り立っている集団に対して担任が遊びを展開する関わりがほとんど出来ない。クラスに何%程度在籍しているのか。</p> <p>□さまざまな体験をする機会が減ってきている。道徳性や規範意識は、友だちとの関わりを通して相手の気持ちがわかるようになることで少しずつ芽生えていくので、その機会を逃さないように配慮する。</p> <p>□昆虫も良い。</p> <p>□グレーゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、折り合いをつける体験には、保育者の高い技術が必要である。</p>

なくなり、人と関わる機会が減少している。

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ 内容

② 自分で考え、自分で行動する。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 保育士等との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮し、子どもが自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、子どもの行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。
- ② 一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていくようにすること。その際、集団の生活の中で、子どもが自己を発揮し、保育士等や他の子どもに認められる体験をし、自分のよさや特徴に気づき、自信をもって行動できるようにすること。
- ③ 子どもが互いに関わりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。
- ④ 道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、子どもが他の子どもとの関わりの中で他人の存在に気づき、相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにし、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。
- ⑤ 集団の生活を通して、子どもが人との関わりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、子どもが保育士等との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気づき、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。

- ⑥ 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人と触れ合い、自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ、共感し合う体験を通して、これらの人々などに親しみをもち、人と関わることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること。また、生活を通して親や祖父母などの家族の愛情に気づき、家族を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。

➤ 内容②および内容の取扱い①②③④⑤⑥と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/>自分で考えて行動する…という経験が少ない。保護者もしてこなかった世代なのもあるような気がする。</p> <p><input type="checkbox"/>保護者というよりも、地方は祖父母が同居しており、子どもが自分でやらなくても済んでしまうことが多い。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭や地域において人と関わる機会が減少している中、友達と関わって遊ぶ力に課題がある。一人遊びの中でしか自己を発揮できず、集団にうまく参加できなかつたり、友達とのかかわりに消極的な傾向にある。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭で様々な人と接する機会が少なく、相手の気持ちを受け入れたり、尊重したりする機会が少なくなっている。保育士が先導するのではなく、子ども自身が自分の気持ちを十分に伝えられるように援助している。</p> <p><input type="checkbox"/>道徳性や規範意識などは家庭での関わりで違いが見られる。親によく見られたい、怒られたくないという気持ちから本当のことが言えない子どももいる。反面、自分の思いを伝えることができない子どももいるため、保育士が寄り添い、友達の気持ちや自分の気持ちを出表できるように丁寧に関わっている。家庭との連携が大切である。</p> <p><input type="checkbox"/>人口減少に伴う園児数の減少はいろいろな考えや行動を、周囲の友だちの中に見つける機会や範囲を狭めていくことにもなる。</p> <p><input type="checkbox"/>少子化や核家族化、テレビやDVD、ゲーム等による一人遊びの時間の増加に伴って家庭や地域において、異年齢の友達と関わって遊</p>	<p><input type="checkbox"/>集団指導が強制的になると、園児自ら大人の望む姿を考え、行動するようになる。怒られないために。</p> <p><input type="checkbox"/>クラスに配慮の必要な子どもが在籍する場合、その子の持てる力に合わせて保育を設定すると混乱が少ないと言われている。しかし、能力が高い子どもに対しては、試行錯誤する経験が少なくなる。1人担任には限界がある。</p> <p><input type="checkbox"/>グレーゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、共同の活動ではトラブルが多発する。そのため、共同の活動が成り立っている集団に対して担任が遊びを展開する関わりがほとんど出来ない。クラスに何%程度在籍しているのか。</p> <p><input type="checkbox"/>さまざまな体験をする機会が減ってきている。道徳性や規範意識は、友だちとの関わりを通して相手の気持ちがわかるようになることで少しずつ芽生えていくので、その機会を逃さないように配慮する。</p> <p><input type="checkbox"/>昆虫も良い。</p> <p><input type="checkbox"/>グレーゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、折り合いをつける体験には、保育者の高い技術が必要である。</p> <p><input type="checkbox"/>高齢者施設での交流はお互いに手を取り合ったり、触れ合って遊ぶなど、核家族化の進んだ現代では貴重な体験となっていた。また、高齢者にとっても子どもたちとの触れ合いは喜びでもあった。その機会が失われてしまつて久しい。手紙のやり取りなど、できる</p>

<p>んだり集団で群れて遊んだりすることが少なくなり、人と関わる機会が減少している。</p> <p>□核家族化の家庭で祖父母と接触する機会が少ない。</p> <p>□子ども自らが、家族の一員であるという意識がもてるような取り組みを家庭に向けて発信している。</p>	<p>範囲での交流にとどめている。</p> <p>□地域の高齢者や小・中学生、ボランティアや体験権学習など多世代交流の場が減った。また異年齢クラスの交流も自粛している。</p> <p>□高齢者を、園に招待することがなくなったので、なかなか厳しい。</p>
--	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ 内容

③ 自分でできることは自分です。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 保育士等との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮し、子どもが自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、子どもの行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。

② 一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていくようにすること。その際、集団の生活の中で、子どもが自己を発揮し、保育士等や他の子どもにも認められる体験をし、自分のよさや特徴に気付き、自信をもって行動できるようにすること。

③ 子どもが互いに関わりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。

⑤ 集団の生活を通して、子どもが人との関わりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、子どもが保育士等との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気付き、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。

⑥ 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人と触れ合い、自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ、共感し合う体験を通して、これらの人々などに親しみをもち、人と関わることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること。また、生活を通して親や祖父母などの家族の愛情に気づき、家族を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。”

➤ 内容③および内容の取扱い①②③⑤⑥と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/>身の回りのことをどこまでやれるのを目指すのか、家庭にそのビジョンが持っていない。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの行動をせかせせたり、できることも大人がやってしまったりすることで、指示待ち、誰かがやってくれると頼る姿がある。</p> <p><input type="checkbox"/>保護者もそうだが、配慮が必要とされる子の場合、特にやってあげるのが正しい？という考え方根強くある。子どもが思ったことを言語化するのが弱くなった。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭や地域において人と関わる機会が減少している中、友達と関わって遊ぶ力に課題がある。一人遊びの中でしか自己を発揮できず、集団にうまく参加できなかったり、友達とのかかわりに消極的な傾向にある。</p> <p><input type="checkbox"/>人口減少に伴う園児数の減少はいろいろな考えや行動を、周囲の友だちの中に見つける機会や範囲を狭めていくことにもなる。</p>	<p><input type="checkbox"/>準備や片付けなど、大人にやってもらうことが増えた。</p> <p><input type="checkbox"/>クラスに配慮の必要な子どもが在籍する場合、その子の持てる力に合わせて保育を設定すると混乱が少ないと言われている。しかし、能力が高い子どもに対しては、試行錯誤する経験が少なくなる。1人担任には限界がある。</p> <p><input type="checkbox"/>グレーゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、共同の活動ではトラブルが多発する。そのため、共同の活動が成り立っている集団に対して担任が遊びを展開する関わりがほとんど出来ない。クラスに何%程度在籍しているのか。</p> <p><input type="checkbox"/>グレーゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、折り合いをつける体験には、保育者の高い技術が必要である。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ 内容

④ いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 保育士等との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮し、子どもが自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、子どもの行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。

② 一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていくようにすること。その際、集団の生活の中で、子どもが自己を発揮し、保育士等や他の子どもに認められる体験をし、自分のよさや特徴に気づき、自信をもって行動できるようにすること。

③ 子どもが互いに関わりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。

➤ 内容④および内容の取扱い①②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> みんなで成功させたいという気持ちが育ってくる中でそれを実現できるだけの集団は必要</p> <p><input type="checkbox"/> 今の子どもを取り巻く環境の違いから、やる前から無理、しないということがある。物事をやり遂げる気持ちも弱く飽きっぽい傾向にある。結果や成果を求めるのではなく意欲を大事にする。</p> <p><input type="checkbox"/> 取り組みを継続させていける保育環境と保育計画が育てる力を再確認しなければならない。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭や地域において人と関わる機会が減少している中、友達と関わって遊ぶ力に課題がある。一人遊びの中でしか自己を発揮できず、集団にうまく参加できなかったり、友達</p>	<p><input type="checkbox"/> コロナ禍で出来る事を考え運動会や発表会を行えるよう工夫する。</p> <p><input type="checkbox"/> クラスに配慮の必要な子どもが在籍する場合、その子の持てる力に合わせて保育を設定すると混乱が少ないと言われている。しかし、能力が高い子どもに対しては、試行錯誤する経験が少なくなる。1人担任には限界がある。</p> <p><input type="checkbox"/> グレーゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、共同の活動ではトラブルが多発する。そのため、共同の活動が成り立っている集団に対して担任が遊びを展開する関わりがほとんど出来ない。クラスに何%程度在籍しているのか。</p>

<p>とのかかわりに消極的な傾向にある。</p> <p>□子どもとの関わり方が分からない保護者もいるため、自己肯定感が低い子どももいる。子どもの頑張っている姿や取り組みの様子などを具体的に褒めることで、自己肯定感を高めていく。</p> <p>□密を防ぎつつ、友だちと一緒に遊びこめるように、間隔を広くとったコーナー配置を見直した。</p>	
---	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ 内容

⑤ 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 保育士等との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮し、子どもが自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、子どもの行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。

② 一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていくようにすること。その際、集団の生活の中で、子どもが自己を発揮し、保育士等や他の子どもに認められる体験をし、自分のよさや特徴に気付き、自信をもって行動できるようにすること。

③ 子どもが互いに関わりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。

④ 道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、子どもが他の子どもとの関わりの中で他人の存在に気付き、相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにし、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。

- ⑤ 集団の生活を通して、子どもが人との関わりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、子どもが保育士等との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気付き、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。

➤ 内容⑤および内容の取扱い①②③④⑤と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 核家族化や少子化が進み、自分の思いがすべて受入られる子どもは、友達の思いに気付きにくく、共感が難しい。</p> <p><input type="checkbox"/> 友達同士で手を繋いで遊んだりする、わらべ歌遊びが家庭や地域において人と関わる機会が減少している中、友達と関わって遊ぶために課題がある。一人遊びの中でしか自己を発揮できず、集団にうまく参加できなかつたり、友達とのかかわりに消極的な傾向にある。</p> <p><input type="checkbox"/> 密を防ぎつつ、友だちと一緒に遊びこめるように、間隔を広くとったコーナー配置を見直した。家庭で様々な人と接する機会が少なく、相手の気持ちを受け入れたり、尊重したりする機会が少なくなっている。保育士が先導するのではなく、子ども自身が自分の気持ちを十分に伝えられるように援助している。</p> <p><input type="checkbox"/> 道徳性や規範意識などは家庭での関わりで違いが見られる。親によく見られたい、怒られたくないという気持ちから本当のことが言えない子どももいる。反面、自分の思いを伝えることができない子どももいるため、保育士が寄り添い、友達の気持ちや自分の気持ちを出せるように丁寧に関わっている。家庭との連携が大切である。</p> <p><input type="checkbox"/> 人口減少に伴う園児数の減少はいろいろな考えや行動を、周囲の友だちの中に見つける機会や範囲を狭めていくことにもなる。</p> <p><input type="checkbox"/> 少子化や核家族化、テレビやDVD、ゲーム等による一人遊びの時間の増加に伴って家庭や地域において、異年齢の友達と関わって遊</p>	<p><input type="checkbox"/> マスク生活で相手の表情が読み取りにくくなっている。</p> <p><input type="checkbox"/> クラスに配慮の必要な子どもが在籍する場合、その子の持てる力に合わせて保育を設定すると混乱が少ないと言われている。しかし、能力が高い子どもに対しては、試行錯誤する経験が少なくなる。1人担任には限界がある。</p> <p><input type="checkbox"/> グレーゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、共同の活動ではトラブルが多発する。そのため、共同の活動が成り立っている集団に対して担任が遊びを展開する関わりがほとんど出来ない。クラスに何%程度在籍しているのか。</p> <p><input type="checkbox"/> さまざまな体験をする機会が減ってきている。道徳性や規範意識は、友だちとの関わりを通して相手の気持ちがわかるようになることで少しずつ芽生えていくので、その機会を逃さないように配慮する。</p> <p><input type="checkbox"/> 昆虫も良い。</p> <p><input type="checkbox"/> グレーゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、折り合いをつける体験には、保育者の高い技術が必要である。</p>

んだり集団で群れて遊んだりすることが少なくなり、人と関わる機会が減少している。やりづらい。

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ 内容

⑥ 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 保育士等との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮し、子どもが自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、子どもの行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。
- ② 一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていくようにすること。その際、集団の生活の中で、子どもが自己を発揮し、保育士等や他の子どもにも認められる体験をし、自分のよさや特徴に気付き、自信をもって行動できるようにすること。
- ③ 子どもが互いに関わりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。
- ④ 道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、子どもが他の子どもとの関わりの中で他人の存在に気付き、相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにし、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。
- ⑤ 集団の生活を通して、子どもが人との関わりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、子どもが保育士等との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気付き、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。

➤ 内容⑥および内容の取扱い①②③④⑤と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 自分の思っていることは伝えるが、反面、相手の思っていることに気づくためには丁寧な仲立ちが必要。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭や地域において人と関わる機会が減少している中、友達と関わって遊ぶ力に課題がある。一人遊びの中でしか自己を発揮できず、集団にうまく参加できなかつたり、友達とのかかわりに消極的な傾向にある。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもとの関わり方が分からない保護者もいるため、自己肯定感が低い子どももいる。子どもの頑張っている姿や取り組みの様子などを具体的に褒めることで、自己肯定感を高めていく。</p> <p><input type="checkbox"/> 密を防ぎつつ、友だちと一緒に遊びこめるように、間隔を広くとったコーナー配置を見直した。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭で様々な人と接する機会が少なく、相手の気持ちを受け入れたり、尊重したりする機会が少なくなっている。保育士が先導するのではなく、子ども自身が自分の気持ちを十分に伝えられるように援助している。</p> <p><input type="checkbox"/> 道徳性や規範意識などは家庭での関わりで違いが見られる。親によく見られたい、怒られたくないという気持ちから本当のことが言えない子どももいる。反面、自分の思いを伝えることができない子どももいるため、保育士が寄り添い、友達の気持ちや自分の気持ちを表出できるように丁寧に関わっている。家庭との連携が大切である。</p> <p><input type="checkbox"/> 人口減少に伴う園児数の減少はいろいろな考えや行動を、周囲の友だちの中に見つける機会や範囲を狭めていくことにもなる。</p> <p><input type="checkbox"/> 少子化や核家族化、テレビやDVD、ゲーム等による一人遊びの時間の増加に伴って家庭や地域において、異年齢の友達と関わって遊んだり集団で群れて遊んだりすることが少</p>	<p><input type="checkbox"/> マスクをしているため相手の気持ちに気づきにくい場面が見られる。</p> <p><input type="checkbox"/> クラスに配慮の必要な子どもが在籍する場合、その子の持てる力に合わせて保育を設定すると混乱が少ないと言われている。しかし、能力が高い子どもに対しては、試行錯誤する経験が少なくなる。1人担任には限界がある。</p> <p><input type="checkbox"/> グレーゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、共同の活動ではトラブルが多発する。そのため、共同の活動が成り立っている集団に対して担任が遊びを展開する関わりがほとんど出来ない。クラスに何%程度在籍しているのか。</p> <p><input type="checkbox"/> さまざまな体験をする機会が減ってきている。道徳性や規範意識は、友だちとの関わりを通して相手の気持ちがわかるようになることで少しずつ芽生えていくので、その機会を逃さないように配慮する。</p> <p><input type="checkbox"/> 昆虫も良い。</p> <p><input type="checkbox"/> グレーゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、折り合いをつける体験には、保育者の高い技術が必要である。</p>

なくなり、人と関わる機会が減少している。

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ 内容

⑦ 友達のよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 保育士等との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮し、子どもが自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、子どもの行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。
- ② 一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていくようにすること。その際、集団の生活の中で、子どもが自己を発揮し、保育士等や他の子どもにも認められる体験をし、自分のよさや特徴に気づき、自信をもって行動できるようにすること。
- ③ 子どもが互いに関わりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。
- ④ 道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、子どもが他の子どもとの関わりの中で他人の存在に気づき、相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにし、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。
- ⑤ 集団の生活を通して、子どもが人との関わりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、子どもが保育士等との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気づき、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。

➤ 内容⑦および内容の取扱い①②③④⑤と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 仲間がいないと楽しめない遊びを好むようになる。</p> <p><input type="checkbox"/> 本来の自己肯定感よりもうまくできる、人より早くできる等に価値観を見出しているせいか、失敗を恐れる。また、初めてのことには取り組んでみようとしな</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭や地域において人と関わる機会が減少している中、友達と関わって遊ぶ力に課題がある。一人遊びの中でしか自己を発揮できず、集団にうまく参加できなかつたり、友達とのかかわりに消極的な傾向にある。</p> <p><input type="checkbox"/> 密を防ぎつつ、友だちと一緒に遊びこめるように、間隔を広くとったコーナー配置を見直した。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭で様々な人と接する機会が少なく、相手の気持ちを受け入れたり、尊重したりする機会が少なくなっている。保育士が先導するのではなく、子ども自身が自分の気持ちを十分に伝えられるように援助している。</p> <p><input type="checkbox"/> 道徳性や規範意識などは家庭での関わりで違いが見られる。親によく見られたい、怒られたくないという気持ちから本当のことが言えない子どももいる。反面、自分の思いを伝えることができない子どももいるため、保育士が寄り添い、友達の気持ちや自分の気持ちを出表できるように丁寧に関わっている。家庭との連携が大切である。</p> <p><input type="checkbox"/> 人口減少に伴う園児数の減少はいろいろな考えや行動を、周囲の友だちの中に見つける機会や範囲を狭めていくことにもなる。</p> <p><input type="checkbox"/> 少子化や核家族化、テレビ、DVD、ゲーム等による一人遊びの時間の増加に伴い、家庭や地域において異年齢の友達と関わって遊んだり集団で群れて遊んだりすることが少なくなり、人と関わる機会が減少している。</p>	<p><input type="checkbox"/> 友だちの良さというと、良い・悪い評価を要求しそうになる。</p> <p><input type="checkbox"/> クラスに配慮の必要な子どもが在籍する場合、その子の持てる力に合わせて保育を設定すると混乱が少ないと言われている。しかし、能力が高い子どもに対しては、試行錯誤する経験が少なくなる。1人担任には限界がある。</p> <p><input type="checkbox"/> グレーゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、共同の活動ではトラブルが多発する。そのため、共同の活動が成り立っている集団に対して担任が遊びを展開する関わりがほとんど出来ない。クラスに何%程度在籍しているのか。</p> <p><input type="checkbox"/> さまざまな体験をする機会が減ってきている。道徳性や規範意識は、友だちとの関わりを通して相手の気持ちがわかるようになることで少しずつ芽生えていくので、その機会を逃さないように配慮する。</p> <p><input type="checkbox"/> グレーゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、折り合いをつける体験には、保育者の高い技術が必要である。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ 内容

⑧ 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 保育士等との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮し、子どもが自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、子どもの行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。

② 一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていくようにすること。その際、集団の生活の中で、子どもが自己を発揮し、保育士等や他の子どもに認められる体験をし、自分のよさや特徴に気付き、自信をもって行動できるようにすること。

③ 子どもが互いに関わりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。

④ 道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、子どもが他の子どもとの関わりの中で他人の存在に気付き、相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにし、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。

⑤ 集団の生活を通して、子どもが人との関わりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、子どもが保育士等との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気付き、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。

➤ 内容⑧および内容の取扱い①②③④⑤と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
□クラスでの活動が行われていてもそこに興味や関心を示さず、自分のやりたいことに終始している子が際立つ傾向にある。	□子どもの興味や関心を把握して、用具や遊具、様々な素材や絵本などいつでも使えるように準備し、協同的な活動ができる環境構成

<p>□家庭や地域において人と関わる機会が減少している中、友達と関わって遊ぶ力に課題がある。一人遊びの中でしか自己を発揮できず、集団にうまく参加できなかつたり、友達とのかかわりに消極的な傾向にある。</p> <p>□密を防ぎつつ、友だちと一緒に遊びこめるように、間隔を広くとったコーナー配置を見直した。</p> <p>□家庭で様々な人と接する機会が少なく、相手の気持ちを受け入れたり、尊重したりする機会が少なくなっている。保育士が先導するのではなく、子ども自身が自分の気持ちを十分に伝えられるように援助している。</p> <p>□道徳性や規範意識などは家庭での関わりで違いが見られる。親によく見られたい、怒られたくないという気持ちから本当のことが言えない子どももいる。反面、自分の思いを伝えることができない子どももいるため、保育士が寄り添い、友達の気持ちや自分の気持ちを表出できるように丁寧に関わっている。家庭との連携が大切である。</p> <p>□人口減少に伴う園児数の減少はいろいろな考えや行動を、周囲の友だちの中に見つける機会や範囲を狭めていくことにもなる。</p> <p>□少子化や核家族化、テレビやDVD、ゲーム等による一人遊びの時間の増加に伴って家庭や地域において、異年齢の友達と関わって遊んだり集団で群れて遊んだりすることが少なくなり、人と関わる機会が減少している。</p>	<p>を工夫する。</p> <p>□クラスに配慮の必要な子どもが在籍する場合、その子の持てる力に合わせて保育を設定すると混乱が少ないと言われている。しかし、能力が高い子どもに対しては、試行錯誤する経験が少なくなる。1人担任には限界がある。</p> <p>□グレーゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、共同の活動ではトラブルが多発する。そのため、共同の活動が成り立っている集団に対して担任が遊びを展開する関わりがほとんど出来ない。クラスに何%程度在籍しているのか。</p> <p>□さまざまな体験をする機会が減ってきている。道徳性や規範意識は、友だちとの関わりを通して相手の気持ちがわかるようになることで少しずつ芽生えていくので、その機会を逃さないように配慮する。</p> <p>□グレーゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、折り合いをつける体験には、保育者の高い技術が必要である。</p>
--	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ 内容

⑨ よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 保育士等との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮し、子どもが自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力でやることの充実感を味わうことができるよう、子どもの行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。

② 一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていくようにすること。その際、集団の生活の中で、子どもが自己を発揮し、保育士等や他の子どもに認められる体験をし、自分のよさや特徴に気付き、自信をもって行動できるようにすること。

③ 子どもが互いに関わりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。

④ 道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、子どもが他の子どもとの関わりの中で他人の存在に気付き、相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにし、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。

⑤ 集団の生活を通して、子どもが人との関わりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、子どもが保育士等との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気付き、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。

➤ 内容⑨および内容の取扱い①②③④⑤と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
□規範意識や道徳性などは家庭の意識によっても違う。保育所では、丁寧にどうしたら良かったのかを、絵本なども活用して考える時	□クラスに配慮の必要な子どもが在籍する場合、その子の持てる力に合わせて保育を設定すると混乱が少ないと言われている。しか

<p>間を作っている。</p> <p>□保育士との信頼関係の状況によって声や意図が伝わりにくいことがある。</p> <p>□家庭や地域において人と関わる機会が減少している中、友達と関わって遊ぶ力に課題がある。一人遊びの中でしか自己を発揮できず、集団にうまく参加できなかつたり、友達とのかかわりに消極的な傾向にある。</p> <p>□密を防ぎつつ、友だちと一緒に遊びこめるように、間隔を広くとったコーナー配置を見直した。</p> <p>□家庭で様々な人と接する機会が少なく、相手の気持ちを受け入れたり、尊重したりする機会が少なくなっている。保育士が先導するのではなく、子ども自身が自分の気持ちを十分に伝えられるように援助している。</p> <p>□道徳性や規範意識などは家庭での関わりで違いが見られる。親によく見られたい、怒られたくないという気持ちから本当のことが言えない子どももいる。反面、自分の思いを伝えることができない子どももいるため、保育士が寄り添い、友達の気持ちや自分の気持ちを表出できるように丁寧に関わっている。家庭との連携が大切である。</p> <p>□人口減少に伴う園児数の減少はいろいろな考えや行動を、周囲の友だちの中に見つける機会や範囲を狭めていくことにもなる。</p> <p>□少子化や核家族化、テレビやDVD、ゲーム等による一人遊びの時間の増加に伴って家庭や地域において、異年齢の友達と関わって遊んだり集団で群れて遊んだりすることが少なくなり、人と関わる機会が減少している。</p>	<p>し、能力が高い子どもに対しては、試行錯誤する経験が少なくなる。1人担任には限界がある。</p> <p>□グレイゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、共同の活動ではトラブルが多発する。そのため、共同の活動が成り立っている集団に対して担任が遊びを展開する関わりがほとんど出来ない。クラスに何%程度在籍しているのか。</p> <p>□さまざまな体験をする機会が減ってきている。道徳性や規範意識は、友だちとの関わりを通して相手の気持ちがわかるようになることで少しずつ芽生えていくので、その機会を逃さないように配慮する。</p> <p>□昆虫も良い。</p> <p>□グレイゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、折り合いをつける体験には、保育者の高い技術が必要である。</p>
--	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ 内容

⑩ 友達との関わりを深め、思いやりをもつ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 保育士等との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮し、子どもが自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、子どもの行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。

② 一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていくようにすること。その際、集団の生活の中で、子どもが自己を発揮し、保育士等や他の子どもに認められる体験をし、自分のよさや特徴に気づき、自信をもって行動できるようにすること。

③ 子どもが互いに関わりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。

④ 道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、子どもが他の子どもとの関わりの中で他人の存在に気づき、相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにし、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。

⑤ 集団の生活を通して、子どもが人との関わりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、子どもが保育士等との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気づき、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。

➤ 内容⑩および内容の取扱い①②③④⑤と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
□ 家庭や地域において人と関わる機会が減少している中、友達と関わって遊ぶ力に課題がある。一人遊びの中でしか自己を発揮でき	□ 異年齢との交流では、密にならないように、また、過度な接触を控えるよう制限が必要で、親しみを持つ機会が減少。ジレンマを感

<p>ず、集団にうまく参加できなかったり、友達とのかわりに消極的な傾向にある。</p> <p><input type="checkbox"/> 密を防ぎつつ、友だちと一緒に遊びこめるように、間隔を広くとったコーナー配置を見直した。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭で様々な人と接する機会が少なく、相手の気持ちを受け入れたり、尊重したりする機会が少なくなっている。保育士が先導するのではなく、子ども自身が自分の気持ちを十分に伝えられるように援助している。</p> <p><input type="checkbox"/> 道徳性や規範意識などは家庭での関わりで違いが見られる。親によく見られたい、怒られたくないという気持ちから本当のことが言えない子どももいる。反面、自分の思いを伝えることができない子どももいるため、保育士が寄り添い、友達の気持ちや自分の気持ちを出せるように丁寧に関わっている。家庭との連携が大切である。</p> <p><input type="checkbox"/> 人口減少に伴う園児数の減少はいろいろな考えや行動を、周囲の友だちの中に見つける機会や範囲を狭めていくことにもなる。</p> <p><input type="checkbox"/> 少子化や核家族化、テレビやDVD、ゲーム等による一人遊びの時間の増加に伴って家庭や地域において、異年齢の友達と関わって遊んだり集団で群れて遊んだりすることが少なくなり、人と関わる機会が減少している。</p>	<p>じている。</p> <p><input type="checkbox"/> クラスに配慮の必要な子どもが在籍する場合、その子の持てる力に合わせて保育を設定すると混乱が少ないと言われている。しかし、能力が高い子どもに対しては、試行錯誤する経験が少なくなる。1人担任には限界がある。</p> <p><input type="checkbox"/> グレーゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、共同の活動ではトラブルが多発する。そのため、共同の活動が成り立っている集団に対して担任が遊びを展開する関わりがほとんど出来ない。クラスに何%程度在籍しているのか。</p> <p><input type="checkbox"/> さまざまな体験をする機会が減ってきている。道徳性や規範意識は、友だちとの関わりを通して相手の気持ちがわかるようになることで少しずつ芽生えていくので、その機会を逃さないように配慮する。</p> <p><input type="checkbox"/> 昆虫も良い。</p> <p><input type="checkbox"/> グレーゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、折り合いをつける体験には、保育者の高い技術が必要である。</p>
--	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ 内容

⑪ 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気づき、守ろうとする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 保育士等との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮し、子どもが自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、子どもの行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。

② 一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていくようにすること。その際、集団の生活の中で、子どもが自己を発揮し、保育士等や他の子どもに認められる体験をし、自分のよさや特徴に気づき、自信をもって行動できるようにすること。

③ 子どもが互いに関わりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。

④ 道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、子どもが他の子どもとの関わりの中で他人の存在に気づき、相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにし、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。

⑤ 集団の生活を通して、子どもが人との関わりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、子どもが保育士等との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気づき、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。

➤ 内容⑪および内容の取扱い①②③④⑤と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
□遊びのルールは分かっているが現実となると受け入れがたく、泣いて不満をぶつける。 □家庭や地域において人と関わる機会が減少	□クラスに配慮の必要な子どもが在籍する場合、その子の持てる力に合わせて保育を設定すると混乱が少ないと言われている。しか

<p>している中、友達と関わって遊ぶ力に課題がある。一人遊びの中でしか自己を発揮できず、集団にうまく参加できなかつたり、友達とのかかわりに消極的な傾向にある。</p> <p>□子どもとの関わり方が分からない保護者もいるため、自己肯定感が低い子どももいる。子どもの頑張っている姿や取り組みの様子などを具体的に褒めることで、自己肯定感を高めていく。</p> <p>□密を防ぎつつ、友だちと一緒に遊びこめるように、間隔を広くとったコーナー配置を見直した。</p>	<p>し、能力が高い子どもに対しては、試行錯誤する経験が少なくなる。1人担任には限界がある。</p> <p>□グレーゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、共同の活動ではトラブルが多発する。そのため、共同の活動が成り立っている集団に対して担任が遊びを展開する関わりがほとんど出来ない。クラスに何%程度在籍しているのか。</p>
--	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ 内容

⑫ 共同の遊具や用具を大切にし、皆で使う。

↳ 関連する「内容の取扱い」

⑤ 集団の生活を通して、子どもが人との関わりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、子どもが保育士等との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気付き、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。

➤ 内容⑫および内容の取扱い⑤と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□公園にブランコや登り棒など昔は公園にあったものが撤去されている所が多い。</p> <p>□人口減少に伴う園児数の減少はいろいろな考えや行動を、周囲の友だちの中に見つける機会や範囲を狭めていくことにもなる。</p> <p>□少子化や核家族化、テレビやDVD、ゲーム等による一人遊びの時間の増加に伴って家庭や地域において、異年齢の友達と関わって遊</p>	<p>□共用の遊具や用具は消毒をして衛生面に留意している。</p> <p>□グレーゾーンや、発達配慮が必要な園児には難しく、折り合いをつける体験には、保育者の高い技術が必要である。</p>

<p>んだり集団で群れて遊んだりすることが少なくなり、人と関わる機会が減少している。</p>	
--	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ 内容

⑬ 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

⑥ 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人と触れ合い、自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ、共感し合う体験を通して、これらの人々などに親しみをもち、人と関わることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること。また、生活を通して親や祖父母などの家族の愛情に気づき、家族を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。

➤ 内容⑬および内容の取扱い⑥と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 核家族化で高齢者と触れ合う機会が減っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 身近に高齢者がいないことにより、かわり方がわからない。</p> <p><input type="checkbox"/> 核家族化の家庭で祖父母と接触する機会が少ない。</p> <p><input type="checkbox"/> 子ども自らが、家族の一員であるという意識がもてるような取り組みを家庭に向けて発信している。</p>	<p><input type="checkbox"/> 地域の高齢者施設との交流ができていない。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の高齢者などと触れ合う機会がなくなっているが、視覚的支援や作品展示などで間接的に関わりが持てるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/> 高齢者施設での交流はお互いに手を取り合ったり、触れ合って遊ぶなど、核家族化の進んだ現代では貴重な体験となっていた。また、高齢者にとっても子どもたちとの触れ合いは喜びでもあった。その機会が失われてしまっていて久しい。手紙のやり取りなど、できる範囲での交流にとどめている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の高齢者や小・中学生、ボランティアや体験学習など多世代交流の場が減った。また異年齢クラスの交流も自粛している。</p> <p><input type="checkbox"/> 高齢者を、園に招待することがなくなったので、なかなか厳しい。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

イ. 人との関わりに関する領域「人間関係」

○ A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素 (制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)

- ・ 家庭の教育力の向上のための支援やそれを行うための連携体制の構築など
- ・ 様々な行事など動画で配信したり、各学年入れ替えての運動会などその時に応じた活動を行うよう工夫し保育園での様子を保護者に伝える工夫をする。
- ・ 接触することが難しいので、手紙のやりとりや製作物の展示し高齢者と触れ合う機会を作る。散歩なども積極的に出かけ地域の人と挨拶したり関わりをもつ。
- ・ 家庭で出来ない集団での達成感のある遊びなど十分に体を使い楽しめるように工夫していく。
- ・ 集団生活においてルールがある事を伝えていく。
- ・ 発達の日安や、支援についての専門性の向上は必須
- ・ 子ども理解を深める。担当園児数を減らす。当園は、4、5歳合同で園児13名。それでも、特に集団行動を求めるときに、強制的な関わりが見られる。



○ 今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点

i	<p>社会の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不審者や交通事情により外出が制限される。 ・ ちゃんとした大人ばかりではない世の中。安全な大人と危険な大人を教育しなければならないのか。 ・ 望ましい習慣について、社会の多様化により、保育においても個人差が大きくなる。具体的な姿を提示する必要があるのでは。 ・ これまで地域の催し物は大人中心の活動が多かった。こども中心にシフトする時代。保育者が発信する必要がある。 ・ 身近な動植物とあるが、動物は衛生管理や環境により一般的ではない。動物を飼育した場合の休日や年末年始などの対応はどうするのか？
ii	<p>これからの時代(society5.0)を生きる子どもにとっての”人との関わり”とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期の「メディアの関わり方」、「人間関係」との関連について、具体的な指針が必要なのでは。
iii	<p>人口減少地域での保育の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育施設の統合や閉鎖の判断基準となるであろう、単式クラスの最小サイズの提示。それらに伴い、最低基準でのクラス運営と小規模のクラス運営など幅を持たせて保育の内容を示す必要があるのでは。 ・ 複式クラスでの各保育内容についての配慮事項の明記が必要となるのではないかと。複式クラスによる活動の制限がある場合、保育の内容が十分に整えられないことが懸念されるため。 ・ 設置場所によるが、特に人口減少地域は、地域が広範囲であることが多い。公共交通機関も整っていないため、活動の確保には自治体の理解と協力が必要である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によっては、保育園→小学校→中学校と計 15 年間人間関係が変わらないので、人間関係が固定化されてしまう。その配慮が必要である。
iv	配置基準の改定
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会に子どもが集う機会が失われている。これまで地域が担ってきた子ども同士の関わりの体験を保育所が担うことになる。保育者が年上や年下の子の役を務め人との関わりの学びを補填したり、遊びを継承するための役割を担うなど役割が多様化している。
v	面積基準の改定
	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する子どもは、協同遊びの場面でのトラブルが多いため、個人の空間の確保が必要となるが、現在の面積基準では確保できない。
vi	コロナ禍の保育を振り返って
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々との関わりに制限がある場合、間接的につながりを継続したい。ICT の活用などの工夫。

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

○ ねらい

- ① 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。
- ② 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。
- ③ 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。

○ 内容

- ① 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 子どもが、遊びの中で周囲の環境と関わり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。また、他の子どもの考えなどに触れて新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自分の考えをよりよいものにしようとする気持ちが育つようにすること。

② 幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、子どもの心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、子どもが自然との関わりを深めることができるよう工夫すること。

③ 身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分から関わろうとする意欲を育てるとともに、様々な関わり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にしたい気持ち、公共心、探究心などが養われるようにすること。

➤ 内容①および内容の取扱い①②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 共働きの家庭が多く家庭よりも保育園で過ごす時間が多く保育園等で経験することが多くなってきた。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭では子どもと近隣を散歩するという機会があまりないようである。保育で出かけた散歩先を情報として提供していくことを意図的に行う必要がある。</p>	<p><input type="checkbox"/> 子どもたちが興味を持ったものや活動に応じて、絵本や素材、用具や遊具を提供できるように準備をしている。使ったあとは手洗いをする。共有の物は消毒をするなど衛生面に配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 風の冷たさや鳥の声、木々の変化などに子どもが気づいたり、感じたりできるように園庭や広場の整備をしている。また、自然に関す</p>

<p>□異常な暑さの為、戸外でじっくり自然に触れて遊ぶことが困難。</p> <p>□当園の地域は自然豊かだが、オフィス街の園では厳しいのでは？</p> <p>□保育士が身近な自然物を準備し、触れる機会を作っている。</p> <p>□動物に関しては、アレルギー児もおり、なかなか難しい。ただ、給食の際に、命を頂くという観点から、保育士が話をしている。</p>	<p>る絵本や図鑑など準備をしている。</p> <p>□散歩に行かなくても園内にある自然豊かな広場で、子どもが草花を見つけたり、虫を探したりできるように広場を整備している。感染防止対策を講じてプラネタリウム鑑賞など行い、体験を学びに繋げている。</p> <p>□移動動物園や、園外保育に行けないままである。</p> <p>□死をまだ具体的に理解していないからだと思うが、子どもは時に残酷に加減なく命あるもので遊ぶ。昆虫採集など子どもの世界に大人が入らない方がよい時もあるような気がする。</p>
--	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

○ 内容

② 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 子どもが、遊びの中で周囲の環境と関わり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。また、他の子どもの考えなどに触れて新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自分の考えをよりよいものにしようとする気持ちが育つようにすること。

② 幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、子どもの心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、子どもが自然との関わりを深めることができるよう工夫すること。

③ 身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分から関わろうとする意欲を育てるとともに、様々な関わり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にしたい気持ち、公共心、探究心などが養われるようにすること。

➤ 内容②および内容の取扱い①②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> SNS などの普及もあり、様々な情報を知る機会が多くなった反面、現実の物よりも映像の中の物に興味を持つようになってきた。</p> <p><input type="checkbox"/> 異常な暑さの為、戸外でじっくり自然に触れて遊ぶことが困難。</p> <p><input type="checkbox"/> 当園の地域は自然豊かだが、オフィス街の園では厳しいのでは？</p> <p><input type="checkbox"/> 保育士が身近な自然物を準備し、触れる機会を作っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 動物に関しては、アレルギー児もおり、なかなか難しい。ただ、給食の際に、命を頂くという観点から、保育士が話をしている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 子どもたちが興味を持ったものや活動に応じて、絵本や素材、用具や遊具を提供できるように準備をしている。使ったあとは手洗いをする。共有の物は消毒をするなど衛生面に配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 風の冷たさや鳥の声、木々の変化などに子どもが気づいたり、感じたりできるように園庭や広場の整備をしている。また、自然に関する絵本や図鑑など準備をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 散歩に行かなくても園内にある自然豊かな広場で、子どもが草花を見つけたり、虫を探したりできるように広場を整備している。感染防止対策を講じてプラネタリウム鑑賞など行い、体験を学びに繋げている。</p> <p><input type="checkbox"/> 移動動物園や、園外保育に行けないままである。</p> <p><input type="checkbox"/> 死をまだ具体的に理解していないからだと思うが、子どもは時に残酷に加減なく命あるもので遊ぶ。昆虫採集など子どもの世界に大人が入らない方が良い時もあるような気がする。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

○ 内容

③ 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 子どもが、遊びの中で周囲の環境と関わり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。また、他の子どもの考えなどに触れて新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自分の考えをよりよいものにしようとする気持ちが育つようにすること。

② 幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、子どもの心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、子どもが自然との関わりを深めることができるよう工夫すること。

③ 身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分から関わろうとする意欲を育てるとともに、様々な関わり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にする気持ち、公共心、探究心などが養われるようにすること。

➤ 内容③および内容の取扱い①②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 温暖化により、氷が張りにくくなった。反面、夏の暑い日には外での活動を見合わせている。プール活動ですら、日陰の確保が必要。</p> <p><input type="checkbox"/> 異常な暑さの為、戸外でじっくり自然に触れて遊ぶことが困難。</p> <p><input type="checkbox"/> 当園の地域は自然豊かだが、オフィス街の園では厳しいのでは？</p> <p><input type="checkbox"/> 保育士が身近な自然物を準備し、触れる機会を作っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 動物に関しては、アレルギー児もおり、なかなか難しい。ただ、給食の際に、命を頂くという観点から、保育士が話をしている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 子どもたちが興味を持ったものや活動に応じて、絵本や素材、用具や遊具を提供できるように準備をしている。使ったあとは手洗いをする。共有の物は消毒をするなど衛生面に配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 風の冷たさや鳥の声、木々の変化などに子どもが気づいたり、感じたりできるように園庭や広場の整備をしている。また、自然に関する絵本や図鑑など準備をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 散歩に行かなくても園内にある自然豊かな広場で、子どもが草花を見つけたり、虫を探したりできるように広場を整備している。感染防止対策を講じてプラネタリウム鑑賞など行い、体験を学びに繋げている。</p>

	<input type="checkbox"/> 移動動物園や、園外保育に行けないままである。 <input type="checkbox"/> 死をまだ具体的に理解していないからだと思うが、子どもは時に残酷に加減なく命あるもので遊ぶ。昆虫採集など子どもの世界に大人が入らない方が良い時もあるような気がする。
--	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

○ 内容

④ 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 子どもが、遊びの中で周囲の環境と関わり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。また、他の子どもの考えなどに触れて新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自分の考えをよりよいものにしようとする気持ちが育つようにすること。

② 幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、子どもの心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、子どもが自然との関わりを深めることができるよう工夫すること。

③ 身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分から関わろうとする意欲を育てるとともに、様々な関わり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にしたい気持ち、公共心、探究心などが養われるようにすること。

➤ 内容④および内容の取扱い①②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
□ 田んぼの減少により虫なども少なくなり、実物と触れ合える機会が少なくなっている。	□ 子どもたちが興味を持ったものや活動に応じて、絵本や素材、用具や遊具を提供できるように準備をしている。使ったあとは手洗いをする。共有の物は消毒をするなど衛生面に

<p>□異常な暑さの為、戸外でじっくり自然に触れて遊ぶことが困難。</p> <p>□当園の地域は自然豊かだが、オフィス街の園では厳しいのではないか。</p> <p>□保育士が身近な自然物を準備し、触れる機会を作っている。</p> <p>□動物に関しては、アレルギー児もおり、なかなか難しい。ただ、給食の際に、命を頂くという観点から、保育士が話をしている。</p>	<p>配慮している。</p> <p>□風の冷たさや鳥の声、木々の変化などに子どもが気づいたり、感じたりできるように園庭や広場の整備をしている。また、自然に関する絵本や図鑑など準備をしている。</p> <p>□散歩に行かなくても園内にある自然豊かな広場で、子どもが草花を見つけたり、虫を探したりできるように広場を整備している。感染防止対策を講じてプラネタリウム鑑賞など行い、体験を学びに繋げている。</p> <p>□移動動物園や、園外保育に行けないままである。</p> <p>□死をまだ具体的に理解していないからだと思うが、子どもは時に残酷に加減なく命あるもので遊ぶ。昆虫採集など子どもの世界に大人が入らない方が良い時もあるような気がする。</p>
---	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

○ 内容

- ⑤ 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 子どもが、遊びの中で周囲の環境と関わり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心を持ち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。また、他の子どもの考えなどに触れて新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自分の考えをよりよいものにしようとする気持ちが育つようにすること。

② 幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、子どもの心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、子どもが自然との関わりを深めることができるよう工夫すること。

- ③ 身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分から関わろうとする意欲を育てるとともに、様々な関わり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にしたい気持ち、公共心、探究心などが養われるようにすること。

➤ 内容⑤および内容の取扱い①②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 動物を飼うことはアレルギーもあり難しい面がある。園で飼うとなると休みの日の世話など負担になる</p> <p><input type="checkbox"/> 異常な暑さの為、戸外でじっくり自然に触れて遊ぶことが困難。</p> <p><input type="checkbox"/> 当園の地域は自然豊かだが、オフィス街の園では厳しいのでは？</p> <p><input type="checkbox"/> 保育士が身近な自然物を準備し、触れる機会を作っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 動物に関しては、アレルギー児もおり、なかなか難しい。ただ、給食の際に、命を頂くという観点から、保育士が話をしている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 虫かごや観察キッドを準備していつでも観察ができるようにしている。使用後は洗ったり、消毒をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 動物は難しい。昆虫は良い。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもたちが興味を持ったものや活動に応じて、絵本や素材、用具や遊具を提供できるように準備をしている。使ったあとは手洗いをする。共有の物は消毒をするなど衛生面に配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 風の冷たさや鳥の声、木々の変化などに子どもが気づいたり、感じたりできるように園庭や広場の整備をしている。また、自然に関する絵本や図鑑など準備をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 散歩に行かなくても園内にある自然豊かな広場で、子どもが草花を見つけたり、虫を探したりできるように広場を整備している。感染防止対策を講じてプラネタリウム鑑賞など行い、体験を学びに繋げている。</p> <p><input type="checkbox"/> 移動動物園や、園外保育に行けないままである。</p> <p><input type="checkbox"/> 死をまだ具体的に理解していないからだと思うが、子どもは時に残酷に加減なく命あるもので遊ぶ。昆虫採集など子どもの世界に大人が入らない方がよい時もあるような気がする。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

○ 内容

⑥ 日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

④ 文化や伝統に親しむ際には、正月や節句など我が国の伝統的な行事、国歌、唱歌、わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しんだり、異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて、社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにすること。

➤ 内容⑥および内容の取扱い④と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 日本の伝統行事や祝い事を行う家庭が減っているため、伝統文化などに興味がある子どもが少なく、知らない子どももいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 我が国という言葉に若干違和感</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭において伝統的な行事を大切にする姿が減ってきた。また、伝承遊びを経験する機会も少ないため、保育所の役割が大きい。様々な国への関心も持てるよう、保育の中で工夫している。</p>	<p><input type="checkbox"/> コロナで地域の活動も止まり、地域社会と関わる機会が減ったが、写真などを見て経験したことなど伝えあう機会を設けている。</p> <p><input type="checkbox"/> 年中行事をコロナ以前は全年齢が集まって実施していたが、密を防ぐ為それぞれのクラスで実施。</p> <p><input type="checkbox"/> 保育所内で季節を感じられるように自然物を飾ったり、季節や行事の絵本を読み聞かせたりして関心が持てるようにしている。また、世界の食文化や食品についての図鑑や絵本を準備したり、保育士と楽しく考えたりする機会をもっている。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

○ 内容

⑦ 身近な物を大切にすること。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 子どもが、遊びの中で周囲の環境と関わり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。また、他の子どもの考えなどに触れて新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自分の考えをよりよいものにしようとする気持ちが育つようにすること。

② 幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、子どもの心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、子どもが自然との関わりを深めることができるよう工夫すること。

③ 身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分から関わろうとする意欲を育てるとともに、様々な関わり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にしたい気持ち、公共心、探究心などが養われるようにすること。

➤ 内容⑦および内容の取扱い①②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/>壊れたら買えば良いという考えにより、大切にしたい気持ちが薄れている。</p> <p><input type="checkbox"/>異常な暑さの為、戸外でじっくり自然に触れて遊ぶことが困難。</p> <p><input type="checkbox"/>当園の地域は自然豊かだが、オフィス街の園では厳しいのでは？</p> <p><input type="checkbox"/>保育士が身近な自然物を準備し、触れる機会を作っている。</p> <p><input type="checkbox"/>動物に関しては、アレルギー児もおり、なかなか難しい。ただ、給食の際に、命を頂くという観点から、保育士が話をしている。</p>	<p><input type="checkbox"/>消毒が出来る玩具・手作り玩具の見直しを行い、こまめに消毒している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもたちが興味を持ったものや活動に応じて、絵本や素材、用具や遊具を提供できるように準備をしている。使ったあとは手洗いをし、共有の物は消毒をするなど衛生面に配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/>風の冷たさや鳥の声、木々の変化などに子どもが気づいたり、感じたりできるように園庭や広場の整備をしている。また、自然に関する絵本や図鑑など準備をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>散歩に行かなくても園内にある自然豊かな広場で、子どもが草花を見つけたり、虫を探したりできるように広場を整備している。感</p>

	<p>染防止対策を講じてプラネタリウム鑑賞など行い、体験を学びに繋げている。</p> <p>□移動動物園や、園外保育に行けないままである。</p> <p>□死をまだ具体的に理解していないからだと思うが、子どもは時に残酷に加減なく命あるもので遊ぶ。昆虫採集など子どもの世界に大人が入らない方が良い時もあるような気がする。</p>
--	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

○ 内容

⑧ 身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 子どもが、遊びの中で周囲の環境と関わり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。また、他の子どもの考えなどに触れて新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自分の考えをよりよいものにしようとする気持ちが育つようにすること。
- ② 幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、子どもの心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、子どもが自然との関わりを深めることができるよう工夫すること。
- ③ 身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分から関わろうとする意欲を育てるとともに、様々な関わり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にしたい気持ち、公共心、探究心などが養われるようにすること。

➤ 内容⑧および内容の取扱い①②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□与えられる遊びが増え、自ら考えて遊ぶ機会が減っている。</p> <p>□異常な暑さの為、戸外でじっくり自然に触れて遊ぶことが困難。</p> <p>□当園の地域は自然豊かだが、オフィス街の園では厳しいのでは？</p> <p>□保育士が身近な自然物を準備し、触れる機会を作っている。</p> <p>□動物に関しては、アレルギー児もおり、なかなか難しい。ただ、給食の際に、命を頂くという観点から、保育士が話をしている。</p>	<p>□子どもたちが興味を持ったものや活動に応じて、絵本や素材、用具や遊具を提供できるように準備をしている。使ったあとは手洗いをする。共有の物は消毒をするなど衛生面に配慮している。</p> <p>□風の冷たさや鳥の声、木々の変化などに子どもが気づいたり、感じたりできるように園庭や広場の整備をしている。また、自然に関する絵本や図鑑など準備をしている。</p> <p>□散歩に行かなくても園内にある自然豊かな広場で、子どもが草花を見つけたり、虫を探したりできるように広場を整備している。感染防止対策を講じてプラネタリウム鑑賞など行い、体験を学びに繋げている。</p> <p>□移動動物園や、園外保育に行けないままである。</p> <p>□死をまだ具体的に理解していないからだと思うが、子どもは時に残酷に加減なく命あるもので遊ぶ。昆虫採集など子どもの世界に大人が入らない方がよい時もあるような気がする。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

○ 内容

⑨ 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

⑤ 数量や文字などに関しては、日常生活の中で子ども自身の必要感に基づく体験を大切に、数量や文字などに関する興味や関心、感覚が養われるようにすること。

➤ 内容⑨および内容の取扱い⑤と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□公文など習い事に行く子どもも増えてきた。</p> <p>□玩具に数量や図形の力を育てるものが多い。提供する保育士の側にその意味が分かっていることが必要</p> <p>□年長児が、興味を持つくらい。就学に向けて平仮名や数字に触れる機会があるから</p> <p>□保護者が望む学習という点からは、温度差がある。それを、どう説明するか。</p>	

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

○ 内容

⑩ 日常生活の中で簡単な標識や文字などに興味をもつ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

⑤ 数量や文字などに関しては、日常生活の中で子ども自身の必要感に基づく体験を大切に、数量や文字などに関する興味や関心、感覚が養われるようにすること。

➤ 内容⑨および内容の取扱い⑤と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□保護者が望む学習という点からは、温度差がある。それを、どう説明するか。</p>	<p>□コロナ禍で園外活動に制限があり、実際に近隣の生活などを見る機会がなくなっている。絵本や視覚的教材等を用いて興味関心を引き出している。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

○ 内容

⑪ 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 子どもが、遊びの中で周囲の環境と関わり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心を持ち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。また、他の子どもの考えなどに触れて新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自分の考えをよりよいものにしようとする気持ちが育つようにすること。

② 幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、子どもの心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、子どもが自然との関わりを深めることができるよう工夫すること。

③ 身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分から関わろうとする意欲を育てるとともに、様々な関わり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にしたい気持ち、公共心、探究心などが養われるようにすること。

➤ 内容⑪および内容の取扱い①②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 異常な暑さの為、戸外でじっくり自然に触れて遊ぶことが困難。</p> <p><input type="checkbox"/> 当園の地域は自然豊かだが、オフィス街の園では厳しいのではないかな。</p> <p><input type="checkbox"/> 保育士が身近な自然物を準備し、触れる機会を作っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 動物に関しては、アレルギー児もおり、なかなか難しい。ただ、給食の際に、命を頂くという観点から、保育士が話をしている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 就学前に経験したい小学生との交流ができなくなった。</p> <p><input type="checkbox"/> 園外保育が制限され、自然に関わったり標識などを目にしたたり公共施設を利用したりする機会が減っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもたちが興味を持ったものや活動に応じて、絵本や素材、用具や遊具を提供できるように準備をしている。使ったあとは手洗いをする。共有の物は消毒をするなど衛生面に配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 風の冷たさや鳥の声、木々の変化などに子どもが気づいたり、感じたりできるように園庭や広場の整備をしている。また、自然に関する絵本や図鑑など準備をしている。</p>

	<input type="checkbox"/> 散歩に行かなくても園内にある自然豊かな広場で、子どもが草花を見つけたり、虫を探したりできるように広場を整備している。感染防止対策を講じてプラネタリウム鑑賞など行い、体験を学びに繋げている。 <input type="checkbox"/> 移動動物園や、園外保育に行けないままである。
--	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

○ 内容

⑫ 保育所内外の行事において国旗に親しむ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

④ 文化や伝統に親しむ際には、正月や節句など我が国の伝統的な行事、国歌、唱歌、わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しんだり、異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて、社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにすること。

➤ 内容⑫および内容の取扱い④と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<input type="checkbox"/> 国旗？旗？国に興味関心でいいのでは。 <input type="checkbox"/> 国旗？運動会にしかでないため、恐らくわかってないと思う。 <input type="checkbox"/> 家庭において伝統的な行事を大切にする姿が減ってきた。また、伝承遊びを経験する機会も少ないため、保育所の役割が大きい。様々な国への関心も持てるよう、保育の中で工夫している。	<input type="checkbox"/> 施設は、コロナ禍で出かけることが減って、またバス遠足もないので、興味関心をどの程度持っているか。 <input type="checkbox"/> 年中行事をコロナ以前は全年齢が集まって実施していたが、密を防ぐ為それぞれのクラスで実施。 <input type="checkbox"/> 保育所内で季節を感じられるように自然物を飾ったり、季節や行事の絵本を読み聞かせたりして関心が持てるようにしている。また、世界の食文化や食品についての図鑑や絵本を準備したり、保育士と楽しく考えたりする機会をもっている。

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

ウ. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

- A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素
(制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)

- ・療育機関の相談窓口の増加。
- ・保育士の資質の向上のための研修や研修を受けるための体制を構築する。
- ・千葉県では、知事も森の保育(自然の保育)に興味関心があり、県立の施設の利用の促進を促している。
- ・学習ではなく、興味関心を待たせる、意欲を引き出すということを、どう保護者に説明するか。学校教育ではないということの周知。
- ・文字などに関心を持つとあるが、かけはし期の動画やその他公開保育など、文字を書けるようになっていたり、文字で指示を出している姿がある。
- ・国旗とは日本の旗だけではないとのことだが、地域に旗はない。園バスがあることが前提となっているのだろうか？



- 今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点

i	架け橋プログラム <ul style="list-style-type: none">・架け橋プログラムを意識し、小学校教育の先取りを進めようとする園がある。これから進められるであろうが、正しい理解が必要。小学校側には「10の姿」を示すことで就学前の子どもの姿の理解の深化を図ってきたが、保育者側へは小学生(低学年、高学年)の姿を知ることで見通しを持つことができるのでは。・数量や文字の学びのとらえ方が様々である。架け橋プログラムの映像では、すでに習得して使いこなしている子どもの姿がある。
ii	社会の変化 <ul style="list-style-type: none">・地域の空き地で遊んでいた時代は、虫の扱いも乱暴であり、簡単に命を失う機会があり、大人の視点では残酷なことも子ども時間に多く存在した。現代は、できる限り長く命が保てるように関わることを教えている。これからますます経験をしない学びが多くなると思われるが、育ちにその影響があるのか。・男の子節句、女の子節句、母の日、父の日、豆まき(鬼の登場)など、ジェンダーフリーや家族の形、恐怖による抑圧など、伝統が時代に合わなくなっているものも多い。・伝統行事など、人生の中で、主に保育所時代でしか経験しないものもある。小学校や中学校に引き続いて関わらなければ、アイデンティティは育まれない。
iii	国旗に親しむ <ul style="list-style-type: none">・国旗の定義があいまいである。

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

○ ねらい

- ① 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
- ② 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。
- ③ 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。

○ 内容

- ① 保育士等や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり、話したりする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、子どもが保育士等や他の子どもと関わることにより心を動かされるような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。

② 子どもが自分の思いを言葉で伝えるとともに、保育士等や他の子どもなどの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること。

③ 絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。

④ 子どもが生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際、絵本や物語に親しんだり、言葉遊びなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること。

➤ 内容①および内容の取扱い①②③④と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□ 集団生活の中ではいろいろな声や話が飛び交っている。しかし、そのことが苦痛となり、保育室にいられないという子も増えてきている。</p> <p>□ テレビやビデオ、スマートホンなどが普及して、子どもがメディアと接触する時間が増えているため、遊びや体験を通して自分の気持ちを伝えるための言葉を獲得する機会が減</p>	<p>□ マスク着用で表情が見えにくく、言葉と思いがつなげて理解できているのか。保育士も子どもの話に耳を傾けているが今までより理解に時間がかかる。</p> <p>□ ゆっくり はっきりと話すことを常に心がけ、子どもの話しにも耳を傾けている。</p> <p>□ 子どもが気付いたことを表現したり、イメージをもって再現遊びができるような環境を</p>

<p>っている。保育士等は友達と様々な体験ができるような保育を立案し、仲立ちとなる。</p> <p>□家庭で話を聞いてもらえない子どもは、保育所で自分の思いばかりを話し、人の話を最後まで聞けないことが多い。まずは、思いをしっかりと受容することが必要である。</p> <p>□全体に語り掛けても素通りしている様子が見て取れる。別の場で直接、語り掛け、理解を確認していくという別のかかわりが必要になる。</p>	<p>整える。また、イメージが広がるような環境を子どもと共に作っていく。</p>
---	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

○ 内容

② したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、子どもが保育士等や他の子どもと関わることにより心を動かされるような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。

② 子どもが自分の思いを言葉で伝えるとともに、保育士等や他の子どもなどの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること。

③ 絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。

④ 子どもが生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際、絵本や物語に親しんだり、言葉遊びなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること。

➤ 内容②および内容の取扱い①②③④と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□保護者の携帯電話やタブレットで You Tubeなどを観て過ごす子どもが増えており、聞いた言葉を深く理解せずに使うことが増えている。</p> <p>□経験が少ないため、行動すること自体を戸惑う子どもが増えて表現力が低下してきている。</p> <p>□テレビやビデオ、スマートホンなどが普及して、子どもがメディアと接触する時間が増えているため、遊びや体験を通して自分の気持ちを伝えるための言葉を獲得する機会が減っている。保育士等は友達と様々な体験ができるような保育を立案し、仲立ちとなる。</p> <p>□家庭で話を聞いてもらえない子どもは、保育所で自分の思いばかりを話し、人の話を最後まで聞けないことが多い。まずは、思いをしっかりと受容することが必要である。</p> <p>□全体に語り掛けても素通りしている様子が見て取れる。別の場で直接、語り掛け、理解を確認していくという別のかかわりが必要になる。</p>	<p>□ゆっくり はっきりと話すことを常に心がけ、子どもの話しにも耳を傾けている。</p> <p>□子どもが気付いたことを表現したり、イメージをもって再現遊びができるような環境を整える。また、イメージが広がるような環境を子どもと共に作っていく。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

○ 内容

③ したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、子どもが保育士等や他の子どもと関わることにより心を動かされるような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。

- ② 子どもが自分の思いを言葉で伝えるとともに、保育士等や他の子どもなどの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること。

➤ 内容③および内容の取扱い①②と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> ゲーム、スマホ等の電子機器が普及し、家族の会話が減っているため、自分の感情や意思を言葉で伝えることが難しい子どももいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 自分のことに注目してほしいと大人の会話に躊躇なく、入り込んでくる。</p> <p><input type="checkbox"/> テレビやビデオ、スマートホンなどが普及して、子どもがメディアと接触する時間が増えているため、遊びや体験を通して自分の気持ちを伝えるための言葉を獲得する機会が減っている。保育士等は友達と様々な体験ができるような保育を立案し、仲立ちとなる。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭で話を聞いてもらえない子どもは、保育所で自分の思いばかりを話し、人の話を最後まで聞けないことが多い。まずは、思いをしっかりと受容することが必要である。</p>	<p><input type="checkbox"/> 豊かなイメージは難しいのでは。イメージがより豊かになるのか。</p> <p><input type="checkbox"/> ゆっくり はっきりと話すことを常に心がけ、子どもの話しにも耳を傾けている。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

○ 内容

- ④ 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、子どもが保育士等や他の子どもと関わることにより心を動かされるような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。

- ② 子どもが自分の思いを言葉で伝えるとともに、保育士等や他の子どもなどの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること。

➤ 内容④および内容の取扱い①②と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 地域との関わりが減り、様々な人との会話が減っている為、相手に合わせて話す事が難しくなっている。</p> <p><input type="checkbox"/> テレビやビデオ、スマートホンなどが普及して、子どもがメディアと接触する時間が増えているため、遊びや体験を通して自分の気持ちを伝えるための言葉を獲得する機会が減っている。保育士等は友達と様々な体験ができるような保育を立案し、仲立ちとなる。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭で話を聞いてもらえない子どもは、保育所で自分の思いばかりを話し、人の話を最後まで聞けないことが多い。まずは、思いをしっかりと受容することが必要である。</p>	<p><input type="checkbox"/> ゆっくり はっきりと話すことを常に心がけ、子どもの話しにも耳を傾けている。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

○ 内容

- ⑤ 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、子どもが保育士等や他の子どもと関わることにより心を動かされるような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。

- ② 子どもが自分の思いを言葉で伝えるとともに、保育士等や他の子どもなどの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること。

- ③ 絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。

➤ 内容⑤および内容の取扱い①②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□言葉の使い方が変化している中で、生活の場面で必要な言葉を保育士が意識的に使うことが必要となる。保育士の語彙力の向上が必要。</p> <p>□テレビやビデオ、スマートフォンなどが普及して、子どもがメディアと接触する時間が増えているため、遊びや体験を通して自分の気持ちを伝えるための言葉を獲得する機会が減っている。保育士等は友達と様々な体験ができるような保育を立案し、仲立ちとなる。</p>	<p>□ゆっくり はっきりと話すことを常に心がけ、子どもの話しにも耳を傾けている。</p> <p>□子どもが気付いたことを表現したり、イメージをもって再現遊びができるような環境を整える。また、イメージが広がるような環境を子どもと共に作っていく。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

○ 内容

- ⑥ 親しみをもって日常の挨拶をする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、子どもが保育士等や他の子どもと関わることにより心を動かされるような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。

➤ 内容⑥および内容の取扱い①と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□地域とのつながりが薄いためか、誰にでも挨拶をする姿が以前より見られなくなった。</p> <p>□保護者の側に自らが挨拶をせず、相手がして</p>	<p>□ゆっくり はっきりと話すことを常に心がけ、子どもの話しにも耳を傾けている。</p>

<p>こないことを非難するという状況が見られる。</p> <p>□テレビやビデオ、スマートホンなどが普及して、子どもがメディアと接触する時間が増えているため、遊びや体験を通して自分の気持ちを伝えるための言葉を獲得する機会が減っている。保育士等は友達と様々な体験ができるような保育を立案し、仲立ちとなる。</p>	
---	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

○ 内容

⑦ 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、子どもが保育士等や他の子どもと関わることにより心を動かされるような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。

② 子どもが自分の思いを言葉で伝えるとともに、保育士等や他の子どもなどの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること。

③ 絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。

④ 子どもが生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際、絵本や物語に親しんだり、言葉遊びなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること。

➤ 内容⑦および内容の取扱い①②③④と照らした現状の整理

<p>A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等</p>	<p>B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等</p>
<p>□メディアの時間が増え、言葉が流れていっているように感じる。</p>	<p>□マスクごしでの会話の為、細かなニュアンスなど聞き取りにくい事がある。</p>

<p>□テレビやビデオ、スマートフォンなどが普及して、子どもがメディアと接触する時間が増えているため、遊びや体験を通して自分の気持ちを伝えるための言葉を獲得する機会が減っている。保育士等は友達と様々な体験ができるような保育を立案し、仲立ちとなる。</p> <p>□全体に語り掛けても素通りしている様子が見て取れる。別の場で直接、語り掛け、理解を確認していくという別のかかわりが必要になる。</p>	<p>□ゆっくり はっきりと話すことを常に心がけ、子どもの話しにも耳を傾けている。</p> <p>□子どもが気付いたことを表現したり、イメージをもって再現遊びができるような環境を整える。また、イメージが広がるような環境を子どもと共に作っていく。</p>
--	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

○ 内容

⑧ いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、子どもが保育士等や他の子どもと関わることにより心を動かされるような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。

② 子どもが自分の思いを言葉で伝えるとともに、保育士等や他の子どもなどの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること。

③ 絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。

④ 子どもが生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際、絵本や物語に親しんだり、言葉遊びなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること。

➤ 内容⑧および内容の取扱い①②③④と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□テレビやビデオ、スマートホンなどが普及して、子どもがメディアと接触する時間が増えているため、遊びや体験を通して自分の気持ちを伝えるための言葉を獲得する機会が減っている。保育士等は友達と様々な体験ができるような保育を立案し、仲立ちとなる。</p> <p>□家庭で話を聞いてもらえない子どもは、保育所で自分の思いばかりを話し、人の話を最後まで聞けないことが多い。まずは、思いをしっかりと受容することが必要である。</p> <p>□全体に語り掛けても素通りしている様子が見て取れる。別の場で直接、語り掛け、理解を確認していくという別のかかわりが必要になる。</p>	<p>□ゆっくり はっきりと話すことを常に心がけ、子どもの話しにも耳を傾けている。</p> <p>□子どもが気付いたことを表現したり、イメージをもって再現遊びができるような環境を整える。また、イメージが広がるような環境を子どもと共に作っていく。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

○ 内容

⑨絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。

↳ 関連する「内容の取扱い」

③ 絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。

➤ 内容⑨および内容の取扱い③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□劇あそびが成立する適正な人数が必要。</p> <p>□テレビ・パソコン・タブレットの普及により絵本に触れる機会が減っている。</p> <p>□絵本に触れる機会も減り、自分の経験したこ</p>	<p>□密にならないように絵本の時間や座る場所など工夫をして読んでいる。</p> <p>□子どもが気付いたことを表現したり、イメージをもって再現遊びができるような環境を</p>

とをイメージして結び付けることが出来ない。本当に経験したことのみしか頭に入っていない。	整える。また、イメージが広がるような環境を子どもと共に作っていく。
---	-----------------------------------

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

○ 内容

⑩ 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。

↳ 関連する「内容の取扱い」

⑤ 子どもが日常生活の中で、文字などを使いながら思ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさを味わい、文字に対する興味や関心をもつようにすること。

➤ 内容⑩および内容の取扱い⑤と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
□子どもにとって本当に分かりやすい言葉であり、伝え方であるのか、子どもにとって納得のいく内容であるのか、保育士の側に配慮する必要がさらに必要。	□小学校の先生より、独自で文字を書く技術を身に付けると、鉛筆の持ち方や書き順を正すのに時間がかかるとの要望を受けたことがある。就学前にひらがなは習得した方が良いのか？

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

エ. 言葉の獲得に関する領域「言葉」

- A・Bを踏まえて今後必要と考えられる要素
(制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)

- ・仕事だけが理由なのか保育時間が長い子どもが多くなっている。お迎えの時間(保育必要時間や利用できる時間)など明確な制度があるとよい。
- ・保育士の資質の向上のための研修や研修を受けるための体制を構築する。
- ・相手にわかるように話す⇒話す努力をする。なのかな？
- ・言葉の美しさに気付くにはもう少し先かな？保育者が提供する環境の差が激しいような。



- 今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点

i	保育者の専門性の確保 ・「発語」を苦手とする子どもへのコミュニケーション。
ii	配置基準の改定 ・個人の好みに合う事柄が、安価で努力をせずとも手に入る現代において、家庭や地域の関わりは変容している。よって保育施設では、より丁寧な人と関わる機会が必要である。 ○30人に1人の人員配置では、1対1対応をするなら、1時間当たり1人2分となる。 ・自分の思いを言葉で伝えることを苦手とする子どもへは丁寧な関わりと時間が必要である。 ・子どもが発する言葉だけが子どもの思いではない。隠れている思いを引き出すために、一人一人への丁寧な関わりが大切。 ・一人一人に丁寧に関わっている時間は、集団保育はできません。
iii	絵本の取扱い ・コミュニケーションのツールであるが、30人に1人の体制では、難しい点も多い。 ・一人読みについては注意が必要。(WHOの報告書(対話時間の道具として絵本が推奨されている))

オ. 感性と表現に関する領域「表現」

○ ねらい

- ① いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- ② 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- ③ 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

○ 内容

- ① 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

- ① 豊かな感性は、身近な環境と十分に関わる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに出会い、そこから得た感動を他の子どもや保育士等と共有し、様々な表現することなどを通して養われるようにすること。その際、風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色などに気付くようにすること。

- ③ 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、様々な素材や表現の仕方に親しんだり、他の子どもの表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。

➤ 内容①および内容の取扱い①③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 保育士の体験や、興味、関心などが以前に比べて希薄になっているのではないか。 <input type="checkbox"/> 社会の変化から、保育士の生活経験や自然の中で遊ぶ体験などが減っている。子どもの表現や感性に気づき共感するスキルが不足していると感じられる。 <input type="checkbox"/> コロナ禍で、子どもの表現を披露する場が減っている。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> コロナ禍でも様々な味、香り等感じられるように畑やプランターで栽培し、食育にも力を入れている。 <input type="checkbox"/> 園外に出る機会が減ったことで、季節の変化や環境の変化を感じる機会が少なくなった。園内だけでは季節の変化を感じにくいいため、季節のものを飾ったり、図鑑を活用したりしている。 <input type="checkbox"/> 園の内外で体験してきたことが制限され、それによりイメージを膨らませ表現することが困難になっている。 <input type="checkbox"/> 廃材や色紙などの素材を準備していつでも使えるようにしておく。感染防止のために素

	材に応じて消毒をしたり、使用後は手洗いをしたりして衛生が保てるようにしている。
--	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

オ. 感性と表現に関する領域「表現」

○ 内容

② 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 豊かな感性は、身近な環境と十分に関わる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに出会い、そこから得た感動を他の子どもや保育士等と共有し、様々に表現することなどを通して養われるようにすること。その際、風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色などに気付くようにすること。

③ 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、様々な素材や表現の仕方に親しんだり、他の子どもの表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。

➤ 内容②および内容の取扱い①③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 刺激のあるメディアからの情報で、良くないイメージを持ってしまう事がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会の変化から、保育士の生活経験や自然の中で遊ぶ体験などが減っている。子どもの表現や感性に気づき共感するスキルが不足していると感じられる。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍で、子どもの表現を披露する場が減っている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 密にならない遊び方を考え、様々な素材に触れる経験を取り入れたが、以前に比べ回数や時間が減ったように感じる。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍でも様々な味、香り等感じられるように畑やプランターで栽培し、食育にも力を入れている。</p> <p><input type="checkbox"/> 園外に出る機会が減ったことで、季節の変化や環境の変化を感じる機会が少なくなった。園内だけでは季節の変化を感じにくいため、季節のものを飾ったり、図鑑を活用したりしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 園の内外で体験してきたことが制限され、それによりイメージを膨らませ表現すること</p>

	<p>が困難になっている。</p> <p>□ 廃材や色紙などの素材を準備していつでも使えるようにしておく。感染防止のために素材に応じて消毒をしたり、使用後は手洗いをしたりして衛生が保てるようにしている。</p>
--	---

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

オ. 感性と表現に関する領域「表現」

○ 内容

③ 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 豊かな感性は、身近な環境と十分に関わる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに会い、そこから得た感動を他の子どもや保育士等と共有し、様々な表現することなどを通して養われるようにすること。その際、風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色などに気付くようにすること。

② 子どもの自己表現は素朴な形で行われることが多いので、保育士等はそのような表現を受容し、子ども自身の表現しようとする意欲を受け止めて、子どもが生活の中で子どもらしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。

③ 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、様々な素材や表現の仕方に親しんだり、他の子どもの表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。

➤ 内容③および内容の取扱い①②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□ 忙しさの中で、話をゆっくりと聞いてもらえないことがあり、保育所で表出することが難しい子どもがいる。自分が伝えたことが理解され、聞いてもらえるという喜びが感じられるようにすることで、伝えることの喜びが感じられるようにする。</p> <p>□ 社会の変化から、保育士の生活経験や自然の</p>	<p>□ 散歩や戸外遊びを通し、様々な物事に保育士自身が感動して言葉をかけることで、子どもの感性を豊かにできるようにする。</p> <p>□ コロナ禍でも様々な味、香り等感じられるように畑やプランターで栽培し、食育にも力を入れている。</p> <p>□ 園外に出る機会が減ったことで、季節の変化</p>

<p>中で遊ぶ体験などが減っている。子どもの表現や感性に気づき共感するスキルが不足していると感じられる。</p> <p>□コロナ禍で、子どもの表現を披露する場が減っている。</p>	<p>や環境の変化を感じる機会が少なくなった。園内だけでは季節の変化を感じにくいため、季節のものを飾ったり、図鑑を活用したりしている。</p> <p>□園の内外で体験してきたことが制限され、それによりイメージを膨らませ表現することが困難になっている。</p> <p>□廃材や色紙などの素材を準備していつでも使えるようにしておく。感染防止のために素材に応じて消毒をしたり、使用後は手洗いをしたりして衛生が保てるようにしている。</p>
--	--

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

オ. 感性と表現に関する領域「表現」

○ 内容

- ④ 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

② 子どもの自己表現は素朴な形で行われることが多いので、保育士等はそのような表現を受容し、子ども自身の表現しようとする意欲を受け止めて、子どもが生活の中で子どもらしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。

③ 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、様々な素材や表現の仕方に親しんだり、他の子どもの表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。

➤ 内容④および内容の取扱い②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
□コロナ禍で、子どもの表現を披露する場が減っている。	□廃材や色紙などの素材を準備していつでも使えるようにしておく。感染防止のために素材に応じて消毒をしたり、使用後は手洗いをしたりして衛生が保てるようにしている。

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

オ. 感性と表現に関する領域「表現」

○ 内容

⑤ いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。

↳ 関連する「内容の取扱い」

② 子どもの自己表現は素朴な形で行われることが多いので、保育士等はそのような表現を受容し、子ども自身の表現しようとする意欲を受け止めて、子どもが生活の中で子どもらしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。

③ 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、様々な素材や表現の仕方に親しんだり、他の子どもの表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。

➤ 内容⑤および内容の取扱い②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p>□ 社会の変化から、保育士の生活経験や自然の中で遊ぶ体験などが減っている。子どもの表現や感性に気づき共感するスキルが不足していると感じられる。</p> <p>□ コロナ禍で、子どもの表現を披露する場が減っている。</p>	<p>□ 感染対策で玩具を共有して使用することを避けるため、数を見直したり消毒できる素材を選んだりしている。</p> <p>□ 発達に近い、同一年齢の集団であれば、高め合い深まる。しかし、複式の場合それと比べると、深まる経験に差が生まれるように感じる。</p> <p>□ コロナ禍でも様々な味、香り等感じられるように畑やプランターで栽培し、食育にも力を入れている。</p> <p>□ 廃材や色紙などの素材を準備していつでも使えるようにしておく。感染防止のために素材に応じて消毒をしたり、使用後は手洗いをしたりして衛生が保てるようにしている。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

オ. 感性と表現に関する領域「表現」

○ 内容

⑥ 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなど する楽しさを味わう。

↳ 関連する「内容の取扱い」

① 豊かな感性は、身近な環境と十分に関わる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに出会い、そこから得た感動を他の子どもや保育士等と共有し、様々に表現することなどを通して養われるようにすること。その際、風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色などに気付くようにすること。

③ 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、様々な素材や表現の仕方に親しんだり、他の子どもの表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。

➤ 内容⑥および内容の取扱い①③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> ユーチューブの影響で、子どもの好む曲が変化しているように感じる。季節のうたや童謡への関心が薄れている。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会の変化から、保育士の生活経験や自然の中で遊ぶ体験などが減っている。子どもの表現や感性に気づき共感するスキルが不足していると感じられる。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍で、子どもの表現を披露する場が減っている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 飛沫での感染を防ぐため、距離をとって歌ったり 手話を取り入れたり 楽器を変更したり 活動内容を見直す。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍でも様々な味、香り等感じられるように畑やプランターで栽培し、食育にも力を入れている。</p> <p><input type="checkbox"/> 園外に出る機会が減ったことで、季節の変化や環境の変化を感じる機会が少なくなった。園内だけでは季節の変化を感じにくいため、季節のものを飾ったり、図鑑を活用したりしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 園の内外で体験してきたことが制限され、それによりイメージを膨らませ表現することが困難になっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 廃材や色紙などの素材を準備していつでも使えるようにしておく。感染防止のために素材に応じて消毒をしたり、使用後は手洗いをしたりして衛生が保てるようにしている。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

オ. 感性と表現に関する領域「表現」

○ 内容

⑦ かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。

↳ 関連する「内容の取扱い」

② 子どもの自己表現は素朴な形で行われることが多いので、保育士等はそのような表現を受容し、子ども自身の表現しようとする意欲を受け止めて、子どもが生活の中で子どもらしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。

③ 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、様々な素材や表現の仕方に親しんだり、他の子どもの表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。

➤ 内容④および内容の取扱い②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 持ち帰った作品を家庭で共有したり、飾って会話する機会が減っている。</p> <p><input type="checkbox"/> ゲームやテレビ、スマホの普及によりメディア付けになっているため、やりたいという意欲が減ってきている。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍で、子どもの表現を披露する場が減っている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 使用する素材の共有を避けるため、素材の数を見直した。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの作品を保護者に見ていただけるように玄関前に飾ったり、写真にとり配信したりして、親子で会話ができるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 廃材や色紙などの素材を準備していつでも使えるようにしておく。感染防止のために素材に応じて消毒をしたり、使用後は手洗いをしたりして衛生が保てるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 集団の発達や、個別の発達の違いにより、集団活動として取り組むことが難しい場合もある。同一の発達年齢の集団が前提となっているように思う。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

オ. 感性と表現に関する領域「表現」

○ 内容

⑧ 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

↳ 関連する「内容の取扱い」

② 子どもの自己表現は素朴な形で行われることが多いので、保育士等はそのような表現を受容し、子ども自身の表現しようとする意欲を受け止めて、子どもが生活の中で子どもらしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。

③ 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、様々な素材や表現の仕方に親しんだり、他の子どもの表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。

➤ 内容④および内容の取扱い②③と照らした現状の整理

A: 社会の変化の中で達成が困難になっている内容とその理由等	B: コロナ禍において、見直しを行った保育内容や保育環境、現状においても課題となっている事項等
<p><input type="checkbox"/> 絵本離れしており、頭の中でイメージして表現することが難しい。</p> <p><input type="checkbox"/> メディアの中のキャラクターになり切って一人、動きをしている。また、それを好む子が集まって戦いごっこが痛みを伴うことにつながることもある。</p> <p><input type="checkbox"/> コロナ禍で、子どもの表現を披露する場が減っている。</p>	<p><input type="checkbox"/> ごっこ遊びなど再現遊びが楽しめるようにままごとの食材や人形を準備する。使用後は消毒など行う。</p> <p><input type="checkbox"/> 廃材や色紙などの素材を準備していつでも使えるようにしておく。感染防止のために素材に応じて消毒をしたり、使用後は手洗いをしたりして衛生が保てるようにしている。</p>

⇒上記を踏まえながら、自園の状況を振り返ってみましょう。

オ. 感性と表現に関する領域「表現」

- A・B を踏まえて今後必要と考えられる要素
(制度改正(人員配置等含む)や保育所等における工夫等)

- ・ 保育士の資質の向上のための研修や研修を受けるための体制を構築する。
- ・ 体験を通して学びを深める研修。
- ・ 保育士の負担軽減のため、保育体制強化事業(拡充)保育に係る周辺業務を行う人の配置促進。
- ・ 季節の野菜を育て、触ったり嗅いだり大きくなる生長を喜び自然に触れる機会を多く作る。
- ・ 危険がないかしっかり確認した上で、制限しすぎずに今のこの時期にしかできない経験を、衛生管理を十分に行いながら体験できるようにしていく。
- ・ 積極的に散歩に出かけて自然を肌で感じ、感じたことを保育士や友達に伝え、自分と同じ思いや違う思いがあることに気づけるようにする。
- ・ 当園は4・5歳児複式。特に5歳児は機会を見て、単独活動を行う。その場合、3歳児クラスと4歳児が合同となる。5歳児クラスについて毎年12月の状態を見て、必要に応じて独立クラスとして再編成し、共同作業や自ら取り組む活動を増やす。
- ・ 保育環境の捉え方・アニメ等のキャラクターを保育環境に取り入れることの是非



- 今後、指針のねらいや内容の改善に向けて検討が必要だと考えられる視点

i	<p>架け橋プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数量や文字の学びのとりえ方が様々である。架け橋プログラムの映像では、すでに習得して使いこなしている子どもの姿がある。 ・ 習得させる必要があるならば、明記してほしい。
ii	<p>保育者の専門性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おゆうぎ会、絵画展への出展、地域のおまつりへの参加、高齢者施設への慰問、楽器演奏など成果主義にならない関わり方の技術向上が求められる。
iii	<p>これからの時代(society5.0)を生きる子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼い頃から刺激のある映像や音楽にあふれており、さらに個々の好みに特化した情報が手軽に入るため、感性が広がらない環境にある(スマホ育児やYouTubeの影響)。 ・ 幼児期は、保育施設のみがメディア環境から離れ感性の育みを提供できる環境なのかもしれないと捉えると、より丁寧な関わりが求められる。
iv	<p>配置基準の改定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現活動は、特に個別対応が必要な分野。集団での関わり中心になると、強制的であったり、成果主義になってしまう恐れがある。 ・ 30人の個々の思いを表現活動につなげることは、集団指示のみでは困難であるため、少人数とその他とクラス内で活動を分断して取り組むこともあり、その他グループの保育がおざなりになる。 ・ 保育を振り返る時に、「表現」の分野が極端に意見が少ない。現在の配置基準では、保育のねらい及び内容が実践できていない表れなのではないか。

第4章

「中間のとりまとめ」の総括と令和5年度に向けて

「中間のとりまとめ」の総括と令和5年度に向けて

ミレニアム以降、乳幼児の育ちを取り巻く状況は、周産期から、その背景が変容を遂げています。出生数が政府の想定をはるかに超えて減少する著しい渦中において、生殖補助医療（不妊治療）出生児数は、世界先進国の中でトップの数に至っています。また、先進高度医療の進展によって、これまで助からなかった小さな命が助かるようになった恩恵とともに、医療的ケア・発達支援等の特別なニーズを必要とする子どもたちの数も増え続けています。家族の背景も多様化し、ひとり親家庭や外国にルーツをもつ家庭、LGBT（同性婚）家庭など、社会的な支援や理解を必要とする家庭で育つ子どもたちも数少なくありません。

一方で、今回の「中間のとりまとめ」では、人口減少地域において、同世代の仲間との関わりの中で育まれることが期待される「葛藤」や「共感」「協働」など、関係性の発達に必要とされる経験を園生活で保障することが困難になり始めていることが顕在化されておりました。重ねて、デジタル社会の進展によって、乳幼児が情報の受け手に留まる傾向が多く、乳幼児が自己を表現する場、機会や経験が日常から損なわれていることが浮き彫りとなりました。

指針改定から6年。これまでの生活様式や価値観が一変されてしまうような時代にあって「子どもの最善の利益を保障する」ために捉え逃してはならない視点はどこか。生活様式を変化させたことで見えてきた課題と、価値観を転じることで見えてきた本質は何か。

令和4年度「中間のとりまとめ」には、既存の制度や指針への建設的な示唆と実践知が含まれた貴重な知的財産がまとめられております。子どもの最善の利益の保障に向けて、子どもを取り巻く事象に科学的根拠を照らし合わせながら、社会の変化に対応する保育内容の構築に向けて更なる検討を重ねていくことが望まれます。

社会の変化に対応しゆく保育内容の構築に向けて

保育者は、教育と福祉の専門家として、子どもをよく観察し、子どもの興味・関心・特性を理解し、不足に事態を想定しつつ「最善の判断」を重ねながら保育を構築しています。この保育者の「判断」と実践（行動）は根拠（専門知識・実践知）によって支えられています。ゆえに、社会の変化に応じた保育内容の構築にあたっては、保育士自身の専門知識を、折々にブラッシュアップさせていくことが何よりも肝要といえます。

これからを生きる子どもたちに必要な資質・能力について、京都大学の明和政子教授は『「就学前のこどもの育ちに係る基本的な指針」に関する有識者懇談会』の中で、以下を明示しています。

- ① 発達初期における特定の他者との安定的なアタッチメント形成
- ② 身体を健康を土台とした脳と心の発達の保障

- ③ 食生活習慣（食育）を中心とする環境の保障
- ④ 脳の前頭前野の顕著な発達を支える環境の保障
- ⑤ 先を見通して自制心を携えながら行動することができる力の育成
- ⑥ 他者の立場や心情に思いを巡らせ理解する力の育成
- ⑦ 他者への思いやりある行動ができる力の育成
- ⑧ 多様な他者と触れ合う日常の保障
- ⑨ 体を使った体験の強化

既存の専門知識と共に、これら発達科学的な視点をもつ、子ども子育てに対する包括的な視点と実践力を携えた人材の育成は、社会の変化に対応しゆく保育内容の構築と質維持の幹となります。

園における人材育成の要は主任（主幹）です。しかしながら、主任専任配置については、依然、園や自治体によって配置基準の異なりがあるなど、その役割と資質が、普遍的ではありません。本とりまとめでは、主任保育士・主幹保育教諭の担う業務は膨れ上がる傾向にあり、量と質の整理が急務であることと、保育の質を維持・人材育成を目的とした主任必置を望む声が多く挙がっておりました。これら、主任の役割と資質の明確化については、特別委員会として、令和5年度に実状調査を基に継続審議を進めていく予定です。

社会全体で子育てを支える「かかりつけ相談先」として

地域や子ども家庭支援の一環としての「かかりつけ相談先」は、社会全体で子どもの最善の利益を保証するシステムとしての価値が大きく、そこを担う教育と福祉の専門家である保育士に大きな期待がかかっています。

産後や子育て期は、生活、人間関係、体調など、あらゆる変化を受け、それまで隠れていた個人や家族の問題が現れてくる時期であるといわれています。しかしながら、ときに支援を必要とする時期でありながらも、支援を求める行為・行動に至れない保護者は少なくありません。この時期は、当事者の日常に即した具体的な支援が必要であり、相談先が身近に在ることが、虐待を未然に防ぐ何よりも重要な要素となります。

併せて、出生数の著しい減少により、育児期家族は、育児モデルや共同養育者の獲得に困難をきたしています。育児モデルや共同養育者の欠落は、育児不安・育児困難を高め、不適切な養育、虐待のリスクを高めることがわかっています。ゆえに、子どもが育つモデルがあり、子どもの専門家がいる保育所は、身近な地域で育児モデルと共同養育者に触れることができる最後の砦ともいえます。

保育士は、子どもや保護者の生活の傍らで、生活に添いながら、子どもを中心とした生活への手立てを支援することができる専門家でもあります。そして、福祉とは、ひとり一人のウェルビーイングを支援することにほかなりません。

保育士は、子どもの専門家としての使命を担いながら、家族のウェルビーイングを保障する専門家として、その役割が益々求められていくと確信しています。

その、子ども家族のウェルビーイングを伴走していく専門家集団として、質の保障と維持のために、提言を重ねていけるよう、更なる調査と議論を継続していきたいと思えます。

最後に、日本の近代幼児教育の父、倉橋惣三氏の言葉「生活を生活で生活へ」と記し、未来への総括とさせていただきます。

2023年3月





社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会
委員 榊原 久子（鎌倉女子大学）



卷末資料



特別委員会での検討に関連する国の資料等

「保育所における自己評価ガイドライン」（令和 2 年 3 月） ／厚生労働省	
「保育所における自己評価ガイドラインハンドブック」（令和 2 年 3 月） ／厚生労働省	
「保育の現場・職業の魅力向上検討会」報告書（令和 2 年 9 月） ／厚生労働省	
「地域における保育所・保育士等の在り方に関する検討会」 取りまとめ（令和 3 年 12 月） ／厚生労働省	

全国保育士会

社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会

(敬称略/五十音順)

出井 真治	全国保育協議会 常任協議員 /山口県 たぶせ保育園 園長
笠置 英恵	全国保育士会 副会長 /京都府 今里こども園 園長
北野 久美	全国保育士会 副会長 /北九州市 あげぼの愛育保育園 園長
黒沢 のぞみ	全国保育士会 委員 /青森県 チャリティー第一保育園 園長
榊原 久子	鎌倉女子大学 准教授
◎ 那須 信樹	中村学園大学 教授
服部 明子	全国保育士会 副会長 /千葉県 府馬保育園 園長
平野 理江	全国保育士会 常任委員 /福岡市 大井保育園
村松 幹子	全国保育士会 会長 /静岡県 たかくさ保育園 園長

◎=委員長

全国保育士会
社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会
「中間のとりまとめ」について

令和5年3月
社会福祉法人 全国社会福祉協議会 全国保育士会

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル
TEL. 03-3581-6503/FAX. 03-3581-6509
E-mail info@z-hoikushikai.com
ホームページ <https://www.z-hoikushikai.com/>

全国保育士会
社会の変化に対応した保育内容等に関する特別委員会
「中間のとりまとめ」について

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 全国保育士会